

鹿児島高専だより

第 70 号

平成28年 3 月

〈特集〉 地方創生と産学官連携に関する取組



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校

目 次

校長室から

相手の立場に立ってものを考える技術者 … 1

特 集

オール鹿児島によるCOC+事業 …… 2

地方創生と産学官の取り組み …… 2

教務だより

アクティブラーニング事始め …… 8

共同教育とインターンシップ …… 9

1、2年生の数学の補習について ……10

FD活動について ……11

平成27年度一日体験入学 ……11

平成27年度一年生集団研修報告 ……12

学生だより

ご挨拶とお願い ……13

学生の皆さんへ ……13

文化祭を終えて ……14

体育祭を終えて ……15

都城・鹿児島高専親善試合結果 ……16

第52回（平成27年度）九州沖縄地区国立

高等専門学校体育大会等 結果一覧 …18

学生表彰者リスト ……20

志学寮だより

学びて思わざれば… ……21

寮生会より ……21

一年生集合自習 ……22

学寮チュートリアル ……23

舎監 山崎さんのご退職 ……24

新着任のあいさつ ……24

就任のご挨拶 ……25

就任のご挨拶 ……25

専攻科だより

専攻科について ……26

国際学会ISTS2015に参加して ……27

大分高専から鹿児島高専専攻科に入学して …28

海外インターンシップに参加して ……28

海外学生交流に参加して ……29

長岡技術科学大学でのインターンシップ

を終えて ……30

専攻科に入学を決めてから ……30

地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンター報告 ……31

KTC会員企業アルバック九州（株）訪問 …31

かごしまITフェスタ2015 ……32

学生何でも相談室だより

新1年生との面接を終えて（田中先生） …33

教職員研究活動

宇宙の天気予報と高専からの情報発信 …34

噴流の拡散制御に関する研究 ……35

次世代エネルギーとその応用に関する研究 …36

ベルギーでのEUSPEN2015に参加して …37

卒 業

卒業に寄せて ……38

贈る言葉 ……38

高専生活を振り返って ……39

高専での5年間を振り返って……40

高専生活のすゝめ ……40

卒業にあたって ……41

未来へ向かって ……41

東大インターンで学んだこと ……42

専攻科修了にあたって ……43

専攻科を修了するにあたって ……43

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の

就職・進学一覧 ……44

教職員の動向

新任のご挨拶 ……47

新任のご挨拶 ……47

新任のご挨拶 ……48

新任のご挨拶 ……48

鹿児島高専での教育・研究と企業人材

育成・地域貢献 ……49

定年退職にあたって ……49

定年退職にあたって ……50

鹿児島高専の43年間 ……51

平成27年度教育研究功労者及び

教育研究奨励賞表彰 ……52

内門博昭氏に感謝状を贈呈 ……53

9高専連携事業について

9高専連携におけるグローバル化推進事業

……54

海外渡航報告書 ……55

国際交流だより

本校における国際交流事業 ……57

平成27年度海外研修旅行計画 ……58

タイ研修報告書 ……59

海外研修を終えて ……60

フランス研修を終えて ……60

広報委員会だより

平成27年度の広報委員会の活動について …62

ニューライフカレッジ霧島について …63

同窓生だより

熊本大学大学院に入学して ……64

夢を信じた就職活動 ……64

在校生の皆さんへ ……65

新人研修をすごして ……66

鹿児島高専を卒業して ……66

在校生の皆さんに伝えたいこと ……67

大学院進学で感じたこと ……67

在校生の皆様へ ……68

後援会だより

御挨拶 ……69

高専生生活10年間のお礼として ……69

「最大多数の最大幸福」 ……70

鹿児島高専を選んで良かった ……70

目標を持って、いろんな経験を ……71

新しい目標に向けて真っ直ぐに ……71

行事予定

平成28年度 行事予定表 ……72

【表紙の説明】

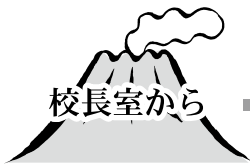
①写真上左：地方創生シンポジウム

②写真上右：地方創生特別講座

③写真下左：地域企業見学

④写真下右：地域企業研究会





相手の立場に立って ものを考える技術者

校長 丁子 哲治

表題とした、「相手の立場に立ってものを考える技術者」は、鹿児島高専の学習・教育到達目標の一つです。本校学生なら、皆が知っているはずです。技術とは、世界の人々を幸福にするものでなければならぬと考えると、本校の4つある学習・教育到達目標の中でも最も重要な項目と言っても良いと思います。

さて、本原稿を執筆中に、「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、金星探査機「あかつき」の金星周回軌道投入のため、姿勢制御用エンジン噴射を平成27（2015）年12月7日8時51分（日本時間）から実施しました。」との報道がありました。広い宇宙で針の穴を通すような精密な技術が要求される事業は、一朝一夕に達成できるものではないことは言うまでもないことです。報道によれば、女性技術者が2年がかりで綿密に計算した結果に基づいてエンジン噴射がコントロールされたとのこと。「あかつき」も、これまで何度も困難を乗り越えてきた経緯があったようですが、宇宙において極限の困難を乗り越えて地球に帰還したことでよく知られている代表例は、アメリカの「アポロ13」と日本の「はやぶさ」でしょう。これらは、想定外の事故に対して限られた条件の中で持てる能力を発揮して帰還させた例「アポロ13」と、あらゆる最悪を想定して周到な準備のもとでいくつもの困難を乗り越えて帰還させた例「はやぶさ」です。

技術の進歩には想定外による事故がつきものですが、技術者の真価が問われるのは、どこまでを的確に想定するか、でしょう。このことを適切に認識していれば、その技術が原因として起こる事故を未然に防ぎ、また対処することができ、「想定外」と言わずに済むことになります。

技術が起因する事故や環境問題が繰り返し起こさない

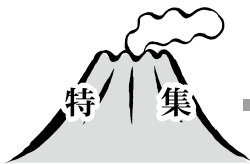
ようにするには、その事業を止めてしまう方法が古からあります。ヨーロッパでは中世、わが国では江戸時代までがそうです。これでは、技術は停滞や衰退が起こり、また継承もされないために、忘れた頃に同じような事故や環境問題を繰り返すことになります。その後、技術による利便性や経済などが優先されるようになると、多少のリスクはありながらも当該技術を推し進めることになりますが、今度は、技術の規模が大きくなり、やがては想定外が頻発することによって、より大きな事故や公害・環境問題の発生に繋がっていきます。しかし、今日では、人に幸福をもたらすはずの技術が、その逆にならないようにするために、事前にいろいろな想定をし、それに対して配慮をすることが、開発担当の技術者に求められるようになりました。

それでは、将来起こりそうな事象についていろいろ想定するにはどうすればよいのでしょうか。そのためには、先ず過去の時系列を理解することが必要です。50年後を想定する場合には、50年前から現在までどのように変化してきたか。100年後を想定するには100年前を理解しておくということです。100年前は、桜島が大正大噴火を起こし大隅半島と桜島が地続きになったことは鹿児島県ではよく知られています。約50年前に鹿児島高専が創立しましたが、東京オリンピックが開催されたときでもあります。もっと直近の20年前でも随分と現在とは違いがあります。鹿児島高専も20年前以前とその後とは大きな変革をしています。これを若い学生諸君が理解することは俄かには困難かもしれませんが、是非努力してもらいたいものです。

次に、空間の広がりを理解することも想定範囲を広げることにつながります。例えば、数人の家族のことはよく理解できていると思います。では、40人程度のクラスメートはどうでしょうか。本校の1000人以上の学生はどうでしょうか。鹿児島県の160万人以上の人口では、知人と言える人がどれくらいいるのでしょうか。ましてや、日本の人口1億3000万人や、さらに東アジア・東南アジアの21億人となると途方もない人々になります。しかし、今日はこのような多くの人々を理解し、想定しなければならぬ時代になってきています。

ここで、もう一度本校の学習・教育到達目標である「相手の立場に立ってものを考える技術者」について考えてみましょう。この目標の意味は、社会的責任、多様な価値観の理解、チームワークによる協働等です。このことをよく理解するには、自分のことばかりではなく、人の気持ちを思いやる力が必要です。さらに、もっと広い世界を俯瞰できる力が必要です。狭い専門の知識だけではなく、幅広い教養を学ぶ人間力が必要です。

以上のことは、若い学生の時から実践しなければなりません。そのために地域の協力があり、保護者の見守りがあって、世界に羽ばたく夢ある学生のための鹿児島高専があります。



オール鹿児島によるCOC+事業

地域共同テクノセンター長
電子制御工学科 植村 眞一郎

本年度に入り、ニュースや新聞などで「地方創生」という言葉が頻繁に見聞きするようになりました。地方での少子高齢化や人口減少が進む中、卒業生を地元就職させ、地方を活性化させる動きが盛んになっております。その様な中、文部科学省が公募した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、鹿児島大学を中心として、県内7大学・短期大学及び鹿児島高専が連携して、このCOC+事業に「食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム」というテーマで応募し、採択されました。鹿児島県、地域産業界、金融機関等と協働した「オール鹿児島」により、魅力ある地域の食と観光関連産業等における新規雇用の創出と雇用の拡大を図ることを目的としています。本校としては、「COC+高専」事業として取り組みを推進し、地域企業の技術者の方を講師として招き、講義や技術指導を実施したり、また見聞を広める企業見学を複数実施しております。本校の産学官連携組織であるKTCの会員企業にご尽力いただき、また、霧島市や日置市をはじめ、各地方自治体とも協働で本事業に取り組んでおります。

また、関連して教職員のKTC会員企業見学やKTC会員企業の企業パンフレットの作成、KTC会員企業による企業紹介など、学生・教職員及び企業のニーズにマッチした事業を積極的に取り組んでおります。

このように「地域に技術で貢献」を合言葉に、KTC会員企業との更なる連携を深めながら、COC+事業においても地域共同テクノセンターを中心としてより活発に行っていく所存ですので、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



写真1 地方創生シンポジウムの様子

地方創生と産学官の取り組み

地域共同テクノセンター副センター長
電気電子工学科 楠原 良人

1. 政府の地方創生事業の概要

政府は、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、平成27年度から各省庁ごとに地方創生事業を計画、推進している。国立社会保障・人口問題研究所の統計調査による「日本の将来推計人口」を図1に示す。これによれば、日本の人口は2008年の12,808万人をピークに下がり始め、2013年には12,730万人まで下がっている。2015年10月には国勢調査が行われており、更に、減少していると考えられる。

将来予測として、現状、何も対策を講じなければ、日本の人口は1億人を割り、2060年には8,674万人まで減少すると予測されている。これを防止するために、政府は、「我が国の人口の推移と長期的な見通し」の中でこの減少傾向に歯止めをかけ、2060年に10,194万人まで押し戻すために、各省庁に様々な地方創生事業の推進を行うよう指示し、その対策を計画し、実施するよう指導している。

政府の具体的な基本目標は以下の4項目である。

＜目標Ⅰ＞地方における安定した雇用を創出する

＜目標Ⅱ＞地方への新しいひとの流れをつくる

＜目標Ⅲ＞若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

＜目標Ⅳ＞時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

特に高等教育機関の地方創生事業の中心となる“目標Ⅰ：地方における安定した雇用を創出する”においては、「しごと」と「ひと」の好循環作りとして、以下のような具体的な目標を掲げている。

・地域産業の競争力強化（業種横断的取組）

包括的創業支援、中核企業支援、地域イノベーション推進、対内直接投資促進、金融支援

・地域産業の競争力強化（分野別取組）

サービス産業の付加価値向上、農林水産業の成長産業化、観光、ローカル版クールジャパン、ふるさと名物、文化・芸術・スポーツの支援

・地方への人材還流、地方での人材育成、雇用対策

「地域しごと支援センター」の整備・稼働、「プロフェッショナル人材センター」の稼働

これらの目標の中で、より具体的に推進する目標値（KPI：Key Performance Indicator、重要業績評価指標）として、表1のように具体的な到達目標KPI値を掲げている。

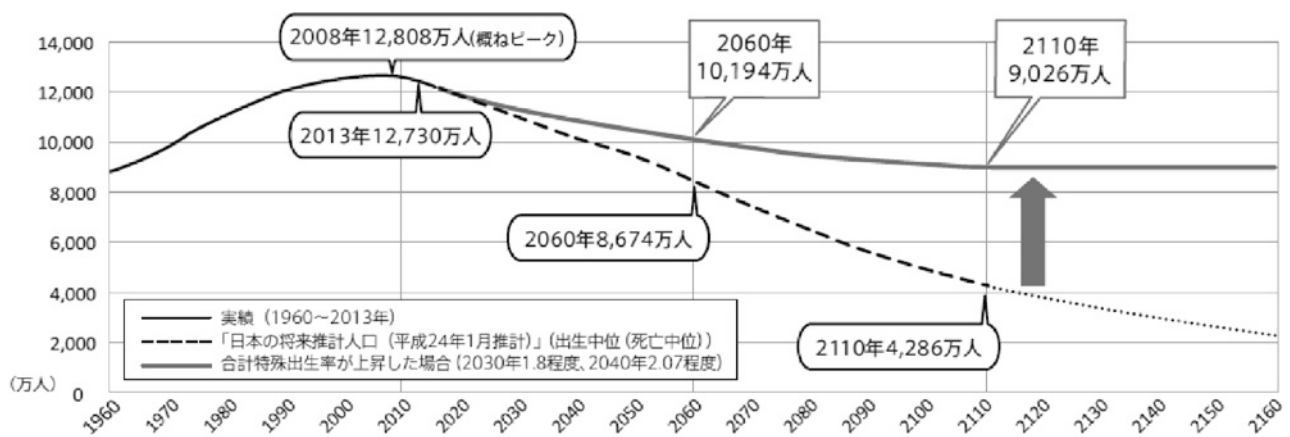


図1 日本の将来推計人口（平成24年1月推計）（出典：国立社会保障・人口問題研究所）

表1 政府の到達目標

(i) 農林水産業の成長産業化
6次産業市場10兆円：就業者数5万人創出、地域の中核企業、中核企業候補1,000社支援：雇用数8万人創出
(ii) 若者雇用創出数（地方）
2020年までの5年間で30万人
(iii) 若い世代の正規雇用労働者等の割合
2020年までに全ての世代と同水準：15～34歳の割合：92.2%、全ての世代の割合：93.4%
(iv) 女性の就業率2020年までに73%
(v) 企業の地方拠点強化
拠点強化件数7,500件、雇用者数4万人増
(vi) 地方大学等活性化
自県大学進学者割合平均36%

2. 文部科学省の地方創生事業（COC+）

このような政府の地方創生事業の背景の中、文部科学省は、平成27年度大学等高等教育機関教育再生戦略推進として、地方で活躍する人材の育成や産業の活性化、地方が果たすべき役割として、各大学等高等教育機関の強みを生かした大学等高等教育機関の機能別分化を推進することとしている。特に図2に示すように、COC+（Center of Community Plus）大学と事業協働地域の機関が協働し、地域が求める人材を育成し、若年層の地元定着を推進地方再生・活性化の拠点となる大学等高等教育機関の形成に取り組んでおり、市町村の自治体、NPO法人、商工会議所などの民間団体や一般企業と協働して、魅力ある就職先を創出・開拓するために「地（知）の拠点大学」による地方創生推進事業（COC+）を行うことを決定し、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学等高等教育機関の取組を支援

することで、地方創生の中心となる“ひと”の地方への移動を目的として事業を遂行するとしている。文部科学省は、COC+の地方創生における大学等高等教育機関の具体的なカリキュラムの改革として、次の目標を掲げている。

（i）全学的に定められた入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、各学科で定める各方針に反映されていること。また、その内容がホームページ等で公表されているとともに、各学科のカリキュラム編成等に反映されていること。

（ii）全授業科目においてシラバスが作成され、かつその内容として科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されていること。

（iii）学科で教育を行う全専任教員を対象として、教育技術向上や認識共有のためのFDが実施されていること。以上を踏まえ、大学等高等教育機関には、以下の目標を示している。

- ・地域特性の理解（地域志向科目の全学必修）を目標。
- ・専門的知識の修得と地域をフィールドとする徹底した課題解決型学修による地域理解力と課題発見・解決能力の修得等を目標。

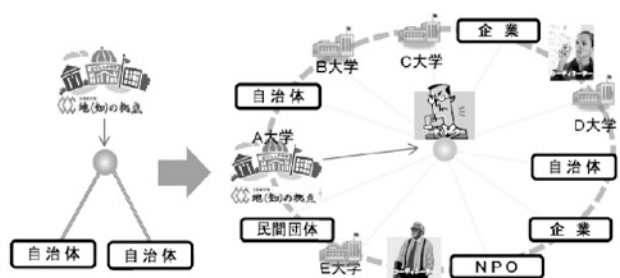


図2 COC+事業の概要図（出典：文科省COC+説明資料）

さらに、地方公共団体・自治体・企業等には、大学等高等教育機関と協働して以下を支援するよう求めている。

- ・実務家教員の派遣を行う。
- ・財政支援を行う。
- ・フィールドワークやインターンシップ、PBL等を実施するための場の提供を行う。

以上を踏まえ、具体的なCOC+事業の流れとして図3に示すような流れに従って、最終目標である、地方における「就職率の向上」と「雇用創出」を行えるよう目標値を掲げて実施するよう求めている。その流れは、まず、事業協働地域の産業活性化、人口集積を推進するため、大学群、自治体、企業等の課題（ニーズ）と資源（シーズ）の分析を行い、これを踏まえた雇用創出・就職率向上の目標値を設定し、地域が求める人材養成のための教育プログラムを実施するために必要な人的・物的資源の把握した上で、教育プログラムの構築・実施を行うよう求めている。

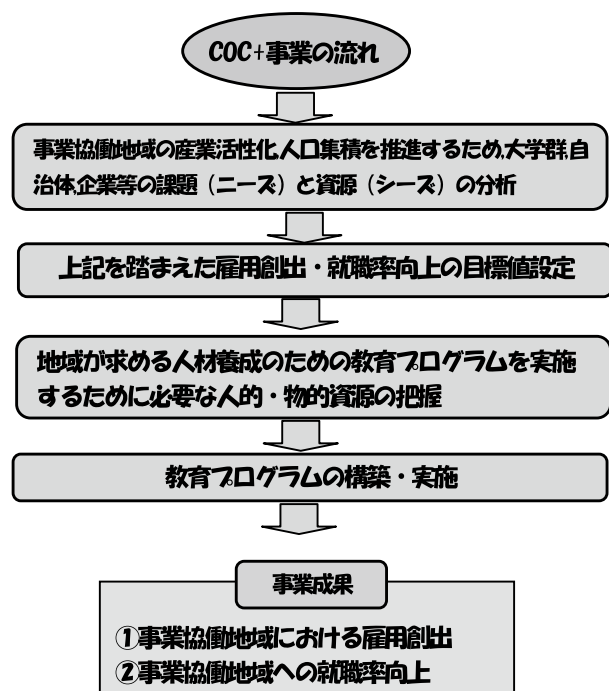


図3 COC+事業実施の流れ

3. 鹿児島における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の概要

鹿児島県域における人口動態は、昭和34年の204.4万人をピークに徐々に減少し、平成26年には166.9万人でその内、18歳～22歳の若年人口は71,840人少なく人口自体は、55年間で37.5万人減少しており、平成52年には、131.4万人まで落ち込むと予測されている。この減少を補正するために高等教育機関が産学官一体となって、若者を地元に残すための工夫をするための必要性から県内の主要な高等教育機関がCOC+事業を実施することとなっている。

鹿児島県におけるCOC+事業は、鹿児島大学を拠点校として、5大学（鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学）、2短大（鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学）と鹿児島高専の8高等教育機関で構成される組織で、COC+事業を推進するよう構成している。自治体として鹿児島県、金融機関として鹿児島銀行、14の企業等で組織されている。それぞれの役割として高等教育機関は表2の役割を担うことになっている。

表2 県内教育機関の役割

- ①地域の求める人材の育成
- ②企業への学生就学能力提供
- ③共同研究や委託研究の推進
- ④インターンシップ参加促進
- ⑤地元企業の魅力発信
- ⑥就業者へのリカレント教育
- ⑦成果発信と高校生への広報

さらに、地元定着促進プログラムのコンセプトとして、以下のことを挙げている。

- ・地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ・参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ・地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進

表3 各校の具体的な事業目標である事業協働地域就職率

	鹿児島大学	鹿屋体育大学	鹿児島国際大学	志学館大学	第一工業大学	鹿児島県立短期大学	鹿児島女子短期大学	鹿児島工業高等専門学校
平成26年度就職者総数[人]	1,166	145	571	238	224	177	443	135
平成26年度県内就職者数[人]	461	9	407	180	43	145	408	22
平成26年度県内就職率[%]	39.50%	6.20%	71.30%	75.60%	19.20%	81.90%	92.10%	16.30%
平成31年度県内就職率[%]	50.00%	16.20%	83.00%	83.00%	24.20%	85.00%	93.10%	28.10%
増加率[%]	10.50%	10.00%	11.70%	7.40%	5.00%	3.10%	1.00%	11.80%

各校の具体的な事業目標である事業協働地域就職率は表3のように掲げており、事業協働地元就職率を平成26年度54.0%に対して、平成31年度は7.5%増の61.5%を目標とすることになっている。

これによれば、鹿児島高専は、平成26年度県内就職率16.3%で人数にして22人で各科平均4人となる。これを平成31年には、県内就職率28.1%が達成目標で、人数にして38人、各科平均7～8人まで持ち上げて行く必要がある。

4. 鹿児島高専における地方創生事業の取り組み

これを受けて、本校は地域共同テクノセンターを中心に、地方創生事業に関して、人口減少による産業力、経済力の低下は大きな課題になっており、地場企業の競争力強化、地方における人材還流、人材育成、雇用対策が急務となっています。若年技術者を育成・雇用し、どのようにすれば地域が活性化するかをディスカッションとシンポジウムを企画し実施した。

4.1 パネルディスカッションとシンポジウム

【パネルディスカッション】

○5月22日

地方創生パネルディスカッション

場 所：本校

講 演：鹿児島経済研究所福留一郎氏

テーマ：人口減少と地方創生

パネラ：KTC会員企業3社、霧島市役所



写真2 福留一郎氏による基調講演

【シンポジウム】

○8月31日：地方創生シンポジウム 於：ホテル京セラ

講 演：小里泰弘内閣府副大臣

テーマ：鹿児島における地方創生を考える

パネラ：霧島市長、日置市長、校長、KTC会長、
KTC顧問



写真3 地方創生パネルディスカッション



写真4 地方創生シンポジウム

4.2 特別講座と施設見学

4.2.1 特別講座

鹿児島県内で技術展開している企業・公的機関から有識者、技術者を招聘して、学生に地元企業による技術講演、ゼミ指導、施設見学、体験学習などを実施し、県内企業を理解してもらうための「特別講座」を設け、地元就職率向上を狙うために行う。さらに、この「特別講座」は、現在本校カリキュラムにおいて電子制御工学科に組み込まれているが、年度計画で順次各学科に組み込んでいき、KTC会員企業の協力を頂いて将来的には寄付講座として整備開講する予定である。

4.2.2 施設見学

特別講義と平行して、実際の地元企業現場を見学し、体験学習などを通して直接肌身で体験し、企業の実情を知り、地元企業を知ることは、学生にとってとても重要な体験であり学習である。従って、これもKTC会員企業の協力を頂き工場見学を実施した。本年度において計画・実施した特別講義と工場見学を表4に示す。

表4 本年度の「COC+事業」の取り組み一覧

「COC+事業」に関する鹿児島高専の取組み

H28.2.15

No	日 時	場 所	企業・講師等	対象学科等	備 考
1	2015/8/31(月) 13:30～17:00	ホテル京セラ 地方創生シンポジウム2015	・基調講演:小里 泰弘氏 ・パネルディスカッション	企業・自治体・学校・一般市民	自主事業
2	2015/11/5(木) 10:30～12:00	鹿児島高専 中会議室 (地方創生推進会議設立準備委員会)	・霧島市、日置市、高専		
3	2015/11/18(水)	鹿児島高専 共同研究・受託研究室	(株)YPK 開発部 岩田 保 氏	電気情報システム工学専攻1年	講義・講演
4	2015/11/20(金)	鹿児島高専 テクノセンター2階	(株)YPK 開発部 岩田 保 氏	電気電子工学科 (楠原研究室)	ゼミ形式
5	2015/11/26(木)	鹿児島高専 椎研究室	名古屋大学 研究員 岡村 鉄兵 氏	機械工学科 (椎研究室)	ゼミ形式
6	2015/11/27(金)	鹿児島高専 機械工学科5年教室	名古屋大学 研究員 岡村 鉄兵 氏	機械工学科5年	講義・講演
7	2015/12/8(火)	鹿児島高専 電気電子工学科2年教室	(株)A・R・P 経営統括本部長 小宮 正 氏 他	電気電子工学科2年	講義・講演
8	2015/12/11(金)	鹿児島高専 電気電子工学科5年教室	(株)A・R・P 経営統括本部長 小宮 正 氏 他	電気電子工学科5年	講義・講演
9	2015/12/22(火) 10:30～12:00	鹿児島高専 中会議室 (第1回地方創生推進会議)	委員		
10	2016/1/14(木) 8:35～16:05	各KTC会員企業 (1年生地域企業見学会)	KTC会員企業10社	本科1年生(200名)	企業見学 大型バス5台
11	2016/1/14(木)	鹿児島高専 第一体育館 (高専生のための地域企業研究会)	KTC会員企業16社	本科4年生、専攻科1年生(200名)	研究会
12	2016/1/26(金)	鹿児島高専 中会議室 (第2回地方創生推進会議)	委員		
13	2016/2/17(水) 14:30～15:30	パナソニックデバイス SUNX九州(株)	パナソニックデバイス SUNX九州(株)	電子制御工学科3年	工場見学 大型バス1台
14	2016/2/17(水)	鹿児島高専 機械工学科3年教室	(株)YPK 今重 善宏 氏	機械工学科3年	講義・講演
15	2016/2/17(水) 10:30～12:00	鹿児島高専 中会議室 (第3回地方創生推進会議)	委員		
16	2016/2/17(水) 15:00～16:00	霧島木質発電(株)	霧島木質発電(株)	電気電子工学科2年	工場見学 大型バス1台
17	2016/2/18(木) 12:55～14:25	鹿児島高専 情報工学科3年教室	(株)ペルテ 代表取締役社長 石塚 安弘 氏	情報工学科3年	講義・講演
18	2016/2/18(木) 14:35～16:05	鹿児島高専 情報工学科2年教室	(株)ペルテ フェニックスセンター 碓山 晋吾 氏	情報工学科2年	講義・講演
19	2016/2/18(木) 12:55～14:25	鹿児島高専 電子制御工学科4年教室	(株)キラ・コーポレーション 鹿児島研究所G長 松元 健太 氏	電子制御工学科4年	講義・講演
20	2016/2/24(水) 12:55～16:05	しらさぎ橋(霧島市隼人町) みゆき生コン工場(霧島市国分)	鎌田建設(株) (株)ガイアテック	都市環境デザイン工学科2年	工場見学 大型バス1台
21	2016/2/25(木) 9:00～16:30	始良市文化会館「加音ホール」 (卒業研究発表会)		情報工学科5年	大型バス2台
22	2016/3/16(水) 13:30～16:00	鹿児島高専 中会議室 (第4回地方創生推進会議、評価会議)	委員		

4.3 「COC+高専」地方創生推進会議

このCOC+事業は、鹿児島全体で取り組むと共に、本校が掲げた目標達成のために、独自の取り組み推進していかなければならない。それには地域共同テクノセンターが中心となって企画し、実施していくこととしている。さらに地方創生という言葉からも教育機関だけでなく、霧島市などの地方自治体、そして地元企業が連携して取り組まなければ実効ある成果は出ない。そこで、本校の地域共同テクノセンター長、また本校と協力協定を結んだ霧島市および日置市をはじめとし、KTC会員企業代表のKTC会長、双方の商工会議所等の代表からなる「COC+高専」地方創生推進会議（以下、推進会議と呼ぶ）を設立し、これまで4回の会議を行った。そこでは、主に学生を地元に着定させるための仕組みについて協議している。まずは、本校学生および保護者へアンケートを実施し、地元に着職することの意識を調査した。また併せて、企業に対しても企業でのインターンシップ受入、採用計画などの意識調査アンケートを実施した。地元着定するためには、地元企業のPRと学生に対する地元企業でのインターンシップの機会提供は欠かせない。推進会議では、これらのことについて協議しているが、自治体および企業も一緒になって議論し、種々の案件を協議することは、問題点を共有しその解決に向けてベクトルを揃える意味で、大変価値のあるものと捉えている。

5. まとめ

地方創生という大きな枠組みで進み始めたCOC+事業であるが、そもそもは大都市一極集中を是正し、地方を活性化しなければ地方の発展、ないしは日本のバランスの取れた発展はない。その意味では大変スケールの大きい事業であるが、特に大都会から離れた鹿児島にとっては、是非とも霧島市、日置市から地方創生を果たし、地元の活性化に貢献し地元から必要とされる高専でなければならないと考える。若者が大都会にあこがれる気持ちもわからないではない。しかし、この事業を通して学生が地元をもっと知り、鹿児島の発展に貢献したと思う学生が徐々に増えていくことを期待したいし、本校としては、将来鹿児島の産業、製造業をリードする技術者を育成することが我々に課せられた課題でもあると思う。



アクティブラーニング事始め

教務主事 須田 隆夫

教務委員会は、時間割編成などの裏方仕事から数学補習、インターンシップなどの教育支援、さらには公開講座など地域との連携活動まで、非常に多くの業務を担っています。この中のいくつかの活動は、この項の後で担当主事補から報告されています。ここでは近年の高専を取り巻く状況から、特に本年度から力を入れていることについて述べることにします。

1. 高専教育が目指すところ

約半世紀前の高専設立から、現在の社会は大きく変化しています。平成26年度に国立高専全体の「使命（ミッション）の再整理」が行われました。ちょっと難しいですが以下に引用します。

「専門的かつ実践的な知識と世界水準の技術を有し、自律的、協働的、創造的な姿勢でグローバルな視点を持って社会の諸課題に立ち向かう、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成」

簡単に言ってしまうと、以下の2つがキーワードです。

- ・グローバル化への対応
- ・イノベーションを生み出せる創造性

実は、これは現在の教育界全体のキーワードでもあります。技術者の場合なら、世界のさまざまな状況を知り、世界の人々の求めるものを考え出し、これまでにない新たなモノを作り出すことができる能力、ということになるでしょう。

多くの企業でも、これまでは「専門知識が身につけて」「まじめで、やり抜く根性」が評価されましたが、現在では「課題を発見する能力」「チームワーク力」「広い分野の知識」などが望まれるように変化してきています。

このような力を学生諸君に着けてもらうにはどうすればよいか。そのようなことから本校では以下の取組を始めています。

2. 今年度の取り組み

＜アクティブラーニング＞

日本の学校教育の中では、今アクティブラーニングが強く叫ばれています。和訳すると「能動的学習」です。講義を一方的の聞くだけの授業から、そこで問題を解いたり、議論をしたり、発表をしたりすることが求められています。本校では、先生の講義を聞いて、板書をノートにとるという、昔ながらの授業がまだまだ多いですが、

授業の段階から「考えて、応用する」方向へ、変えていこうと呼びかけています。そのため、本年度は、教員向けの研修を3回実施しました。（うち一回は都城高専での研修会をネット配信で受信）

アクティブラーニングと言うと、机を寄せ合わせてグループ学習や討論をイメージする方もおられるでしょうが、学生全員にYES、NOを質問したり、演習問題を解かせたり、学生同士で教え合ったり、といった「先生から一方的でない授業のやり方」全てです。（居眠りできない授業、とも言えます）

＜授業力アップアクティビティ＞

研修会に参加しただけでアクティブラーニング型の授業ができる訳ではありません。先生方に意識してもらい授業改善を行うため、自分の授業をアドバイザーの先生に参観してもらって、問題点を指摘してもらう活動を始めました。これが「授業力アップアクティビティ」です。

本年度は試行的に一般科目文系、理系と専門学科で1名ずつ7名の先生方に実施してもらいました。来年度以降は、改善点を明確にしていくことや、うまくいったことを教員全員で共有するなど、活動を広げていく予定です。

＜基礎学力の向上と勉学への意識付＞

学生自ら学ぶためには、やはり基礎学力は重要です。アクティブラーニングと基礎学力をつける活動は、車の両輪と言えます。理系では低学年の数学が非常に重要なのは言うまでもありません。このようなことから、昨年度から始めました1,2年生の数学補習を今年度も実施しております。このようなフォローアップは今後とも続けていかねばなりませんが、やはり、学生一人一人が「毎日、自学自習をやらないといけない」という意識を持つことが重要です。ときどき「部活が大変で」と成績不振の言い訳をする学生もいますが、そのような言い訳をさせない雰囲気づくりを目指したいと考えています。

最後に・・・

未来の社会の姿を予想することは難しいですが、社会が変化しても生きていける力をつけるのが教育の役割です。特にこれからの社会では、「正解のない問題に立ち向かい、自分なりの答えを導き出し、自分の思いや考えを人に伝える力」が必要とよく言われます。「そのためにはこうすればよい」という正解のないのが、まさに教育ですが、学生自身の将来のために先生方は厳しいことも言うのだという事をご理解頂ければ、幸いです。

共同教育とインターンシップ

教務主事補 栢 健一

・「技術士との連携による共同教育」

学生たちは鹿児島高専の先生方から勉強を学ぶだけではありません。実際の現場で働いておられる方々や研究しておられる方々から技術や知識を学ぶ機会があります。

11月4日に機械工学科、電気電子工学科、都市環境デザイン工学科の2・3年生は株式会社SYSKENの窪川 正文部長より、「良き技術者を目指して」というタイトルで建設関係の講話を聴くことができました。

12月9日に電子制御工学科、情報工学科の2・3年生は第一工業大学、情報電子システム工学科の若井 一顕教授より、「無線通信技術と4K、8K放送のゆくえ」と題して通信・電波関係の講話を聴くことができました。

分野が違ったり、低学年であったりして少し難しい話だと感じた学生もいたかもしれません。しかし、技術士の方々の講話を通して最新の技術や研究に触れることができました。身の回りの情報だけに凝り固まらず、将来自分が担当する卒業研究や就職する仕事先で積極的に情報を取り入れ、視野や知識を広げ役立ててほしいと思います。

・「インターンシップ」

学生の皆さんは、「自分が属している学科はどこに就職・進学できるか、自分に向いているのはどのような仕事だろうか」と悩んでいませんか？もちろん自分で就職・進学先を探す事は基本です。しかし、実際に就職・進学先が自分の想像に合っていなかったら…と不安になるかもしれません。そんな時は是非、4年生の長期休みを使ってインターンシップ制度を利用してください。インターンシップとは、学生が在学中の長期休みに自分の専攻・キャリアに関連した就業体験のできる制度です。

会社だけでなく大学からのインターンシップ募集もあります。ですから、「就職したいけど自分にどんな仕事に向いているか分からない」、「進学希望」、「就職したい企業が決まっている」といったどんな進路を希望していてもインターンシップは役立ちます。是非積極的に参加する事を計画してください。

参加する事を決意したら目的意識を持って下さい。単位をもらう事が目的なのではなく、仕事の楽しさ、厳しさ、責任の重大さ等を知り、自分の経験値を上げて将来に役立たせる事を目標に積極的に取り組みましょう。また鹿児島高専の代表として看板を背負っていることを自

覚してください。次年度もそれ以降も後輩たちが参加します。遅刻、責任感・やる気の無い態度は厳禁です！

H27年度は222社（県内71社、県外124社、海外27社）の企業や学校から募集がありました。鹿児島高専では104名（本科生93名、専攻科生11名）の学生が参加しました。参加後、学生は報告書や参加先へのお礼状を書きます。参加先からは学生の評価が送られてきます。一部の企業や学校からの評価コメントを抜粋してご紹介します。

「質疑応答や雑談からも熱心にメモを記入しており、…研修結果報告会でも率先した発表をすると共に、他研修生への質問を行う積極性もあり優秀である」

「…将来、同じ職場で働けたら嬉しいです。」

企業の研修担当者様はよく学生を見て評価してくださり嬉しいコメントをいただいています。もちろん良い評価ばかりではありません。自分に何が足りないか、これから就職までの間にどんな努力をする必要があるかを考えさせる、ありがたいコメントももらえます。

「…少し明るくふるまってくるとよりいいと思います。」

「…テーマの理解度を深めるための質問が欲しかった。…もう少し興味を持ってほしい。」

「…見たこと、学んだこと…を整理し自分の考察結果をもっと表現できれば、さらに良い発表が出来たと思います。」

「非常に真面目に取り組んでいました。もう少し、リーダーシップを発揮できればなお良いと思います。」

このような評価を見て自分はダメだとかっかりしないでください。企業は是非学生の皆さんが成長してくれたらと思って評価してくださっています。皆さんに興味があればこのような評価書は書かないはずです。皆さんが卒業するまでに、入社するまでに鹿児島高専でさらに良い人材に成長してほしいと期待しているのです！

在学中に就業・進学体験ができる、またとない機会です！自分の適性にあった就職先や進学先を探してみてください。そして積極的に参加し楽しんでください！

1、2年生の数学の補習について

平成27年度 補習日程

教務主事補 岸田 一也

今年度の九州沖縄地区高専教員研修会においても、近年、入学生の数学力の低下のことが話し合われ、各高専においても数学力の向上に向けていろいろと対策を考えているようです。本校においては昨年度から教務委員会、数学科教員による1、2年生を対象とした数学の補習を実施しています。補習は、前期中間試験後から実施しており、対象となる受講生は各回の試験の成績に応じて、数学科教員により選ばれます。1、2年生とも受講生は40名となります。補習は教務委員会の担当主事補がとりまとめとなって、専攻科TA（ティーチングアシスタント）により実施されます。補習では、受講生らは数学科教員の用意した補習課題に取り組みますが、分からない問題があったら、専攻科TAに質問をします。各学年、各回とも専攻科TAが5、6名参加して、受講生の質問に対応するようにしています。

補習は16:15～17:15の時間帯で実施されますが、本校においては授業と同様に重要なものとして位置づけられています。そのため、課外活動より優先されます。受講生には補習には必ず参加するように指導をしており、特別な理由がなく欠席した場合は担任の先生、および教務主事補から指導を受けることになります。また欠席の回数や理由によっては保護者へご連絡する場合もあります。現在のところ、受講生のほとんどが補習にまじめに参加しています。また受講態度も良好です。

最後になりますが、本校に入学してくる学生は高い資質を持っています。1、2年生の多くの学生が寮に入っておりますので、寮での20:00～23:00の間の自習時間に自学自習に取り組んでくれると数学力も含めて成績の面で心配をするということはないと思います。自宅通学生については同様の時間帯で自学自習に取り組んで欲しいと考えます。数学の補習を実施して、学生の学力向上のサポートを行っておりますが、最後は個々の学生の努力に負うところが大きいと感じています。受講生らが、数学の補習を通して分からないところが理解できるようになることで、勉強に前向きに取り組むきっかけができればと期待しています。

1. 前期（後半）補習

【前期中間試験後 - 前期末試験前】

第1回	1年生	6月18日、	2年生	6月16日
第2回	1年生	6月25日、	2年生	6月23日
第3回	1年生	7月2日、	2年生	6月30日
第4回	1年生	7月9日、	2年生	7月7日
第5回	1年生	7月16日、	2年生	7月14日
第6回	1年生	7月23日、	2年生	7月21日

2. 後期（前半）補習

【後期開始 - 後期中間試験前】

第1回	1年生	10月5日、	2年生	10月6日
第2回	1年生	10月15日、	2年生	10月13日
第3回	1年生	10月19日、	2年生	10月20日
第4回	1年生	11月2日、	2年生	10月27日
第5回	1年生	11月9日、	2年生	11月10日
第6回	1年生	11月16日、	2年生	11月17日

3. 後期（後半）補習

【後期中間試験後 - 後期末試験前】

第1回	1年生	12月14日、	2年生	12月15日
第2回	1年生	12月21日、	2年生	1月5日
第3回	1年生	1月18日、	2年生	1月12日
第4回	1年生	1月25日、	2年生	1月19日
第5回	1年生	2月1日、	2年生	1月26日
第6回			2年生	2月2日



F D活動について

教務主事補 岸田 一也

保護者の皆様方には聞きなじみのない言葉かもしれませんが、本校のF D活動についてご案内します。F Dとはファカルティディベロップメントのことで、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称を意味します。本校においては、F D活動として、授業評価アンケートを前期、後期の終わりに実施しておりました。授業評価アンケートは、アンケートの内容やアンケートが学生らの主観により回答される等の問題があり、今年度は授業評価アンケートを一旦休止し、アンケートの内容について再度検討することになりました。

今年度から新たなF D活動の取り組みとして、「授業力向上アクティビティ」というのを実施しています。授業評価アンケートでは、学生によるアンケートを実施して、担当教員がそれを確認して、改善につとめるという流れでしたので、他の教員からのアドバイスや意見といったサポートがありませんでした。「授業力向上アクティビティ」では、対象となる教員とアドバイスを担当される教員がペアとなって、授業改善を行います。対象となる教員の授業を、アドバイスを担当される教員が参観し、その教員が目指している授業のやり方（目標）等を客観的な視点で判断します。そして、授業終了後にディスカッションを行い、授業改善を行うという方法です。今年度は一般理系、文系、機械、電気電子、電子制御、都市環境の7学科から1名ずつの教員が「授業力向上アクティビティ」を実施しています。大学教育においては今後アクティブラーニングの導入が加速されてくると予想されています。アクティブラーニングを実施するにあたっては、まずは個々の教員が授業をコントロールし、学生が積極的に参加できる授業を構築していくことが求められています。現在の教育では、教員が何を教えたかではなく、学生らが何を理解したかが問われています。本校においても、教員の授業力を向上させる取り組みを実施し、その結果として学生らの学力向上につながることを期待しています。

平成27年度 一日体験入学

教務主事補 保坂 直之

平成27年度の「一日体験入学」は前期末試験を終えた週末の8月2日に実施された。当日は天候に恵まれ、夏らしい暑い一日だった。413名の中学生を迎えることになったが、参加者数は前年度と比べると10名減と、わずかではあれ減少している。

中学生の参加が若干減る一方で、保護者の方・引率の方の参加は前年度比で40名増と大きく増えている。「子どもたちが学ぶかもしれない学校を見ておきたい」という希望があるのであろう。本校に対する関心はやはり高いと言えるので、その関心に応えて裏切らないようにしなければならないと改めて感じる。

女子生徒の参加は情報工学科などでは大きく増えたが、参加者に対する女子生徒の割合は11.9%であり、平成26年度が13.2%、平成25年度が15%だったことと比べると減少傾向は続いている。今年度は新たに「女子中学生のための茶話会」という、本校女子学生と打ち解けた雰囲気でも語り合ってもらう場を設けたが、本校を今回訪れた女子中学生のほぼ半数がこのコーナーに参加してくれて話もはずんだようで大変好評だった。

アンケートの結果を見ると、「一日体験入学」についての情報の入手方法については約63%が先生からということだった。6月から各中学校を訪問して「一日体験入学」を宣伝することは手間がかかることではあるが、効果を考えるとこの方法を基礎に新たな宣伝手段などを追加するよう考えるべきであろう。例年と同様に参加してくれた中学生のほぼ全員が「十分満足」「ほぼ満足」と答えてくれており、コース説明や学科展示の内容の理解度についても「十分理解」「大体理解」を足して96%に達している。暑い中、はるばる本校を訪ねてくれた中学生の皆さんに満足してもらえることが最も重要であり、その責任は果たしているのかなと思う。参加してくれた中学生の6割が本校の受験を予定しており、本校での学生生活を体験してもらいながら工学を学ぼうとする人を広く開拓する場として、次年度以降も「一日体験入学」の充実を図るべきであろう。

平成27年度 一年生集団研修報告

教務主事補 窪田 真樹

平成27年度の一年生集団研修が4月14日(火)、15日(水)の1泊2日で大隅青少年自然の家にて実施されました。この一年生集団研修は、鹿児島高専に入学して間もない時期に実施される企画で、高専独自の授業形態や寮生活など、これから始まる新たな環境にいち早く馴染めるようにと考えられています。本年度は一年生213名、学生会役員15名、教職員10名が参加しました。

研修は「鹿児島高専の学生としての自覚を持つ。」、「学友との友情を育もう。」という大きな2つの目標を持って行われます。校長先生、教務主事、学生主事の先生による講話や学生会を主体とするレクレーションなど、2日間があっという間に感じられるほど盛り沢山な内容で、充実した研修となりました。そんな2日間の研修の様子を紹介します。

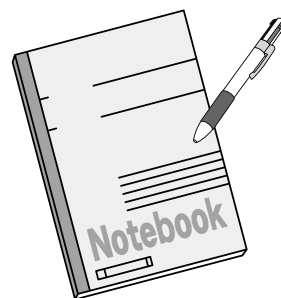
一日目は、校長先生、教務主事の講話のほか、野外活動で5～6人の班ごとに分かれて、所内オリエンテーリングが行われました。これは、大隅青少年自然の家の敷地内に置かれたパネルを探して、書かれた文字を集めるというものです。あいにくの空模様で、時折小雨も降り、寒いという悪条件ではありましたが、班ごとに競ってパネルを探していました。早速共同作業を通じて仲が深まったのではないのでしょうか。夕食後には、担任の先生や同じ学科の先輩達との交流会があり、学校生活のことなど楽しい話題で盛り上がっていました。

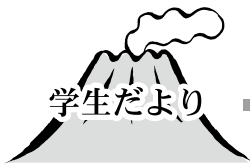
二日目は、朝6時に起床し、各自洗面や班ごとにシーツの返却、部屋の掃除に取り組みました。普段の生活よりも早い起床時間でしたが、しっかりと各自の役割を果たしていました。講話では、学生主事と鹿屋警察署の方にお話いただきました。「ネチケット」という携帯電話やインターネットが当たり前となった時代に大事な内容をしっかりと学べたのではないのでしょうか。講話の後には、学生会が主催するドッジボール大会が行われました。なかには担任の先生も参加するなどして、わいわいとしみながら親睦を深めていました。

非常に充実した内容の濃い2日間でした。その証拠に帰りのバスではぐっすりという学生もいっぱいでした。心地良い疲労感と共に、かけがえのない友人や「これから鹿児島高専で頑張るぞ!」という強い気持ちをお土産に持って帰れたことでしょう。

最後に、実施にあたり計画・準備・当日の運営など細かな部分まで丁寧に対応してくれた学生会役員の皆さん、ご支援、ご協力をいただきました教職員の皆様、大

隅青少年自然の家のスタッフの方々に感謝いたします。ありがとうございました。





ご挨拶とお願い

学生主事 塚崎 香織

2015年4月から学生主事を拝命しました一般教育科(文系)の塚崎香織と申します。担当教科は、一般科目の英語で、年度により担当学年・クラスは変わりますが、本科から専攻科まで授業に行っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、先日、嬉しいことがありました。県外出身の私は、JRで帰省します。2泊3日用のスーツケースとバッグを持って隼人駅に行きます。エレベーターがない隼人駅では、三番乗り場を利用する場合、重いバッグとスーツケース持って、階段を上り下りしなければいけません。先日もそうでした。すると、駅の入り口で挨拶してくれた鹿児島高専3年生Aさんが、自然な形で私に近づき、荷物を運ぶことを手伝ってくれました。彼が高専体育大会の全国大会に出場した際に、ご家族がそろって応援に来てくださっていたことなどを話しながら、少しの間、一緒に歩きました。本当に嬉しい気持ちになり、感謝しながら鹿児島中央駅に向かい、新幹線に乗り換えました。本校の学習教育目標に、「相手の立場に立つてものを考える技術者になる。」とあります。この学生のように、困っている人に対して救いの手をさっと差し伸べたり、他人の気持ちをおもひやかして行動したりできる学生に鹿児島高専の学生の皆さんがなってくれたら、これほど嬉しいことはありません。

残念ながら、嬉しいことばかりでなく、今年度学生委員会では、インターネット関連のトラブルの事例を多く扱いました。他人の注意を引こうとふざけた画像や動画、法に抵触するおそれのある画像をインターネットに掲載する、匿名であることを利用して不用意な発言をインターネット上ですするという事例です。インターネットは便利な道具であると同時に危険な道具でもあります。使い方を間違えると、人生の大切なタイミングで皆さんの足を引っ張る危険性があります。友人同士で閉ざされたネット空間だと思っても、一旦自分から発信された情報は世界に対してオープンであることを自覚してください。匿名のつもりであっても、身元が特定されることがあります。インターネット上に一旦発信された情報は消すことが困難なことから「刺青」に形容され、「デジタルタトゥー」と呼ばれます。何かが起こってからでは遅すぎます。学校でも指導しておりますが、ご家庭におかれましても、家族の間で携帯電話やインターネットの使い方について、ルールを取り決めてくださいますようお願い申し上げます。

学生の皆さんへ

電気電子工学科 奥 高洋

本年度の学生主事補を務めております、奥と申します。この一年間を振り返って感じたことを、徒然に書くこととなりました。文才がないため大変恥ずかしい限りではありますが、何とぞよろしくお願い致します。

早速ですが、学生の皆さんはもちろん、保護者の皆さまも感じておられるとおり、本校は他の一般高校からすると、たいへん自由な校風が持ち味です。校則が事細かく決められている訳でもありませんし、制服もありません。これは、皆さんが「生徒」ではなく、「学生」であるが故です。物の本に依れば、「生徒」とは既知の事実について教えを請う受け身の立場の人であり、「学生」とは未知の予測を実証するため自ら考え行動する(言い換えれば、己を研^{みが}いて究^{きわ}める＝研究する)立場の人であるがあります。本校の自由な校風も、正に皆さんを「学生」として扱うことに根差しています。ただし、本校入学と同時に皆さんへ「自分で考えて学びなさい」、「自分で考えて行動しなさい」とするのは酷ですね。いきなりはたいへんです。ですから本校のカリキュラムや校則は、二段構えになっています。低学年次は生徒的な扱いを残しつつ、技術者に必要な知識・技術を「授業で教えてもらう」、社会人に必要な常識を「校則で説いてもらう」ことで、学び方・生き方を身に付けられるようになっているはずです。高学年次では当然、体得した学び方・生き方を基に、実験実習に従事し卒業研究へと発展させるとともに、(常識に反しない)自由が許される学生としての扱いへと変わります。

しかしながら、この一年間学生主事補の立場で様々な案件に立ち会った経験からは、本校に「学生」はいるのだろうか?と思うこと、しばしばでした。皆さんも自身に問うてみて下さい。果たしてあなたは、(前述した)「学生」の定義に当てはまるのでしょうか? 未だに「〇〇してもらう」側の生徒的立場に甘んじてはいませんか?ましてや、「〇〇してもらう」ことを当たり前のように感じている幼子(就学前児童)同然の立場に胡坐をかいていませんか? 幼子は、あの年齢であの容姿だから許されるところもあるのです。しかし、あなた達が今のまま日々漫然と過ごして行きつく先は、幼いままのおっさん・おばはんです。これはもう、只々気持ち悪いだけの存在ですね。化け物です。(笑) 可愛げの欠片なんて、見当たりません。そうならないためには、やはりあなたが自覚を持って、どこかで変わるための、どこかで成長していくための努力をしていかなければなりません。時は解

決してくれないのです。

変わるため・成長するためには、どうすればいいの？

そういう声が聞こえてきそうですが、やる事は簡単です。（学び方に関しては教務委員会に譲るとして、）とりわけ学生委員会の範疇である生き方に関して言えば、何かやる前にちょっと考えて判断するだけです。自分の取る行動が、自分に対して、他人に対して、社会に対して…、どのような影響をもたらすのか？ 今この時点では、明日には、1年後には、遠い未来には…、どのような影響を与えるのか？ まずは、「未知の予測」をして下さい。そうすれば、自ずと答えは見えてくるはずです。この話をするのは2回目ですが、覚えていますか？ 春先の学生総会の折、皆さんへは「分別（物事の善悪を考え、道理をわきまえること）」を持って行動して下さいとのお願いをしましたが、同じことです。皆さんが分別のない生徒のまま、分別のない幼子のままであり続ける限りは、やはり我々学校側としても規則で縛る、制限を設けざるを得ません。極論すれば、皆さんが分別を持ってくれさえすれば、「学生」であってくれさえすれば、校則なんて不要なのです。幸いなことに皆さんの多くは未成年で、保護者の庇護下にあつて、学校や法律でも守られています。様々な面において優遇されている環境にあります。変わるなら、成長するなら、今しかありません。その為のサポートならば、保護者の方々はもちろん、我々学校側も惜しむつもりはありません。ただ、哀しいかな「学生」への変身スイッチを押せるのは、あなただけです。

最後に、他の先生方やOBの方々から怒られること承知で敢えて書きますが、個人的には鹿児島高専のブランド力はたいしたことないと感じています。それでも本校の就職が良かったのは、難関と言われる大学・大学院へ進学できたのは、自ら考え行動・研究することができた、すなわち己を研いて究めることのできた「学生」であったからに他なりません。改めて問いますが、皆さんはどうしますか？ 生徒のまま、幼子のまま、化け物に成り果てますか？ スwitchを押せるのはあなただけであることを、今一度よく考えてみて下さいね。

文化祭を終えて

文化祭実行委員長

都市環境デザイン工学科4年 小谷 貫太

自分は文化祭の実行委員として三年間この高専祭に関わってきました。

初めは実行委員長になると思わず入りました。一年間仕事をしていく中で実行委員としてのやりがいやこの文化祭を自分達で開催していることに誇りを持つようになりました。

高専祭の数日後に前年度実行委員長の井健嗣さんに実行委員長をやりたいか聞かれた時は本当に実行委員長としてみんなを引っ張っていけるか不安な気持ちもありましたが、それよりもこの高専祭を自分達で計画してもっとよくしていきたい気持ちの方が強く、自分はそれでもやりたいと言い文化祭実行委員長をすることになりました。

それからは自分がすると言った以上絶対に成功させようと思い、副実行委員長として仕事をしていた時も来年に繋げる事ができるようにしてきました。

そして、自分が思ったのは例年通りに高専祭を開催するのも大事だと思いますが、今年は来年以降に繋げるための高専祭だともい高専祭実行委員全体で取り組んできました。今年度は露店のルール変更・企画の見直し・パンフレットの充実を主にしてきました。

急に今まで通りでなく変わってしまい驚いた学生も多かったと思います。しかし高専祭をより良くしていくため、今後の高専祭を良い伝統として残して行きたいという自分達の考えでした。

今年度も自分が実行委員長を務めて初めて様々な問題点・改善点が分かったので次期文化祭実行委員長の竹下晃太と協力して改善し、来年は今年よりも確実にいい高専祭にします。

今年度の高専祭を開催するにあたって校長先生をはじめとする教職員の方々・地域の方々・学生の協力があつて開催することができました。本当にありがとうございました。自分はこのような貴重な体験をさせてもらったので、学生生活や社会人になっても一生の経験としてこれからも生かしていきたい。

体育祭を終えて

体育祭実行委員長

都市環境デザイン工学科3年 峯崎 侃

去年の激動の体育祭から早一年。様々な想いや願いを胸に鹿児島工業高等専門学校は今年も無事体育祭を迎えることができました。

今年度の体育祭は多くの問題を抱えスタートを切りました。体育祭時の服装、やぐら絵の内容、競技種目の改善、体育祭の在り方、そして伝統とは何か。約50年続く体育祭の伝統を守ることをよしとするか、新しい伝統を創り出すことをよしとするか、学生側の意見と学校側の意見が交錯し、衝突することが幾度となくありました。その度に何度も答えの出ない話し合いを繰り返しました。月日だけが虚しく経過し、先の見えない不安とプレッシャーに押しつぶされて眠れない夜も多々ありました。

そうした中、例年より約半年遅れて体育祭の事前準備を進めていきました。実行委員長として学生達、先生方、保護者の方々の多くの意見を聞き、自分に何ができるか、どうしたら体育祭がより良いものになるのか考える日々が続きました。様々なことを考え、体育祭を今までお世話になった多くの方々への恩返しのもとできるよう、競技をする学生はもちろんのこと観戦しに来た方々も楽しめるよう「見て楽しめる体育祭」をコンセプトにして、行進、競技、応援団、やぐら絵、思いつく全てを一つ一つ見直し改善していきました。来年の実行委員には同じ思いで悩ませたくない。出来ることは全部する。そういった気持ちで準備を進めていきました。

雲ひとつない青空で迎えた当日、緊張しているせいから少し空気が重く、早朝の冷たい空気が肌にしみていつもより頭がスッキリしていたことを覚えています。大した練習も無い中で真剣に競技に取り組んでくれた学生達。毎日夜遅くまで準備をしてくれた実行委員。体育祭をよりよくするために協力してくださった教職員の方々。朝早くから見に来られた大勢の保護者や地域の方々。そして、限られた短い時間で完璧に仕上げ、体育祭を鮮やかに彩ったやぐら絵と応援団。体育祭が終了し実行委員、同級生と顔を見合わせた時、そこにあるのはなんとも言えない達成感と言葉にできない感情でした。学生一人一人が過ごしたこの一日が一生の思い出となったなら、実行委員長としてこれほど嬉しいことはありません。

振り返ると、多くの方々にたくさんの迷惑を掛け、応援され、また支えられ、全員で体育祭を成功させることができました。今一度、この場を借りて感謝の気持ちを伝えたい。皆さん本当にありがとうございました。

この思い出と培った経験を将来の糧にし、これからもより一層頑張っていきたいと思います。

また、後援会の皆様の御厚意により、今回の体育祭から使用する優勝旗を一新することができました。

日頃の感謝を忘れることなく、この優勝旗に恥じない良き伝統を次の世代へと引き継いでいきたいと思っています。



都城・鹿児島高専親善試合結果

都城高専会場

平成27年5月9日(土)

競 技 種 目	試 合	結 果
サ ッ カ ー	第 1 試 合 都 城 (1 - 3) ○ 鹿 児 島 第 2 試 合 ○ 都 城 (1 - 0) 鹿 児 島 第 3 試 合 都 城 (1 - 2) ○ 鹿 児 島	
ハ ン ド ボ ー ル	雨天のため交換会を開催	
男子バスケットボール	第 1 試 合 都 城 (64 - 83) ○ 鹿 児 島 第 2 試 合 都 城 (70 - 75) ○ 鹿 児 島	
女子バスケットボール	第 1 試 合 △ 都 城 (18 - 18) △ 鹿 児 島 第 2 試 合 都 城 (20 - 27) ○ 鹿 児 島	
バ ド ミ ン ト ン	第 1 試 合 都 城 (0 - 3) ○ 鹿 児 島 第 2 試 合 都 城 (1 - 2) ○ 鹿 児 島 第 3 試 合 都 城 (0 - 3) ○ 鹿 児 島	
ソフトテニス(男子) ソフトテニス(女子)	雨天のため交換会を開催	
剣 道	第 1 試 合 ○ 都 城 (4 - 1) 鹿 児 島 第 2 試 合 ○ 都 城 (3 - 2) 鹿 児 島 第 3 試 合 ○ 都 城 (4 - 1) 鹿 児 島 第 4 試 合 都 城 (2 - 3) ○ 鹿 児 島 第 5 試 合 ○ 都 城 (4 - 1) 鹿 児 島	
水 泳	競 泳 部 門 都 城 (124 - 326) ○ 鹿 児 島 水 泳 部 門 都 城 (14 - 18) ○ 鹿 児 島 合 計 都 城 (138 - 344) ○ 鹿 児 島	

都城・鹿児島高専親善試合結果

鹿児島高専会場

平成27年5月9日（土）

競技種目	試合結果
陸上	総合点 都城（ 94.5 － 37.5 ） 鹿児島
硬式野球	第1試合（4・5年） 都城（ 雨天中止 ） 鹿児島 第2試合（低学年） 都城（ 雨天中止 ） 鹿児島
男子バレーボール	第1試合 都城（ 20 － 25 ）○ 鹿児島 第2試合 都城（ 20 － 25 ）○ 鹿児島
卓球	◆ 団体戦 第1試合 A 都城（ 1 － 3 ）○ 鹿児島 第2試合 B 都城（ 2 － 3 ）○ 鹿児島 第3試合 C 都城（ 2 － 3 ）○ 鹿児島 第4試合 D 都城○（ 3 － 2 ） 鹿児島 ◆ 個人戦 1位 吉田（鹿） 2位 野辺（都） 3位 上清水（鹿） 3位 宮崎（都）
弓道	◆ 団体戦男子 都城○（ 7 － 6 ） 鹿児島 都城○（ 12 － 7 ） 鹿児島 ◆ 個人戦 1位 太平 光哉（都） 2位 岩重 涼（鹿） 3位 尾前 楓（都）
テニス	◆ 団体戦 第1試合 都城（ 雨天中止 ） 鹿児島 第2試合 都城（ 雨天中止 ） 鹿児島 第3試合 都城（ 雨天中止 ） 鹿児島
柔道	◆ 団体戦 第1試合 都城○（ 2 － 1 ） 鹿児島 第2試合 都城（ 1 － 2 ）○ 鹿児島 第3試合 都城（ 1 － 2 ）○ 鹿児島

第52回（平成27年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会等 結果一覧

成績		団 体 戦			個 人 戦		
種目		1位	2位	3位	1位	2位	3位
陸上競技		有明高専	佐世保高専	都城高専	男子100m:中俣朋也 男子200m:中俣朋也 男子3000mSC 宮園大雅	男子5000m:山崎翔平 男子1500m:山崎翔平 男子やり投:前川寛斉	男子4×400mリレー 馬場・中俣・内村・竹ノ内
	ソフトテニス	北九州高専	都城高専	佐世保高専			
	バドミントン	熊本高専(八代)	鹿児島高専	有明高専	男子100m 背泳:鶴田瑠威 男子200m 背泳:鶴田瑠威 男子200m 平泳:下原啓佑 男子400mメドレーリレー 鶴田・下原・萩田・福山	男子100m自由形:西原琢斗 男子100m 平泳:下原啓佑	男子100m自由形:帖佐直彦 男子200m個人メドレー:広谷智之 男子400m自由形:吉永光太郎
水泳		鹿児島高専	熊本高専(八代)	都城高専			男子200mバ'タフライ:萩田武蔵 男子100m 平泳:広谷智之 男子200m 平泳:宮路健太郎 女子100m 平泳:黒田葵 女子50mバ'タフライ:黒田葵 男子400mリレー 鶴田・西原・榮・帖佐
	ハンドボール	北九州高専	有明高専	久留米高専			
	硬式野球	北九州高専	大分高専	佐世保高専			男子ダブルス:日高・村田
空手(西日本地区)	バスケットボール(男子)	北九州高専	久留米高専	熊本高専(八代)			
	バスケットボール(女子)	有明高専	沖縄高専	佐世保高専			
	卓球	有明高専	大分高専	久留米高専			
	剣道	北九州高専	熊本高専(熊本)	都城高専			
	サッカー	鹿児島高専	熊本高専(八代)	有明高専			
	柔道	有明高専	熊本高専(八代)	熊本高専(熊本)			男子63kg以下級:中國康太 男子90kg超級:山田智也
	バレーボール(男子)	久留米高専	鹿児島高専	大分高専			
	バレーボール(女子)	佐世保高専	久留米高専	都城高専			
	テニス(男子)	鹿児島高専	大分高専	熊本高専(八代)			男子ダブルス:東中村・吉永
	テニス(女子)	佐世保高専	大分高専	有明高専			
弓道(男子)	熊本高専(熊本)	都城高専	鹿児島高専				
	都城高専	熊本高専(熊本)	沖縄高専				
				男子個人形:宇崎澪太 女子個人形:帖佐そよ香 女子個人組手:帖佐そよ香 団体形 団体組手	男子個人組手:今村優希 女子個人形:今村菜々子 女子個人組手:今村菜々子		

※網掛け表示は、全国大会出場者

(敬称略)

◎第50回全国高等専門学校体育大会

(1) サッカー

開催日：平成27年8月26日(水)～30日(日)

会 場：大分スポーツ公園ほか

結 果：優勝

(2) 陸上

開催日：平成27年8月29日(土)～30日(日)

会 場：博多の森陸上競技場

結 果：男子1500m 予選敗退

男子5000m 準優勝

走り幅跳び 5位

やり投げ 18位

(3) 男子バレーボール

開催日：平成27年8月22日(土)～23日(日)

会 場：カルチャースポーツセンター山鹿市総合
体育館

結 果：準優勝

(4) 柔道

開催日：平成27年8月22日(土)～23日(日)

会 場：KIRISHIMAツワブキ武道館

結 果：個人戦90kg超級：初戦敗退

(5) テニス

開催日：平成27年8月19日(水)～21日(金)

会 場：熊本県民総合運動公園パークドーム熊本

結 果：団体戦男子：初戦敗退

(6) 水泳

開催日：平成26年8月24日(日)

会 場：香川県立総合水泳プール

結 果：男子100m平泳ぎ 7位

男子200m平泳ぎ 7位

男子100m自由形 予選敗退

男子100m自由形 予選敗退

男子100m背泳ぎ 予選敗退

男子200m背泳ぎ 予選敗退

男子200mバタフライ 予選敗退

男子400m自由形 20位

男子200m個人メドレー 予選敗退

男子400mメドレーリレー 7位

総合 24位 (35校中)

(7) バスケットボール

開催日：平成27年8月14日(金)～16日(日)

会 場：鹿児島アリーナ

結 果：男子 3位 女子 予選敗退

◎第48回九州沖縄地区国立高等専門学校

英語弁論大会

開催日：平成27年10月18日(日)

会 場：熊本高等専門学校八代キャンパス

結 果：暗唱の部 2位 黒石

弁論の部 3位 角

◎高専ロボコン2015九州沖縄地区大会

開催日：平成27年10月18日(日)

会 場：佐世保市東部スポーツ広場体育館
(佐世保市)

結 果：予選敗退

◎高専英語プレコン2015

開催日：平成28年1月23日(土)、24日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

結 果：本選出場



学生表彰者リスト

◎文化賞

大会名	学年・氏名	成績
第11回種子島ロケットコンテスト	電気電子工学科4年 松元 達紀	ペイロード部門優勝 ロケットコンテスト大賞
	電子制御工学科4年 町田 貴洋	
	電気情報システム工学専攻1年 川路 啓太	
鹿児島県「木のあふれる街づくり事業」 かごしま木づかいモデル製品の設置	都市環境デザイン工学科4年 大村 優理絵	当選
第51回 建築設計競技 課題「家族みんなで楽しく暮らす住まい」	都市環境デザイン工学科3年 井尻 敬天	奨励賞
5th International Joint Symposium on Engineering Education	機械・電子システム工学専攻1年 杉山 大晴	Best Paper Award
精密工学会九州支部第16回学生研究発表会	機械・電子システム工学専攻1年 川野 良太	ベストプレゼンテーション賞
第23回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	電気情報システム工学専攻2年 室屋 知佐	学生会講演奨励賞
第15回日本情報オリンピック予選	情報工学科2年 畑山 紘一朗	敢闘賞（Ｂランク）
第48回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会 暗唱部門	情報工学科2年 黒石 愛華	第2位
第48回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会 弁論部門	情報工学科2年 角 海音	第3位

※スポーツ賞については、全国高専体育大会での優勝、準優勝若しくは九州沖縄地区高専体育大会での優勝又はこれに準ずるスポーツ大会で優秀な成績を収めた者に対して学生表彰を行っております。

◎ 特別賞

※学生の模範として表彰に値する者を表彰

功 績	学年・氏名
技術士一次試験 合格	都市環境デザイン学科4年 池田 裕平
	都市環境デザイン学科4年 須ヶ牟田 拓己

◎平成27年度 学習到達度試験成績優秀者一覧

	学 科	氏 名		学 科	氏 名
1	機械工学科	下和田 悠生	10	電子制御工学科	稲盛 佳介
2	機械工学科	和田 一宏	11	電子制御工学科	押方 和
3	電気電子工学科	上清水 直樹	12	電子制御工学科	徳田 拓海
4	電気電子工学科	内田 和志	13	情報工学科	有川 悦史
5	電気電子工学科	グリス ファビオラ	14	情報工学科	宇都 和真
6	電気電子工学科	重森 和弥	15	情報工学科	小濱 大輝
7	電気電子工学科	園田 蓮	16	情報工学科	亀澤 祥平
8	電気電子工学科	塚本 耕助	17	都市環境デザイン 工学科	中村 亮太
9	電気電子工学科	中西 洸介			

学びて思わざれば…

寮務主事 野澤 宏大

今年度から副校長（寮務主事）となりました、一般教育科理系の野澤と申します。今年度は私以外に、寮務係長、学生寮指導員（舎監）2名（4月：中神さん、9月：池田さん）、寮母（10月：宇都さん）も交代となり、学寮事務室の構成メンバーが大幅に入れ替わっております。

さて近年、巷では「国際化」「グローバル化」といった言葉を耳にします。本校も例外ではなく、学習教育到達目標の1つに「グローバルに活躍する技術者」を掲げています。国際化というと、すぐに「英語力の強化」と考えがちですが、果たして本当にそうなのでしょう？英語力は確かに重要で、話せるにこしたことはないと思います。しかしそれは、あくまでも意思疎通の手段に過ぎません。それよりも、「コミュニケーション力の強化」の方が重要だと思います。そもそも、母国語で満足にできないことを、英語でできるとは到底思えません。

ご存知の通り、志学寮では600名弱の寮生が日々生活しています。その気になれば、いくらでも人と関わり合いを持つことができます。この状況をうまく活用できれば、コミュニケーション力を磨くことができるでしょう。では、「寮に入ればそれでいいのか」というと、残念ながらそういうわけではありません。現実問題として、各人のコミュニケーション力不足に起因する事例が、頻繁に見受けられます。ほんのひと言、声をかけておくだけで結果は違っていたのに…。

参考までに、論語の中で孔子は、「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」と言っています。勉学の話になりますが、高専生風にアレンジすると、「予習・復習をして理解しようとせず、受け身の授業だけでは何も身に付かない。助言を聞き入れず過去問ばかり解いていると、（範囲の違いに気づかず）危険な目に遭うことがある」といったところでしょう。紙面の都合上、タイトル通り詩の前半部分だけに触れておきます。ネイティブに習おうが、海外に留学しようが、単に学んでいるだけの間は英語は上達しないでしょう。同様に、寮生活を送っていても、ただ過ごしているだけではコミュニケーション力は向上しないでしょう。

皆様、さまざまな局面で、「学びて思わざる」状況にありませんか？自分の頭で考えて、どうすべきか判断する習慣を身につけましょう。間違っても、学びもしなければ思いもしない「コピペ人間」にならぬよう、心がけてほしいものです。

寮生会より

電気電子工学科4年 永山 慧

今年度、鹿児島高専志学寮寮長を務めさせていただいた永山です。始めに野澤寮務主事や寮務関係者の方々へ1年間お世話になりました。今までで一番世話焼きの寮生会だったと思いますが、最後まで見守っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、私は3つのことについて話そうと思います。1つ目に寮長になり初めての活動について。私はマニフェストに「寮の裏門の開放時間の延長」を掲げていました。以前まで20時には施錠していた裏門を点呼に合わせて20時50分まで延長しました。これによりたくさんの寮生から買い物に行くのが便利になったと聞くようになりました。また、去年の梶尾寮長の「浴場の脱衣所にエアコンを設置する」というマニフェストがありました。野澤寮務主事や寮務の方々の協力により夏休み明けよりエアコンが設置されました。実際に寒い日に暖房をつけて濡れた体を少しでも冷やさないようにできたのではと思います。

2つ目に寮生会役員の活動です。寮生会は2～4年の寮生で構成されており6つの部署がそれぞれの仕事を行っています。共通の仕事として、各点呼の準備や風呂の片づけ、長期休みの帰省時の保護者の車の交通整理などがあります。また、寮内の新聞として月1回の頻度で「志学」を報道委員が発行しています。寮や学校でのイベントや寮生会役員の紹介などが記事となっています。

3つ目に今年より今まで捨てていたペットボトルのキャップを回収することになりました。お隣の隼人中学校ではペットボトルのキャップを集めているそうで野澤寮務主事の意向により志学寮でも集めるようになりました。先日、ポリ袋二つ分のペットボトルのキャップを隼人中学校に持っていきました。隼人中学校の生徒は大変喜んでいました。この活動は今後も続けて行くべき活動の1つです。

最後にこのようにスムーズに活動を行えたのは寮生会役員や野澤寮務主事をはじめ寮務係の方々の協力のおかげです。1年間でしたがありがとうございました。



ペットボトルキャップ（11月25日）

一年生集合自習

寮務主事補 池田 昭大

志学寮の一年生を対象とした一年生集合自習が開始され、今年で3年目になります。集合自習の目的は、学習習慣を身につける事ですが、授業をともに受けるクラスメイトと同じ部屋に集まって自習を行い、クラスメイトが自習する姿から自身の学習意欲をより高めるという目的もあります。義務教育を終え、勉強する内容も高度になる高専では、自学が必須と言えます。さらに、技術者を目指す鹿児島高専の学生は社会に出てからも、新しい知識、技術を身に付けていくための勉強が必要となるでしょう。そういったものは、やはり自学できなければ高いレベルでの修得は厳しいはずです。

集合自習は、学科ごとに一年寮生が寮の多目的ホールに集まり、前半の完全自習時間（20：00-21：20）に自習を行うというものです。完全自習時間は、寮生が自室にて自習を行う時間になっていますので、その時間の自習をクラスで集合して行うことになります。20：00の中間点呼終了後に自室から移動を開始、20：10自習開始、21：20自習終了という流れです。実施時期は、定期試験の直前で、各クラス2、3回実施します。今年度は、前期中間、前期末、後期中間の試験前にすでに実施し、各クラス7回ほど行っています。後期末試験前にも実施したいと考えています。

私は今年度から寮務主事補となり、集合自習の担当をしているため、集合自習を見る機会も多いです。私が見たところ、学生は非常に真面目に取り組んでいます。時折、居眠りしてしまう学生もいますが、一度起こせば、再び自習に取り組み、何度も居眠りしてしまうということはありませんでした。さらに、私がいるときは、私の担当科目である物理の質問も多く受け（自学という趣旨からはずれるかもしれませんが）、集合自習の時間を有効に使おうという姿勢が良く見えました。集合自習には、その日の当直教員が監督に入っていますので、自室での自習より効率が上がっている事でしょう。その日に自習を行うクラスを、舍監さんが放送してくださっている事、担任の先生からの連絡もあり、うっかり集合自習に来ることを忘れてしまう学生も少ないです。

また、集合自習の効果がどのように現れているかを調査する事は難しいですが、私の耳に届くクラス担任の先生方の声は、集合自習を継続してほしいというものが多いです。今後は学生の意見を取り入れ、来年度からの集合自習の実施方法に反映させていきたいと思います。

1年生のうちに、しっかりと自学をする習慣を身に着

け、高専で新しい知識、技術を身に付けてもらいたいと思います。また、寮という集団生活の中で、様々な経験をし、将来に活かしてもらいたいと、切に願います。

学寮チュートリアル

寮務主事補 川添 敦也

学寮チュートリアルは、3年生以下の寮生を対象に、中間・期末試験前の年に4回、1回につき5～8日間程度実施しています。試験時間割発表から開始するので1回の実施日数はまちまちですが、昨年度は31日間実施し、累計689名が参加しました。1日平均22.2名の参加がありました。今年度は後期中間試験の時点で19日間実施し、累計696名、1日平均36.6名の参加で、すでに累計で昨年度の実績を上回りました。

今年度は特に前期中間前の1年生の参加が多く、多目的ホールに座りきれないほどの学生が参加してくれました。昨年度から始まった1年生集合自習によって、気軽に参加しやすくなったことが理由の1つと考えられます。また、3Sの学生が多く参加してくれています。3年生の他のクラスの参加は1～2名程度しかいないのですが、3Sは毎日7～8名程度の参加がありました。みんなで切磋琢磨する雰囲気があるように感じます。

チュートリアルは、チューターである専攻科生の協力が不可欠です。昨年度は、AMSの堤君、今年度はACCの高見君に専攻科生への連絡やシフト表の製作を手伝ってもらいました。期末試験前は、専攻科の試験準備と被ってしまうこともあり、なかなか人数が集まらないこともありますが、上手く割り振りをしてもらい大変助かりました。

毎回、私がポスターを準備しています。毎回内容はほとんど変わりませんが、少しでも目につくようにイラストを変えています。後期中間試験ではくまモンを貼り付けてみました。以前からゆるキャラの無料イラストを探していましたが、それらしいイラストが見つけれずいました。ようやく、くまモンが勉強しているイラストを貼り付けることができ、密かに満足しています。気が付いた学生が何人いるか分かりませんが。

昨年度は後期期末試験前の参加数が極端に減ってしまいました。恐らく、寒さのために部屋を出るのが億劫になってしまうからだと思います。寒さに負けず1名でも多い参加をよろしくお願いします。



チューター（右）の説明を受ける寮生（左）



多目的ホールの様子

舎監 山崎さんのご退職

寮務主事 野澤 宏大

平成25年4月より、学生寮指導員（舎監）として勤務されてきた山崎逸郎さんが、8月末を以てご退職されました。山崎さんは、昨年度柔道8段に昇段された、鹿児島県柔道界の重鎮です。また警察関係の人脈の太さも絶大であり、我々はその恩恵を大いに受けました。山崎さんのような方が、志学寮の舎監として勤務してくださっていたことを、改めて大変ありがたく思う次第です。

山崎さんは、その気さくなお人柄から、寮生からも大変慕われていました。学寮事務室の窓口では、毎日のように寮生と山崎さんとの楽しい掛け合いに遭遇しました。そのやり取りがなくなって久しいですが、やはり少々さびしいものです。8月6日には、寮生会メンバーにより、山崎さんのお別れ会が催されましたが、寮生から慕われる様子は、写真からも容易にうかがい知れると思います。

学寮関係者一同、山崎さんの今までの舎監としての職務に感謝するとともに、新しい職場や柔道界での益々のご活躍を、心より祈念いたします。

新着任のあいさつ

志学寮舎監 中神 実

平成27年4月から学生課寮務係舎監として勤務させて頂いております中神と申します。

出身は、霧島市霧島で高校卒業までは地元で育ちました。

防衛大学校を経て陸上自衛隊に入隊しました。転勤が多く、又、旅行が趣味で全国各地を廻りました。

定年退職後は、伊佐市大口にある警備会社に勤務。昨年2度目の定年を迎えたところ、縁あって高専に勤務することになりました。

自衛隊勤務時代は、隊員の教育・サービス指導に携わることが比較的多く、また警備会社勤務時は、警備員の指導教育を担当していたことから、少しは、経験をいかせるかも知れないとも思いますが、中学を卒業したばかりの学生と接触するのは初めての経験であり、年代の相違、考え方の違いとか、不安な部分も多々あります。

学生と真剣に向き合い、寮で他の学生と集団で生活する上で何に気を付けなければいけないのか、何故規則があるのか、寮生活が将来どのように役立つのか、等を少しずつでも理解してもらい、寮での生活を楽しく過ごせるように手助けできればと思っています。

周りの皆さんの指導を受けつつ、また連携を保って一貫した指導ができるように心がけたいと思いますので、よろしくご指導ご鞭撻頂きますようお願いいたします。



就任のご挨拶

志学寮舎監 池田 信幸

夏休み期間中の9月24日付で寮務係舎監として採用になりました池田信幸です。限られた期間ですが、縁がありまして志学寮の皆さんと生活を共にすることになりました。

私は、鹿児島県警のOBです。皆さんと同じように1年間の寮生活を経験していますが、専門学を学ぶ為に入寮している皆さんの寮生活とはかなり違いがあります。警察官として給料を頂きながら、わずか1年という短期間に、警察官として単独で職務執行ができるまでにならないといけないわけですから、その日課はかなりハードなものです。朝6時の起床点呼後、10kmの駆け足に始まり、1日4時限（1時限90分）の法学主体の座学と、60分の武道訓練を受ける為の寮生活です。

経歴について簡単に紹介したいと思います。警察学校を卒業して新任地の指宿警察署を振りだしに、徳之島と奄美の離島署を含む11の警察署で勤務しました。

交番勤務とパトカー乗務を数年経験後、刑事部門に配属になって、警察生活のほとんどを麻薬や覚せい剤等の薬物事犯、殺人や強盗・傷害等の強行犯、暴力団犯罪と汚職事犯等の知能犯事件を担当し、6年前定年退職しました。分かりやすく言うと刑事でした。

刑事事件は、人目に付きやすい交通事件等と違って人目に付きにくい隠れた犯罪が多く、刑事は隠れた特定の事件を捜査して被害者等の供述や証拠で立証し、裁判官に被疑者（最近の報道では容疑者と表現しています）の逮捕状を請求しこれを得て逮捕します。

そして、逮捕した被疑者を直ちに取調べ、公の裁判にかけてもらうために、逮捕時刻から24時間という限られた時間内に検察官に送致するのが刑事の仕事です。

警察官は在職中、プライバシーや私生活まで干渉される組織の中で活動しますが、私が定年退職まで勤められたのは、警察学校で培った警察官としての誇りと使命感を持続できたからだと自負しています。

最後に、高専の舎監に採用になって感銘を受けたことがあります。

それは、寮生会規則に基づいて、寮生が共同生活を行うための自主的運営をやっているということです。

立場は人を変えます。自分の立場に責任を持ち、目的を持った組織活動に参加して行動することで、自分に自信が持てるようになります。自信は次のステップへの活力源です。5年生は卒業までの期間はわずかですが、4年生以下は1年以上あります。

目いっぱい寮生会活動に参加して自分を磨いてください。また、寮生活の中でしか得られない、生涯の友といえる友人を必ず見つけてください。

私は、皆さんが志学寮や学校生活では学ぶことのできない経験と知識を持ち合わせていますので、不安や悩みがあつたら遠慮なく相談してください。何か皆さんのお役に立つことが出来ると思います。家内が作ってくれた夕食の弁当を持参し、志学寮の皆さんと新たな出会いを求めて今夜も出勤しています。

就任のご挨拶

寮母 宇都 ゆりか

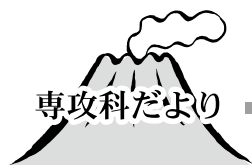
平成27年10月21日付で、寮務係寮母に着任しました宇都ゆりかと申します。

この度、縁あつて高専での仕事をさせていただくこととなり、たいへんうれしく思っております。と言うのも、実は私は、高専のすぐ近くに住んでおり、また、子供も学生として、本校で学んでいるのです。

私がお手伝いをさせてもらっている寮生は、15歳から20歳の一番多感な、それだけに難しい年代の若者たちです。そんな学生さんたちが、寮生活というある種独特の環境の中で、本分である勉強に集中するために、私に何が出来るだろう、常にそんなことを考えながら業務にあたっているところです。

まだ、着任して少ししかたっていませんが、学生たちの礼儀正しさ、寮内の秩序と風紀には、正直驚いています。これらは全て、今までの教職員の皆様と先輩たちとで作り上げた、よき伝統であり、私もそれを引き継いでいけたらと思っています。

不慣れ故、何かとご迷惑をお掛けする事も多いかもしれませんが、一つ一つ、ご指導いただきながら精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。



専攻科について

専攻科長 山内 正仁

本校の専攻科は、本科5年間の教育課程終了後、さらに2年間、つまり大学3、4年に相当する課程として、平成12年4月に設置されました。専攻科修了者には『学士』の称号が与えられ、大卒と同等の資格を有することになります。現在、機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻の3専攻があり、定員はそれぞれ各学科定員の1割程度となっております。今年度は、64名が在籍しております。

専攻科の教育内容としては、本科で身につけた、技術者の基盤となる専門能力をさらに高めていく学習と、さらに、その知識を他分野の知識と融合させて、研究を通じた、多角的な問題解決能力を高めるための学習が行われております。

専攻科生は最も大切な目的である、『学士』を取得するために「特別研究論文」を作成していきます。進学すると、入学後早い時期に、特別研究論文の研究テーマ、内容について打合せ、2年間の研究スケジュールを作成します。学士を得るに値する論文に仕上げるため、指導教員と研究テーマや内容について綿密に打ち合わせをし、時には外部専門家の指導も仰ぎながら、より精度の高い研究内容となるように実験や分析その他の必要な活動を行います。研究のテーマは基本的に本科5年次の卒業研究をさらに深化させたものが多いですが、持っている基本的知識を他の分野に応用するなど幅広い課題にチャレンジし、それらを研究テーマとして進めさせる場合もあります。専攻科生の柔軟な発想と粘り強い研究活動が大きな成果を生み出すことも多々あります。

専攻科修了者の進路は、就職し高度な技術者として活躍する者、または大学院へ進学しさらに専門性を深める研究をつづける者、との大きく二つに分かれるといえます。

過去3年間（24？26年度）の就職者は49名、平均求人倍率は専攻によってバラツキはありますが47倍程度でした。本科と比較して求人倍率は高く、大手企業、準大手企業へ就職する者が多いのも特徴といえます。

また、過去3年間の進学者は29名で進学率は37%でした。本科と比較して進学率も高く難関大学院へ編入する者もおります。

特別な事項として、本校は「JABEE認定教育プログラム」認定校となっているため、専攻科修了者はそのプログラムの修了も所定の条件を満たすと認められ、技術士1次試験が免除されて「修習技術者」となる資格が与えられます。この「JABEE認定教育プログラム」は昨年度

継続審査が行われ、本校はさらに5年間の継続が認められました。「JABEE認定教育プログラム」を満たすということは、学士レベルの技術者育成の基礎教育の質が保証されていることにもなります。

昨年度までは、この『学士』を取得するための過程として、10月に大学評価・学位授与機構に学修成果レポート（特別研究論文）を提出、次に12月福岡で行われる小論文試験を受験、それらの結果を大学評価・学位授与機構が評価し、可否が判定されていきました。しかしながら、本校専攻科は昨年度行われた大学評価・学位授与機構の「特例適用の認定に関する審査」に3専攻とも合格したことから、今年度より学内で論文評価を行い、その結果を大学評価・学位授与機構に報告することで学位が授与されることになりました。よって今年度以降、専攻科生にとっての諸負担が大きく軽減されていくことになると思われます。

特例適用が認められたことにより、特別研究を指導できる教員が大学評価・学位授与機構から認められた教員（研究業績により評価）に限定されることになり、教員がより一層研究向上に努めることが求められております。

高専では本科5年生で卒業研究を行い、その中の一部の学生（卒研生）は研究内容を大学・大学院の学生に混ざり学外で発表しています。専攻科においては、この学外の研究発表（学会発表）は特別研究の単位取得要件の一つであるため、専攻科生全員が在学中、各学会で研究発表を行います。近年では、専門性の高い全国規模の学会で発表して「優秀講演者賞」等を受賞する専攻科生も増えてきており、研究活動の実力が大学・大学院生と肩を並べるレベルにあると言っても良いのではないかと思います。この学外研究発表は専攻科生にとって大変印象深い体験として残るようで、発表後に、さらにスキルアップしていきたいという向上心を刺激される者も多くいるようです。このように、研究に対する意識が変わることで、後に、大学院博士課程の学生が投稿する審査付き論文へ本校在学中に投稿し、大学院進学後、日本学術振興会特別研究員の資格を得て、国から給与（生活費）である研究奨励金をもらいながら研究を行う修了生も現れております。

専攻科では、研究を通じた国際交流も進展しつつあります。一例として、今年度8月にマレーシア工科大学（UTM）土木工学科と本校専攻科とでLoCを締結し、12月に約10日間、UTMの大学院生2名（博士課程1名、修士課程1名）を受入れました。海外の大学生と共に研究活動した専攻科生には、大人の研究者としての自覚がうかがえました。この経験を通じて、自身が研究を通じ、国際的に活躍しうる可能性があるということを実感し、自信

と誇りを持ってくれたことと思います。

今後は本校の専攻科生をUTMへ派遣し、新たな国際交流（学術交流、文化交流）を進めていきたいと考えております。

以上のように、本校専攻科は、研究を通しより多角的な経験を積んでいくことで、多くのことを考え行動できる、「真の技術者」の育成に力を注いでおります。常に専攻科生が研究に打ち込める環境作りを第一に考え、専攻科自体も大学・大学院に負けない強い教育・研究組織となるよう、職員一同努力してまいります。

国際学会ISTS2015に参加して

電気情報システム工学専攻1年 末永 祐磨

2015年、夏、いつもなら近づいてくる夏休みにワクワクしている頃であるが、今年はいつもととは違った。僕は不安感を抱きながら夏休みを待っていたのだ。不安感の正体は、マレーシアで行われるISTS2015だ。ISTSとは、国際的な雰囲気の中で高専学生に英語による研究成果を発表する機会を与える目的で行われている国際シンポジウムである。僕は、海外に行くことも初めて、公式な場での研究発表も初めて、英語での発表も初めてと、この三拍子がそろってしまった。そのため本当に不安だった。僕は、少しでも不安がとれるようにそれこそ期末試験の勉強そっちのけで入念に準備を行った。

8月2日、出発の日を迎えた。前日しっかりと睡眠をとることができ、万全な状態であった。マレーシアのクアラルンプールまでは、鹿児島から羽田を経由して9時間を超える大移動だった。そして、なれない英語で入国審査を済まし、僕は初めて外国を体験した。

到着当初、マレーシアに対し、僕は外国という感じをあまり受けていなかった。しかし、時間が経つにつれ、日本と全く異なる点に気づけた。国民の多くがイスラム教であるマレーシアでは、全ての物がイスラム教を中心に回っていた。すべてのスケジュールは礼拝に合わせたもので、町の中には多くのモスクがあり、酒類を取り扱っている店がほとんどないという具合だ。さまざまな違いに気づき、驚き、楽しむことが海外に行くことの醍醐味の一つだと感じた。

そして到着後、僕は他の高専の学生とマレーシア、インドネシアなど他国の学生と共に、ISTSのプログラムに参加し、発表の日を迎えた。

発表は滞りなく進み、僕は何度も発表をイメージ練習している中、自分の番を迎えた。発表は、再生する予定だった動画が再生できない問題も生じてしまったが、とっさに英語で謝罪することができ、発表自体も満足いくものだった。一番心配していた質問も事前の準備のおかげでうまく返答できた。僕はこれ以上ないくらい位の成功だったと思っている。

その後も、ISTS参加学生との交流は続き、約10日間の日程を終了した。僕はこのISTSで得たことは、積極性、海外渡航の経験、そして何より自信だ。ISTSは僕に不安や多くの試練を与えたが決して参加を後悔するようなものではなかった。日本に帰るときには、海外に行く前のどんよりした不安感は、すっきりした気分になっていた。

ISTS参加後、僕は大きく変化したように感じる。今までよりも活動の幅が広がり、多角的な視点から物事が見えるようになった。そのせいか、様々なことになんにも前向きにチャレンジしようと思えるようになったのである。もし、何か気になることがあって、挑戦できていない人がいるのなら、ぜひとも挑戦してみることをお勧めしたい。その一つの行動がその後の自分を大きく変えることができる可能性を持っているのだから。



大分高専から鹿児島高専専攻科に入学して

土木工学専攻2年 山下 大貴

私にとって、この鹿児島高専専攻科での二年間は、これまでの人生において、最も自分を成長させてくれた時間だったと感じています。

私は大分高専の都市システム工学科を卒業し、鹿児島高専専攻科土木工学専攻へ入学しました。少し異色の経路を辿った私が置かれた状況は厳しいものでした。まず単位互換の関係で、単位認定されない単位があり、修了するためには、専攻科二年間で開講されるほとんどの科目の単位を修得しなければなりませんでした。さらに、二年次からは学位授与における特例適用制度に伴って、研究室を異動し、一年次と異なる研究テーマで研究活動、論文作成を行うことになりました。一から研究活動を行いながら、馴染みのない他専攻分野の科目の講義を受け、さらには、これに加えて本科四年生と一緒に実験とレポートをこなしていた時期もありました。入学する前は、五年間を共にした仲間の集まりの輪に入っていくことに対して、強く不安を感じていましたが、クラスの皆は私をすぐに受け入れてくれ、サポートしてくれました。鹿児島高専専攻科での二年間、様々なことがありましたが、皆の支えがなければ到底乗り越えることができなかったです。

この二年間、限られた時間の制約の中で、多くのやるべきことをこなし、時間に追われる日々は辛いものでした。しかし、自分が成長するには、とてもいい環境だったのだと気づきました。大分から鹿児島に来ていなかったら出会うことの出来なかった多くの人と関わることができ、二年前の自分と比べ、視野が広がり、物事に対する考え方が大きく変わったな、と実感しています。

今後の人生において、ここで培った経験が、心の柱として、これからの私を支え続けてくれるものになると確信しています。

最後になりますが、ご指導して下さった先生方、専攻科の皆さんや研究室のみんな、関わって下さった全ての方に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

海外インターンシップに参加して

機械・電子システム工学専攻1年 杉山 大晴

私は夏季長期休暇を利用して、MK WATERTech CO., LTD.での4週間にわたる海外インターンシップに参加した。MK WATERTech CO., LTD.は、タイ・バンコクにある水処理関係の会社で、主に排水処理装置や工業用水装置などの設計や施工、メンテナンスを行っている。

私がこのインターンシップに参加した大きな理由は、自身のグローバルマインドやコミュニケーションスキルを伸ばせる貴重な体験だと感じたからだ。

実習は主に日本人社員に同行し、お取引先様との打ち合わせ、現場見学を行った。オフィスワークとして、輸送する物品のチェックリストの修正やオペレーションと装置のマニュアルの作成（コピー）を行った。タイ人社員に同行したときは、英語でコミュニケーションをとり、一緒にメンテナンス作業を行った。また、各作業について説明を受けた。

本実習を通して各お取引先様の工場の廃水処理施設について図面と現場見学から

- ・タイのどこにあるのか
- ・どのような製品を造る工場なのか
- ・どのような工程で出る廃水を処理するのか
- ・その廃水には何がどのくらい含まれているのか
- ・どのくらいの量を処理できるのか
- ・各廃水処理工程では何がどうなるのか

を理解し、説明できることを最終的な課題として造廃水処理についての発表を行った。

出発前は、約4週間海外に滞在するという不安と期待でいっぱいだった。また、廃水処理に関する知識が全くない状況で、大丈夫だろうかと心配だった。廃水処理に関しては、初めて勉強することになったが、専攻している分野と違うため覚えることが少し大変だった。しかし、実際に現場に行き、廃水処理施設と図面を照らし合わせながら考えることで、次第に廃水処理に関して理解できるようになった。頭で考えるだけでなく、実際に目で見て、話を聞くことも大切だと感じた。社員の方々はとてもフレンドリーで、楽しく実習することができた。タイ人社員とは英語でコミュニケーションをとり、日常会話はなんとか話することができたが、廃水処理関連の説明を受けた時は専門用語が分からず苦勞した。将来、働く上では高い英語力を身につけ、スムーズに会話できるようになる必要があると感じた。そのため、英語をもっと勉強しなければならないと思った。また、将来技術者として製品を造る上では環境に対する配慮というものは

考えていかなければならない問題であるため、今回得た知識というのは将来どこかで役に立つと思う。

この1カ月間のインターンシップを通して、自分のなかの人生に対する考えというものが少しでもよい方向に変化したことは、大きな収穫であった。

最後に、今回お世話になった社長をはじめ、MK WATERTech CO., LTD. の社員の皆様に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

マレーシアを出る日に、数名の学生が空港まで見送りに来てくれて、「また、マレーシアにおいで」や「とても楽しい一か月でした」といつてくれたので、とても嬉しくまた訪れたいと思いました。

今回の学生交流は、海外の同年代の学生と交流できるとても良い機会であり、交流後は「もっと英語を学び、よりコミュニケーションを取れるようになりたい」という、英語の学習に対する意識向上にもつながりました。

学生交流は補助費も出るの、皆さんぜひ学生交流に参加してみませんか？

海外学生交流に参加して

電気情報システム工学専攻1年 奥園 広大

九月の始め、マレーシア・ペトロナス工科大学（UTP）の学生と北九州高専の学生が鹿児島を訪れ、学生交流がスタートしました。始まる前は、自分の英語力でうまく彼らとコミュニケーションを取ることができるのかとてもドキドキしていました。しかし、最初の目的地である鹿児島県アジア太平洋農村研修センター（CAPICセンター）に向かうバスの中で会話をした際に、言葉は完璧に伝わらなくてもコミュニケーションがとれることがわかり、その後はとても楽しい雰囲気移動を行うことができました。CAPICセンターでは、一緒にスポーツをしたりしながら、プロジェクトについて話し合いを行ったり、鹿児島高専に拠点を移した後はプロジェクトの進行や鹿児島観光ということで、仙巖園や天文館などを巡りました。日本語では簡単に伝えられることも英語では中々難しく、大変でしたがとても楽しく有意義な時間でした。

あっという間に楽しい2週間が終わり、ついにマレーシアに向かう日が来ました。マレーシアのクアラルンプール空港に着いて、周りの言語が全て英語やマレー語で書かれているのを見て、改めてここは日本ではないのだと思い、とてもドキドキしました。マレーシアでの生活は日本では体験できないものばかりで、とてもいい経験でした。食べ物は辛いものが多く、地元の学生に説明してもらいながらでしたが、安くておいしいものばかりでした。ほかにも、モスクなどの建物は日本の建物とは全く異なり派手なものが多いですが、その中にも細かい装飾がしてありとてもきれいで、同じモスクでも装飾や構造に違いがあり、見るだけで楽しめるものが多かったです。



写真1 プロジェクトメンバー集合写真

長岡技術科学大学での インターンシップを終えて

機械・電子システム工学専攻 1 年 川原 和也

長岡技術科学大学は本科卒業生の編入先としてよく知られている。私はこの長岡科学技術大学に今年度の夏季長期休暇を用いてレジエントインフラ・短期インターンシップ生として受け入れて頂いた。期間は9月7日から9月11日の5日間。インターンシップの少し前の時期から寒さを予想して、長袖やジャケットをカバンの中に押し詰め、今か今かと心待ちに学校生活を送っていた。そしてついにインターンシップ前日、長岡駅近くのホテルに泊まり、一晚を過ごしたがやはり空気は冷たい。しっかりと防寒着を準備していた自分を褒めるばかりだった。

翌日、打ち合わせしていた通りに、大学でお世話になる研究室の先生と駅前で待ち合わせた。大学までの移動は車だったが、道のりは長く、その間に軽い自己紹介や、一週間のスケジュールの確認を終わらせることができた。大学に着き、最初に行くことは先輩たちとの対面だ。正直、緊張で上手く話せるか不安で仕方がなかったが、先輩方は気さくで優しくかった。このとき、組織の中で自分が最年少であるという感覚は久しぶりであった。鹿児島高専では専攻科が最も上位の学年だからだ。自然に話をしているつもりだったが、ふと、方言の違いが気になった。よくよく聞いてみると、鹿児島ほど訛っておらず、むしろ、標準語では？と思うほどだった。普段、標準語で話すことがないため標準語なのかどうかも分からない。それに付られてか、私も標準語で話せていた（気がする）。

新潟を訪れて、研究室との方々との初対面を終え、早速、スケジュールをこなす。1日目は緊張もあり、早く過ぎたと思っていたが、5日間もあっという間だった。ひたすらにさまざまな測定機器を扱った。難しかったが、鹿児島高専では経験することのできないことである。睡魔が時折襲ってくることもあったが、必死に目を開けて話に耳を傾ける。最終日には自身が行っている研究、インターンシップで行ったことを発表した。緊張はしたものの、練習通り話せていたのではないかなと思う。

鹿児島高専に閉じこもっていたは、この経験はできなかった。外に出なければ知ることを感じることもできない。どんなに小さなことでも、一つでも気付けたのなら、それは自分にとって、少なくともプラスにはなる。

5日間という短い間ではあったが、インターンシップを受け入れて頂いた長岡技術科学大学の木村研究室の皆様、またこのような機会を与えてくださった新田先生に感謝する。

専攻科に入学を決めてから

建設工学専攻 1 年 池田 匠児

私が専攻科に入学して、はやくも1年が経ちました。鹿児島高専6年目とあってあまり新鮮味はありませんでしたが、毎日授業と研究に明け暮れる日々で、あっという間の1年でした。

そもそも、私が専攻科を志望理由としては、大学と同じ学位を取得したいという思いと、研究というものに憧れを持っていたいというのが大きいです。以上の理由から、本科4年次の前期には専攻科への進学を決めていました。

本科5年次には本格的に研究を始めることとなりました。実際にやってみて想像よりも大変で厳しいものでした。不安感が常に付きまとい、正直投げ出してしまいたいと思うこともありましたが、しかし、研究室の先輩や友達、指導して下さる先生に助けられ、無事、卒業研究発表までやり遂げることができました。

専攻科に入学してから、5年次のときと変わらず、授業と研究で忙しい日々を過ごしてきました。時にはレポートに追われ、時には研究で徹夜をしたりと大変に思うときもありますが、高専に入学してから部活動もせず漫然と日々を過ごしてきた4年次までよりも充実し、自分の成長を感じられることがとても幸せです。あと1年、専攻科生として学生生活がありますが、来年度も今まで以上に学業、研究ともに励んでいきたいと思えます。先生方、これからも熱心なご指導よろしくお願い致します。

地域共同テクノセンター報告

電子制御工学科 植村 眞一郎

本校における教育理念を達成するための3つの目標の一つに、「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する」ことが謳われています。それを具現化したものとして、鹿児島高専「地域共同テクノセンター」があり、本センターは鹿児島県を基盤とする企業（主に錦江湾テクノパーククラブ（KTC）会員企業）や行政機関（国、県、市町村等）などと連携し、企業との共同研究や技術相談、地域企業の技術者の人材育成事業、本校の学生に対するインターンシップなどによる地域企業との共同教育を行うための拠点施設です。本校がこれまでに蓄積した研究成果を元に、共同研究、技術相談、技術者教育を集約的に行うことにより地域の技術力を高め、地域産業の振興・活性化を支援し、地域の経済力の向上に貢献することを目的としています。本センターに、「地域交流部門」「共同研究部門」の2部門を設け、地域の中小企業及び行政と連携して、共同研究や技術相談、技術者の再教育機能を強化し、産学官連携機能や地域の活性化を図っています。また本センターは、鹿児島高専の支援組織である「錦江湾テクノパーククラブ」の事務局としての役割も担っています。このように、本センターは、鹿児島高専の研究機能と技術教育機能、地域との産学官連携機能、地域の人材輩出を担い、その一元化を図っていることに特色があります。

平成27年度の本テクノセンターは、センター長のほかに、楠原副センター長（電気電子工学科）、西留地域交流部門長（都市環境デザイン工学科）、南金山共同研究部門長（機械工学科）の4名、及びテクノセンターの各部門を支援する遠矢産学官連携コーディネーターと事務部の安楽企画担当総務課長補佐、田尻企画係長、塩盛企画係員を中心に運営しています。本年度は通常の業務の他に、さらにCOC+事業が加わり鹿児島大学を中心にオール鹿児島で取り組む枠組みのひとつに、「鹿児島高専COC+事業」として、本校独自の様々な取り組みを進めています。その詳細は、本号の特集号で述べているとおりです。取り組みの概要は、学生にとって大事なキャリア教育を推進していくためのKTC会員企業を中心とした地元企業を良く知る活動に注力していることです。1年生などを対象とした企業の工場見学に出かけ、また4年生を対象とした企業研究会などを本校で実施するなど、鹿児島で活躍している企業を知る機会を多く提供することで、鹿児島の製造業を中心とした企業を良く知

り、やがては地元に残って地域発展に貢献しリードする技術者として活躍出来る人材を育成することも本校の重要な役割であり、そのための地域共同テクノセンターとしての機能を発揮すべく取り組んでいます。

KTC会員企業 アルバック九州（株）訪問

共同研究部門長 南金山 裕弘

7月末に遠矢CDが企業訪問した際に、「教職員・学生の企業見学」について話をしたところ、快く受け入れていただき、早速、翌日には生産技術本部：渡邊憲志本部長に來校いただいて打ち合わせを行いました。今回は教職員のみでの見学ということで、後日、日程調整の結果、9月17日（木）の午後2時から4時までとなりました。

当日の参加者は、植村地域共同テクノセンター長をはじめ、10名でした。

到着後、ビデオ映像等で会社概要を説明していただき、その後、1時間程度、各部署を見学させていただきました。全自動化された大量生産とは異なり、その多くは職人技とも言える細かい作業がはいった工程で、目から鱗が落ちる思いでした。

見学後、概要説明を受けた部屋に戻ると、在職中の本校OBが待機しておられて、予定時間ぎりぎりまで楽しく歓談する機会もありました。

今回、参加されなかった教職員の他、学生にも、一度は見学してもらいたい企業の1つだと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、見学を快く受け入れて頂いたアルバック九州（株）の皆様には心より感謝いたします。



かごしまITフェスタ2015

地域交流部門長 西留 清

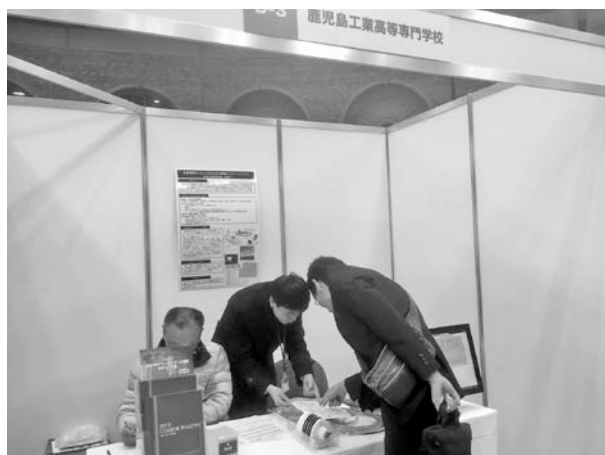
平成27年12月5・6日鹿児島アリーナで「ITワールドかごしまITフェスタ2015」が行われました。主催は鹿児島市を中心としたかごしまITフェスタ実行委員会（7団体）です。後援は総務省九州総合通信局等16団体であり、本校も後援しています。昨年の本ITフェスタに約10,000人の入場者がありました。本年度の入場者は昨年よりは若干少なかったとのことです。スペシャルステージでは「最新技術で挑む文化遺産保存プロジェクト」と題して東京大学名誉教授の池内克史氏の特別講演等が行われました。

本校も3つの部門で出店・協賛イベントに参加しました。一つ目が教育と行政を考えるゾーンで都市環境デザイン工学科の窪田教員が「環境情報観測ネットワーク」を紹介しました。年齢の高い方が結構興味を示されていました。本校のテクノセンター広報誌「研究シーズ」も来られた方々が興味深くみていました。また、学校紹介パンフレットも若いご夫婦が持帰り、持参した約100冊がなくなりました。

二つ目が「高専工作教室」です。本教室は毎回好評を博しており、本年度で第8回目を数えます。いま注目されているLEDやソーラーパネルを使用した教材により、電気エネルギーを体験させて、ものづくりの楽しさを実感させるべく、小中学生向けの工作教室を実施しました（小学低学年生@30名×2コマ、小学高学年生・中学生@30名×2コマ）。各コマとも競争率3〜4倍となる申込でした。本教室では、九州パワーアカデミー様のご支援も頂いています。製作時の子供たちの目の輝きは勿論、製作したものを嬉しそうに持ち帰る姿にも満足のオーラが窺えました。「親子でのほのぼのさ」も見られ、親子での参加が本教室の効果をよりアップさせ、親子のコミュニケーションツールとしての効能も見受けられました。今回も本教室は大好評であり、参加者様からは「来年もまた実施して下さい、楽しみにしています。」旨お声掛け頂き、主催者（鹿児島市）様からも大いに感謝されました。電気電子工学科中村教授、前菌講師、技術室永田技術専門職員、松尾技術専門職員、電気電子工学科5年学生5名が指導にあたり、指導にあたった学生にとっても、毎回、TAしながら大変良い機会となっています。

三つ目が「E Tロボコン鹿児島ITフェスタ杯」の運営をE Tロボコン九州南地区実行委員会の一員として鹿児島高専の玉利教授と芝囑託教授が担当しました。本

校の学生もITフェスタ杯に出場し、アドバンスドクラスで準優勝でした。また、6日に「E Tロボコンの仕組みについて」という演題で玉利教授がE Tロボコンの競技規則や仕組みについて講演を行いました。



新1年生との面接を終えて (田中先生)

学生何でも相談室長 三原 めぐみ

例年、心理テストの結果でストレスの高い1年生を対象にカウンセリングを行っていましたが、今年度は1年生全員にカウンセリングを行いました。それに伴い、新たなカウンセラーとして田中一朗先生が来てくださいました。田中先生からコメントをいただきましたので、掲載いたします。

田中一朗

4月末から約3ヶ月間前後、20回にわたり、新1年生との面接を終えることができました。

何しろ、ぼく自身が「高専」なところを初めて経験する身で、恥ずかしいことながら、中学卒業生が進学する、修業年限は5年間、5専攻ある、男子学生が圧倒的に多いということ等、知らないことばかり…。

おまけに、新1年生とはいえ、どういう内容のことを、どこまで突っ込んで聞くべきか等、全く雲をつかむような感じの態度で、いろいろと迷惑や心配をかけたのではと案じています。

ぼく自身、実施されたY-G、CMIの結果、プロフィールをもとに、家庭の状況や本校受験の動機、入学前後のイメージの違い、先日行われた学内テストや本校・学生寮などへの印象などを中心に話を進めてきたつもりです。

その中で、まず感じたことは、「〇〇を5年間のうちに勉強したい」「▽▽を経験し、身につけたい」というような本人自身の意欲というか、この5年間のうちに何を学びたいのかという「目標」みたいなものをうかがわせるような前向きな発言が少なかったということです。いわば、「〇〇が勧めたから…」とか、「就職率がいいからと聞いて決めた…」というような、他人依存的な受験動機が印象に残りましたが、この点は中卒ということもあり、無理からぬ話かもしれません。

2番目には、両テストともに、いわば「D類型」-「IあるいはII領域」と判定されるような望ましい結果、プロフィールを見せてくれる学生が、意外に少なかったということです。

言いかえれば、少し、辛辣な意見になるかもしれませんが、想像以上に、「E型」-「IIIあるいはIV領域」と判定されるような学生が多かったという印象です。

その点、見方を変えれば、「個性」のあるいろいろな学生が集まってきているとも言えますが、将来、多かれ少なかれ、何かの問題を有しているのではとも思いました。

若い時分は、やり直しがきく、むしろ、「失敗」ともいえるようなことも、どんどん経験して、今はつらい、苦しいことかもしれないが、やがてはそれを糧にしてほしいこと等も伝えましたが、果たして、どう受け止めてくれたかは分かりません。

また、「不登校は、一因がコミュニケーションの失敗にもあるのでは…」とっていますが、コミュニケーション技術の獲得の出発点は、家庭における両親や兄妹とのあり方、接し方ではないかとも思っています。

その意味で、帰宅した時の両親の態度や兄妹の有無、接し方等を聞いたつもりですが、いわゆるコミュニケーション技術のまずさは、現代の学生たちの特徴かもしれません。

何かつまづいた時や悩みが生じた時は、そのことを自分だけで解決しようと思わず、第三者に相談することの大切さや、話すこと、書くこと（出す当てのない手紙や人に見せる当てのない日記を書く…）を試みてほしいこと等、とにかく、自分の内面的な思いや胸の内を「言語化する」ことの大切さを伝えたいつもりです。

何しろ、初めての経験で、十分につとめが果たせたのかどうかははなはだ疑問ですが、むしろ、ぼく自身がいろいろと学び、経験させていただいたことを感謝しております。ありがとうございました。

* 「D類型」-「IあるいはII領域」

情緒安定・積極的・外交的・健康あるいは普通

* 「E類型」-「IIIあるいはIV領域」

情緒不安定・消極的・内向的

ーややノイローゼ型あるいはノイローゼ型



宇宙の天気予報と高専からの情報発信

一般教科理系 篠原 学

「はやぶさ2」、「あかつき」と、日本の人工衛星が宇宙探査で大活躍しています。この衛星たちが飛行している宇宙空間では、目には見えないのですが、電磁気的な環境変化が起きていて、人工衛星に様々な影響を及ぼしています。これを「宇宙天気」とよんでいます。

太陽は、太陽風というプラズマの風を周囲に吹き出しています。風速は、通常でも秒速400kmもあり、太陽で激しい爆発（フレア）が起きると、秒速2000kmの暴風が飛び出すこともあります。この太陽風は、太陽系全体に広がりますが、地球にやってくると、地球の主磁場が作り出す磁気圏に作用してエネルギーを与え、地球周辺の宇宙空間で、磁気嵐やオーロラ嵐を起こすのです。この嵐は、周囲を飛行している人工衛星に影響を与えます。電子機器が故障したり、誤動作したり、最悪の場合、衛星全体が機能停止してしまうこともあります。

放送衛星、気象衛星、GPS衛星など、宇宙利用が進んでいる現在において、宇宙の天気予報はたいへん重要な研究テーマなのです。世界各地の研究機関・大学で、観測や予報が行われています。

その一方、カナダや北欧へ行くオーロラツアーに代表されるように、宇宙天気は眺めて楽しめる科学でもあります。インターネットを使って、極域のライブカメラでオーロラの輝きをリアルタイムで見たり、太陽観測衛星の高精細画像により、太陽で起きているフレアやCMEなどの爆発現象を、誰でも簡単に楽しむことができます。

こうした宇宙天気の楽しさを知ってもらうため、私は「宇宙天気ニュース」というWebサイトを運営しています（<http://swnews.jp>）。2003年に情報通信研究機構で公開を開始して、2010年からは鹿児島高専にサイトを移転し、現在も活動を続けています。

日々の宇宙天気現象を、できるだけ読みやすい文章で紹介し、眺めるだけでも楽しめるように、動画や写真をふんだんに掲載しています。現在、1日あたりおよそ6000件のアクセスがあり、2015年のアクセス数は220万件になりそうです。読者は、一般の方々と、内容についての質問メールをいただいたりしています。

このような宇宙天気ファンの方々に支えていただきながら、これからも宇宙天気情報を鹿児島高専から発信していきたいと考えています。

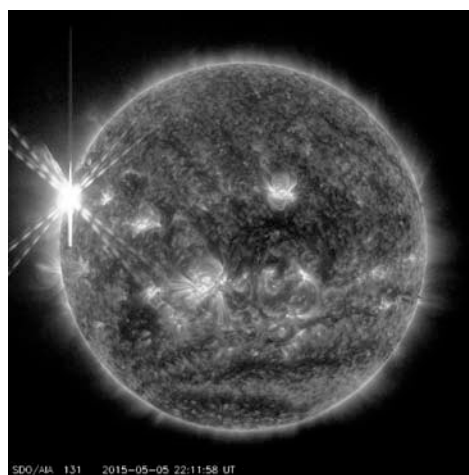


図1

2015年5月5日に太陽で発生した爆発現象「フレア」。太陽の左端が激しく輝いている。撮影は、NASAのSDO衛星。



図2

2015年2月10日に太陽で発生した爆発現象「CME・コロナ質量放出」。中央の白線の丸は、太陽の大きさを表す。撮影は、ESA・NASAのSOHO衛星。

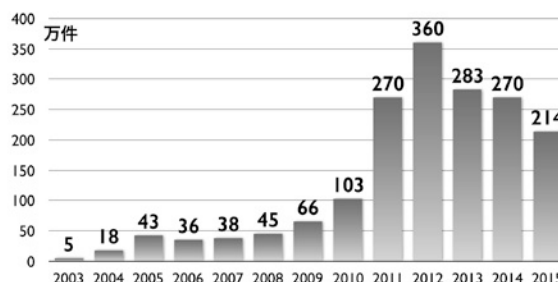


図3

宇宙天気ニュースの年間アクセス件数の推移。2015年は、12月9日までの集計。単位は万件。

噴流の拡散制御に関する研究

機械工学科 田畑 隆英

機械工学の流体工学の分野に「噴流」の細目があります。流体工学では、液体や気体等の流れの状態や力学的関係を調べます。流体は空気や水、油等、身近なところにあり、取り扱う流れとしては、小さなスケールでは私たちの体内にある毛細血管内の血液流れから、大きなスケールでは地球規模の大気の流れまでを対象としています。大気の流れとしては、天気予報があります。気象観測データを基にして、物理学、熱・流体工学の方程式を用いて、スーパーコンピュータで風や温度、大気圧の時間変化を計算して、天気予報が行われています。このように、流体は、私たちの生活にとっても密着しているといえます。

また、一般に、流体の流れは、直接、目で見ることができません。しかし、流れに追従する微粒子や染料を流体に混入し、その動きを観察することで、間接的に流れを視ることができます。これを「流れの可視化」と呼び、最近では、テレビ番組で「空気砲の実験」等でよく見られるようになりました。これは、円形の穴を1つ開けた箱を線香等の煙で満たし、両側から箱をたたくと、穴から勢いよくドーナツ状の渦輪が飛び出すというものです。渦の回転力によって、かなり遠くまで渦輪が進み、やがて崩壊していく様子が観察されます。

さて、私は「噴流の拡散制御に関する研究」を行っています。噴流とは、小さな孔（あな）から流体が勢いよく流れ出る現象でジェットとも呼ばれます。身近には、エアコンの風、お風呂のジェットバス流、自動車のマフラーからの排気、航空機のジェットエンジンからの排気に噴流をみることができます。噴流では、小孔から流体が流出した後、渦輪が連続して生じ、下流へ進むにしたがって、次第に渦輪の直径が大きくなり、速度は減少します。そのため、先行する渦輪に後発の渦輪が追いつき、合体した後に崩壊していきます。

渦はまわりの流体をに引き込む性質があるため、渦が存在するとまわりの流体との混合が促進されます。ここで、私たちは味噌汁に味噌を溶かすとき、何気なく玉じゃくしで鍋の中の汁をかき回します。これはたくさんの渦をつくることで味噌と汁の混合を活性化させ、早く溶かし込んでいることになります。

このような渦輪を何らかの方法で刺激（励起）することで噴流の拡散（拡がり）を制御することができます。その応用としては、例えば、渦輪の成長を遅らせることで、拡散は抑制され、結果的にエネルギーを狭い範囲に

限定して遠くまで輸送することができます。一方、渦輪の成長を早くすることで、周りの流体との混合が活性化され、噴流の拡散は促進されます。

現在は、噴流の拡散制御を目的として、「ノズルの出口形状を正方形から十字形、再び正方形へと連続的に変形させることによって、噴流の拡散を制御する研究」、ならびに、「シンセティックジェットと呼ばれる往復振動流の副噴流を用いて、主噴流を励起して拡散および流動する方向を制御する研究」をテーマとして、学生とともに流れの可視化や速度計測を行いながら、研究を行っています。

次世代エネルギーとその応用に 関する研究

電気電子工学科 榎根 健史

私が現在取り組んでいる専門分野は「エネルギー変換工学」です。中でも、これからの地球環境に適応可能な電気エネルギーを「作る、運ぶ、収穫する」ことを目的として、様々な研究を行っています。今回はこれらの一部を紹介します。

○未来のエネルギーを「作る」核融合に関する研究

核融合とは、軽い元素同士を無理やりくっつけてエネルギーを得る、究極のエネルギー発生技術です。太陽の内部では、この核融合が行われていて、太陽系全体にそのエネルギーを放出しています。太陽の直径は地球の約100倍で、その中心部の重力も桁外れに大きく、高温・高圧の状態となっています。この高温・高圧の状態を人工的に作りだせれば、地球上で核融合を実現することができます。言うのは簡単ですが、実際には複雑・困難で、多くの研究機関で、今なお核融合の実現に向けた研究がなされています。私はその極末端の部分の、プラズマによる超高圧力の生成に関する研究をしています。もちろん、この研究は単独では到底できませんので、新潟県にある長岡技術科学大学原子力システム安全工学専攻との共同研究で行っています。この大学内には、瞬間的に数GW（ギガワット）の電力を供給できるパルス発生装置があり、この装置を使って電子ビームを照射し、高密度プラズマを生成しています。なんだか難しい言葉ばかりになりますが、とにかく、次世代エネルギーの中核となりうる大きなエネルギーの一端を研究しています。

○電気エネルギーを無線で「運ぶ」非接触給電に関する研究

環境に優しい電気自動車やハイブリッド自動車など、電気エネルギーを中心としたサステナブルモビリティの需要は、今後益々高まります。このような自動車を、現存のガソリン自動車並みに普及させるには、小型大容量バッテリーの実現と、それらを急速かつ高効率で充電するための充電設備の開発が必要不可欠です。私の研究室では、この充電について、重たい電力ケーブルを車体に直接接続することなしに、非接触で給電するための研究を行っています。実際の電気自動車を用いた研究は難しいため、研究室の所有する電気カートを利用し、この電気カートのバッテリーを充電できる程の小さな非接触給電装置の製作と、その特性評価を行っています。電動歯ブラシや髭剃りなど、非接触給電を用いた小型製品は多くありますが、電気自動車用となるとなかなか難し

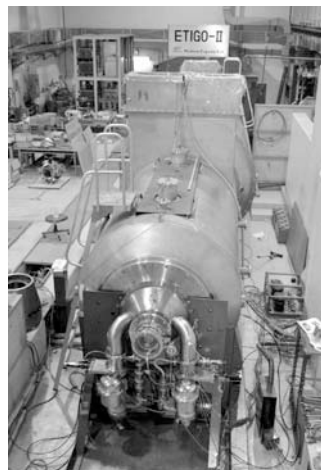
く、特に、給電側と受電側の装置のズレによって効率が急激に悪くなるため、これを如何に克服するかが、研究の重要なポイントとなります。この研究は、九州工業大学電気電子工学科の先生との共同研究で行っています。

○使わないエネルギーを「収穫する」エネルギーハーベスティングに関する研究

エネルギーハーベスティングとは、文字通り、エネルギーを収穫するということです。収穫すると聞くと、なんだか大きなものをかき集めるイメージがありますが、実際には、その辺にある小さなエネルギーを拾い集めると表現した方が良いでしょう。私たちの身の回りには、音波や電波、さらには熱や振動、圧力など、目に見えない多くのエネルギーが存在しています。これらのエネルギーは極小さく、捨てられて当然ですが、せっかくなら拾い集めて使いましようというのが、このエネルギーハーベスティングです。私の研究室では、その辺の電力線から出ている微弱な磁気エネルギーを収穫して、データ通信用の電力として利用するという、地味な研究をしています。一見、貧乏くさい研究ですが、パワーアカデミー研究助成という助成金を得て地道に研究を続けています。

このように私の研究室では、大きなエネルギーから小さなエネルギーまで幅広く研究しています。これだけ多くの内容を研究できるのも、私の研究室で一生懸命頑張ってくれている学生達のおかげだと思っています。私の研究室の学生を見ていると、学生個々のエネルギーは小さいですが、集まれば期待以上の大きなエネルギーとなることを実感できます。それが高専生の良さだと思っています。

貧困や格差、地球温暖化など、エネルギーを中心として地球全体の抱える大きな問題が山積みです。皆さんも一度、これからのエネルギーについて考えてみてはどうでしょうか。未来を予測して、今行動できるのは人間だけです。そうすることが、一番エネルギー効率が良いと思います。



大強度パルス発生装置
(長岡技術科学大学)

ベルギーでのEUSPEN2015に参加して

電子制御工学科 島名 賢児

2015年6月1日～5日の期間にベルギーのルーヴェンで開催された精密加工に関する国際会議15th EUSPENに参加してきました。ルーヴェンはブリュッセルから列車で30分ほど東へ移動したところにある街です。私は知らなかったのですが、ルーヴェンといえば世界1、2位を争うビールメーカーの本社がある街で、地元の人らしき人々は夕方早い時間から屋外のテーブルでビールを飲んでいました。街はこじんまりとしていて、街の中心には大きな教会もあり、静かでとてもいい街でした。参加した国際会議は街の中心部にあるKU LEUVEN（ルーヴェン・カトリック大学）という1425年に設立された歴史あるキリスト教系の大学のキャンパスの一つで開催されました。駅から歩いて15分ほどで会場の大学に到着しましたが、建物の外観は重厚な石造りで、とても歴史のある建物に思えました。中に入ると壁の高いところにキリストの像が所々に設置してあり、キリスト教徒ではない日本人の私は不思議な空気を感じました。また、学会の発表会場も教会のような造りで、天井も高く、発表者の声も不思議な響きで聴こえてきました。

さて、今回の国際会議における発表内容は、工作機械において加工中に発生する加工誤差を推定する方法についての提案でした。近年、特にスマートフォンなどのデジタル家電は新製品を次々に発売していかなければならないため、製品の型となる金型を短期間で製作する必要があり、以前は放電加工で行っていたため非常に時間がかかっていましたが、近年ではエンドミル加工での直彫り加工が可能となってきたため、短期間で金型の加工が可能となりました。しかし、金型は複雑な加工が必要であるため、細くて長い工具の使用が余儀なくされ、製品の寸法精度に悪影響を及ぼします。さらに、最近では工作機械の自動化・無人化が進んでいることから、加工誤差の発生を早期に検出し、自動的に補正するシステムの開発が望まれています。したがって研究の最終目標は、エンドミル加工において発生する加工誤差をリアルタイムで検出して補正制御することにより、高能率で高精度の金型加工を実現することです。

最後に、今回初めてベルギーを訪れましたが、今のところ日本からの直行便がないため、どこかの別の都市を経由して行かなければならず、移動時間がかかりかかります。しかし、訪れてみれば美味しいビールがあり（私はアルコールはダメですが）、美味しいチョコレートも

あり（甘いモノは好きです）、地元の人たちもとてもフレンドリーで、とても身近な国に感じられました。また機会があれば訪れたいと思っています。



図1 教会



図2 学会会場



図3 会場内企業展示ブース



卒業に寄せて

機械工学科 5 年 担任 小田原 悟

卒業おめでとうございます。

5 年前、新しい学生生活に心を弾ませ、この鹿児島高専の門をくぐった皆さん。この 5 年間で様々な経験を重ね、いま社会へと巣立とうとしています。思い返せば、授業以外で皆さんと深く付き合うようになったのは担任を引き受けた 2 年前でした。進路を明確に定めている学生や、まだ先のこととぼんやり思っている学生と様々でした。

4 年生の 1 年間は学校行事を運営したり、部活動の中心となり活躍したりと、めいっぱい体験したことで学生生活を楽しんでいる姿が大変印象的で、クラスの団結力も高まり、生き生きとしていました。また、工場見学旅行で、様々な工場を巡り現場の様子を見聞きし就職活動への関心も高まりました。

5 年生になると少しずつ皆さんにも変化がみられるようになりました。将来について本格的に決めていかなければならない時期に差し掛かりました。今年度は例年と違い、就職活動開始時期が違うこともあり、皆さんの戸惑いも大きかったように思います。そのような中、迷い悩みながらも少しずつ自分のやりたいことや進むべき道を見つけ、今自分に求められていることを真剣に考え、就職進学活動に取り組む姿が多く見られ、大きな成長を感じました。担任として皆さんが成長していく姿を間近で見ていたからこそ、機械工学科で学んできた専門的知識や実践的技能を十分に活かし、社会に貢献できる人材になると信じています。

これから社会に出ると皆さんが思っている以上につらく大変なことが多いと思います。しかし、社会的ニーズを考え、今できること、すべきことを明確にし、自ら乗り越えてください。鹿児島高専の学生であった誇り胸に新しい未来に向かって大きな一歩を踏み出してください。

最後に皆さんと過ごした 2 年間は大変充実したものでした。私自身も教員として大いに成長させてもらいました。ありがとうございました。

贈る言葉

電気電子工学科 5 年 担任 井手 輝二

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

高専での学生生活を終え、君たちは就職、進学と自分たちが選んだそれぞれ違う道を歩んでいきますが、この高専での 5 年間という年月は、高校や大学よりも長く、何ものにも代え難い日々であったことと思います。楽しい思い出、つらい経験、心に残る出来事などたくさんの思い出や経験があったことでしょうか。一生の中で最も心に残る日々であったに違いありません。5 年間で知り合った同級生や先輩、後輩は今後生涯の友となり、様々な場面で出会うこともあるでしょう。

高専で学んだことや経験は、直接仕事などで役に立つことがあるかという点、それは無いかも知れません。しかし、必ずそのことはどこかで役立つことでしょう。これから君たちは、一人一人が別々の道を歩んでいきますが、厳しい競争や試練に立ち向かっていかなければなりません。難しい問題に直面した時などに高専での経験がきっと生かされるに違いありません。

高専を卒業したことで勉強が終わったわけではありません。これから高専での在学期間よりもはるかに長い年月に渡って学び続けることが、本当の意味での勉強であり、君たちは初めて学ぶための基礎が身につく、勉強するための資格を得たと考えて下さい。

また、何を行うにしても、体が資本です。時には体と心を休めることも心がけて下さい。学校にもたまには来て、元気な姿を見せて下さい。

これからの皆さんのさらなる活躍を期待します。

卒業、本当におめでとう。

高専生活を振り返って

機械工学科5年 東 雅人

3月11日の震災で自然の恐ろしさと技術者としての重い責任を感じながら、鹿児島高専に入学したのはもう5年前の事です。時間がたつのは早く、被災した宮城県の石巻線の全線が運転再開してからもう1年経ちます。

高専に入学して一番変わったと思うことは、僕自身の人間性です。中学生のころは、趣味はソフトテニス、性格はネガティブでずっと周りの様子を見ているような人間でした。そのような僕にも、学校・寮生活、部活動、高専祭、卒業研究など自分を変える様々なきっかけがありました。

大きな要因の1つが部活動を5年間やりきったことです。ソフトテニス部に所属し毎日のようにテニスコートに通ったのは僕の青春でした。残念ながら技術の上達はあまりなく、大会でも好成績は収められませんでした。しかし、行事・大会をこなしていくために、メンバーや監督と予定を確認すること、そして、起こりうる様々なハプニングを想定し、対策をたてることをしました。これらも、とても難しく、ほとんど上手くできませんでしたが、現在の僕にとって、活きた経験になっています。そして、かなり少ない練習量で臨んだ5年生の高専大会では、ネガティブな僕でも自信を持つと結構思い通りのプレーができました。やればできるじゃん！！ということを実感することができて自分に自信を持つことの大切さを学びました。

そして2つ目は、卒業研究です。見えない流れ、力を解析する流体力学に心を奪われ、卒業研究は流体研究室にお世話になることを決めました。噴流と呼ばれる流れの解析を研究しているのですが、蛍光灯の発熱や実験室に残っている空気の微弱な流れなどの要因が、測定データにノイズを出すことに気づき、約200時間かけて取ったデータの取り直しが必要となった瞬間の絶望感は今でも忘れられません。試行錯誤の後、更に180時間かけ再測定し、従来よりも信頼性の高いデータが取れたことは、自信になりました。卒業研究を振り返ると、ちょっとした事に気を配ったり、自分の意見をチームにしっかり理解してもらうことが重要だったと思います。

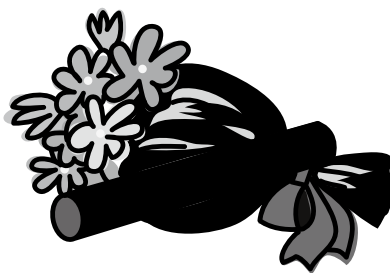
高専に入学していいことづくめでしたが、もし時間が巻き戻せるなら、もっと勉学に励みたかったのが後悔です。今では、勉強を怠りすぎたかな、また、もう少し遊んでも良かったのかなと思います。つまり、僕には、何もしない時間、無駄な時間が多すぎたということです。

これは僕自身の今後の課題であり、在校生の皆さんに

も気をつけてほしいことです。無駄な時間を勉学に励んだり、友人との親睦を深める時間に当てると、より誇りのある鹿児島高専生として卒業していけると思います。無駄な時間を作らないことがしんどいと思うかもしれませんが、これから卒業するまでの時間は、思ったより多くはありません。あっという間に過ぎ去っていく時間を全力で過ごしてください。

最後に、これまで僕のやる気をかき立てるように、熱心に指導してくれた先生方、専攻科の先輩方、部活動と一緒に盛り上げてくれたみんな、監督、コーチ、そして僕たちをいままで心配しながらも暖かく応援してくれた両親、その他大勢の皆さま。おかげでここを卒業できることへの、あふれる感謝の意を胸に僕たちは、それぞれの一步をまた踏み出します。

素晴らしい5年間、本当にありがとうございました。



高専での5年間を振り返って

電気電子工学科 5年 平原 鳳人

私は、鹿児島高専での5年間の生活を通して、多くのことを学び、たくさんの感動を得てきました。入学当初は、勉強についていけるか、寮での生活に楽しめるか、友達100人できるかなど不安もありましたが、充実した5年間を過ごすことができ、無事卒業を迎えることができました。お世話になった先生方や、電気電子工学科の仲間には本当に感謝しています。

さて、私が5年間を振り返るにあたって、私にとって最も楽しかった部活動と、最も辛かった寮の自習時間についてお話ししたいと思います。私はバレーボールが好き過ぎるあまり、初日からバレー部の練習を見学に行きました。すると、私の他に2人が見学に来ており、次の日にはさらに3人来ていました。中学時代は、同学年の部員が私1人だったため、私と一緒に5人も入部する知った時は嬉しさで胸がいっぱいでした。先輩方も優しい方ばかりで、この部活なら楽しめると思い入部し、5年間日々練習に励んできました。中学の時は違い、多くの仲間に関わり、どうすれば強くなるか自分たちで試行錯誤し取り組む時間は、私にとってかけがえのない時間であり、意見の食い違いにより衝突することもありましたが、そういった経験も含めて、自身の成長に大きくつながったと思います。最後の大会は少々悔いの残る結果となってしまいましたが、この部活動を通して、仲間と共に考え、お互いを尊重し合い、協力することの大切さを学ぶことができました。こんな素晴らしい部活動ですが、肉体的に、または精神的に辛い思いをした日もありました。しかし、疲れた体でも寮に戻れば、美味しいご飯にぼかぼかお風呂、あったかい布団のおかげで、スッキリして翌日を迎えることができました。これであの時間がなければ、最高の寮生活だったと思います。平日の約3時間の自習時間は、私にとって本当に辛いものでした。眠気にかけて布団に潜り込んだり、隠れて洗濯機を回しに行った帰りに先生に見つかり、トイレとごまかしたりもしました。なんでこんな時間があるのだろうと、嘆いた時もありますが、今考えれば、必要な時間だと分かります。この時間がなければ成績を保つこともできなかったと思いますし、何より寮といった集団行動が大切な場で、規則を守り生活する力というのは、社会では欠かせないものです。私は寮生活を通して、この大切さを知りました。他にも、学校行事や日々の授業で、私は鹿児島高専から多くのものを与えられました。恩返しになるかは分かりませんが、ここで学んだことをずっと胸に秘めつつ、これからの人生を歩んでいこうと思います。

高専生活のすゝめ

電子制御工学科 5年 坪山 佑哉

入学前、「今しかできないことをやれ。」と父に背中を押されたあの日から、一抹の容赦もなく5年という時間はあっという間に過ぎた。

1000字程度で高専生活の総括を書け。と言われても、実際には難しいものである。大変だったレポートやテスト、寮生活、部活動、応援団、インターンシップに工場見学、そして就職活動。どれも大切な思い出である。とてもA4半分では収まりきれないので、自分が高専生活の中で学んだ教訓の総括としようと思う。

まず「自分の世界を広げる」ことである。私は様々な語学研修に参加する機会があった。他民族が共存するシンガポールでの英語キャンプでは、町の姿に感動した。また、英語という言語の中で生活することで、表現できないもどかしさ、伝わったときの嬉しさが英語をもっと勉強したいという思いを強くさせた。

ベトナムでのテクニカルプロジェクトでは、発展途上のパワーと人の優しさに感動した。まだまだ不十分なインフラと灰色の空を見て、高専で培った技術を活かして海外で働きたいと強く思った。帰国後、養われた自分の目は物事を違うアングルから捉えるようになった。行かないとわからないこと、感じられないことが世界中にはたくさんある。高専には海外研修に参加する機会がたくさんあるので、この文章を読んでいる後輩たちにも積極的に活用してほしい。

次に「自分のやりたいことをやる」ことである。これは意見を押し通して自分勝手に行動していい、というわけではない。応援団、資格の勉強、部活動など、高専は自分の挑戦したいことに全力で打ち込むことのできる素晴らしい環境だと思った。こんなに恵まれた環境で、こんなに自由な校風で、やりたいことを我慢して後悔するのはあまりにももったいない。挑戦したいことを見つけ、達成すること。他人に迷惑をかけない範囲で、今しかできないことを精一杯やること。今しかないんだから。

最後に「感謝すること」。ひらがなや足し算から始まった「教育」の期間が今、幕を閉じようとしている。経済面、精神面で支えてくれた両親、先生方や友人との出会い、本当に多くの人に支えられてきた。また、充実した学校の設備や授業、自分を取り巻く全てのことに本当に感謝の気持ちが尽きない。

普段あたりまえのように過ごしていた5年間も、「高専にきてよかった」と今、胸を張って言えることを幸せだと思う。

卒業にあたって

情報工学科 5 年 松平 直樹

高専に入学して早くも5年が経ち、この学校で過ごせる時間も残り少なくなってきました。入学当初は長いと思っていた5年間でしたが、あっという間に過ぎていき、その間に様々な体験をすることができました。失敗をすることも多く、今後一生体験できないような挑戦もしました。それら全てが私のこれからの人生の参考になる、貴重な経験だったと思います。

1年生では、慣れない寮生活で日々の家事の大変さを知り、親のありがたみを感じることができました。また、応援団や部活動を通して多くの人と知り合うことができ、1つのことを一生懸命に頑張る楽しさや、その頑張りが報われた時の感動を知ることができました。2年生からは工学実験が始まり、毎週提出するレポートに頭を抱えましたが、友人の力を借りつつも乗り切ることができました。この工学実験のおかげで知識だけでなく、レポートを作成する能力や、物事を簡潔に、わかりやすく表現する能力などを身につけることができました。4年生の時の高専祭での応援団や工場見学は書き出すとこの原稿に収まらないほど、心に残る思い出となりました。

5年生になり、就職活動に頭を悩まされましたが、クラスメイトの励ましや、先生方のサポートのお陰で無事内定を頂くことができました。就職してからも、勉強を怠ることなく、しっかりと仕事に励みたいと思います。また部活動では、私自身の努力が足りず、後悔が残る結果となってしまいました。この悔しさも忘れずに、今後に生かしたいと思います。5年生はまだ、卒業研究が残っていますが、精一杯励み、後悔しないような結果を残せるようにしたいです。

これまでの高専での生活を振り返り、私がここまで成長することができたのは友人や先生方、両親の支えがあったからこそだと感じています。自分1人の力でここまで来ることはできませんでした。勉強のみでなく、生活面など様々なことを指導してくださった教職員の方々、ハンドボール部の先生方、5年間共に勉強をした友人、私の成長を見守ってくれた両親に心より感謝申し上げます。

未来へ向かって

都市環境デザイン工学科 5 年 樺山 直斗

私は「兄が行っていたから」というような、半ば曖昧な理由で鹿児島高専に入学した。高専入学当初は専門的な知識を学びたいとか技術者になりたいなどとはまったく思っておらず将来自分が何をしたいのかもわからない状態でした。寮生活や新しい友人、先輩後輩たちとの交流など新鮮なことが多く高専生活を楽しんではいたが、ただただ平穏な生活を過ごすだけの毎日だった。

しかし学年が上がるにつれ、建築や土木、環境などの専門的な知識を学ぶ機会が増え、また、自分の手で建物の模型を作ったり、測量を実際にやってみたりする中で自分がやりたいことが少しずつ見えてきた。授業で高専の周りにある公園を設計してみたり、建築物の間取りを考えたりするうちにその楽しさに気付き、建築家やインテリアデザイナーになりたいと思うこともあったが、高専三年生のとき、橋梁の建設現場に見学に行った際、そのスケールの大きさに心打たれ、自分も橋梁建設に携われる仕事がしたいと思うようになった。見学時の私の感動エピソードはこの文字数制限の中では語りきれないだろう。とにかく橋梁の大きさ、橋梁から見える海や山、街の景色などただただ感銘を受けるばかりであったのだ。そして、橋梁建設の施工現場監督になりたいという夢ができた。

今では鹿児島高専に感謝していることが二つある。

一つは私に夢を与えてくれたこと。それは専門的な知識を学ぶだけではなく、実際に自分が体を動かしてみても楽しさややりがいを感じることで得られた夢だと思う。そして、就職する会社でその夢をかなえられると思うとどんな困難が待っていても乗り越えられる気がする。

もう一つはかけがえのない友人を持ったことである。ここでは多くは語れなかったが、五年間同じクラス、そして、グループで測量や実験をするとなると絆も自然と深まってくる。私が過ちを犯すこともあったが、そのとき、クラスみんなが支えてくれて本当によい仲間を持ったと思った。この場を借りて宣言しよう。この仲間たちは一生大切にする。

そして私をここまで育ててくれた先生方にも感謝の気持ちでいっぱいである。先生方から教わった知識や人間性はこれからも大事にしていき、自分が一技術者としてこの世界に貢献することが先生方への恩返しになると信じて日々精進していきたいと思う。

東大インターンで学んだこと

機械・電子システム工学専攻 2年 山下 翔伍

私は専攻科1年の3月に1ヶ月間、東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻のインターンシップに行ってきました。今回、その東大インターンを通して学んだことについて書かせていただこうと思います。まず、今回お世話になりました東大人間環境学専攻は鹿児島高専専攻科の先輩方がH27年度現在で8～9名程度進学しています。そして、私自身もこの東大人間環境学専攻に進学します。この人間環境学専攻が掲げている大目標としては、「低炭素社会の実現」と「超高齢化社会問題対策」の2つがあります。つまり、非常に幅広い分野を網羅した専攻であると言えます。また、この大目標2つは高専の学修・教育到達目標に大きく関連しており、高専の学生は卒業までにそれらを概ね達成しているため、非常に魅力的な専攻であると思います。

さて、今回ここでは、東大インターンを通して学んだ、「研究活動を通して修得すべき能力」「高専」のすばらしさの2つについて書きたいと思います。まず、「研究活動を通して修得すべき能力」についてです。研究活動といえば、鹿児島高専では本科での「卒業研究」と専攻科での「特別研究」があります。そのため、本科卒の学生は1年間、専攻科卒は3年間、研究活動を行うことになり、この研究活動が学生の成長に与える影響は非常に高いと言えます。そして、その研究活動を通して学生が修得すべき能力は課題発見能力、課題探求能力、実践力そしてプレゼン力です。東大の教員に、修士以下の学生では研究テーマの内容や研究のステージにはあまり大きな意味は無く、「自ら道を見出すプロセス」を学ぶことが研究活動の目的だと学びました。また、民間企業への就職活動をする際、企業は修士以下の学生に対して論文のテーマや、研究の段階について全く考慮しません。その代りに、与えられた研究テーマ／実験の目的・目標に向かって、自ら解決策を模索しながら、課題を解決する課程を経験したという事実と、それを適切に説明／プレゼンする能力などを求められます。一方、専攻科生は所属している研究室に後輩として本科の学生が在籍しているため、先輩として後輩の面倒を見ることも心掛けなければなりません。研究テーマは違えど研究を行うプロセスは全く変わりません。つまり、最初に述べた、課題発見能力、課題探求能力、実践力、プレゼン力に関するアドバイス等を先輩として後輩に積極的に行ってください。そして、先輩として後輩の面倒を見るという当然のことを当然に行ってください。そういった面も企業

や大学院は重要視されるようです。次に、後輩たちに気を付けてもらいたいこととして、「自分はこのテーマをやりたくて選んだんじゃない」「自分の進学先・就職先はこの研究分野・内容と関係ないから卒業研究は適当でいいや」なんて思わないようにしてください。大学院もしくは企業に進んだとしても自分のやりたいことが必ずしもできるわけではありません。むしろほとんどの確率で自分の希望と食い違う部分は出てきます。私がインターンでお世話になった大学院生30名程度のうち、自分の希望していた研究テーマが実際にできている人は3名しかいませんでした。しかし、出会った大学院生の全てが自分に与えられた研究テーマに全力で取り組んでいました。そして、研究室では研究テーマは違えど先輩や後輩が積極的に交流し合い、チームとして研究に取り組んでいました。そういった、人間性、研究力、実践力を学生が培う場として、研究活動は非常に重要であると言えます。

そして、最後に「高専」のすばらしさについてです。ここでの「高専」は全国にある高専全てをさします。私は東大インターン中に筑波大学や東大本郷キャンパス、東京理科大、他多数の大学院の研究室と出会い、「高専」の先輩が大学院生として研究に励んでいる姿を多く見ることができました。そして、出身の高専は違っても「高専生」というだけで、「高専」の先輩は非常に親身に面倒を見てくださりました。そのため、私たち高専生は全国の高専全てに仲間がいることを実感できました。また、高専生は大学の教員からの評価が高いと聞いたことがあり、インターン中に複数の大学の教員に高専生の印象を聞いてみたところ、「高専生は素直・器用・専門性が高い」と全ての教員が言っておられました。また、「高専生は英語が全くできないが、それをカバーできる人間性や研究力を持っている」という評価もされていました。これらは、高専での辛かった毎週の実習レポートや研究活動そして中学を卒業してすぐに専門性の高い教員の方々に講義や指導をしていただいたことによるものです。しかし、「高専生は大学生に比べ自分のアピールが下手」といった意見も耳にしました。そのため、高専生には「高専生」であることにもっと自信をもってほしいです。そして、後輩たちが悔いの残らない進路選択ができることを、心から祈っています。最後になりますが、鹿児島高専での7年間は私にとって誇りです。

専攻科修了にあたって

電気・情報システム工学専攻2年 脇 蕉太

思えば高専に入学する際、これからは学校でもものづくりを行う授業だけで、楽しい高専生活になるだろうと考えていました。数学や専門科目の授業を受けながら、実習を待ちわびていたのが昨日のここのようです。しかし現実是非常なもので、やっと始まった実習は仕組みもわからない回路の測定、測定、測定、レポートのコンペネーションでした。メカ研の活動でロボコンに参加することでものづくりそのものはいやというほどでしたが、授業ではあまりものづくりをしていないような気がします。

専攻科は本科と違い研究がメインで、ほぼ一日中研究室にこもりきりになります。研究内容は研究室によって様々ですが、僕の研究室では電気自動車用モータドライブ回路の研究を行っています。今の研究室を選んだのは実験回路を手作りできるからです。やっと「授業の大半がものづくり」という当初の高専のイメージに近づいて来たように感じました。幸い論文が一本仕上がったような成果は得られ、現在は学会誌にのせる論文の執筆に追われています。自分の日本語能力の低さを痛感する毎日です。

小耳に挟んだ話によりますと僕の出身学科である電気電子科は入学倍率の低下に悩まされているとのことでした。少子化、過疎化の現代では仕方がないように思われますが、あまり下がり過ぎると学科の統廃合が始まりそうで心配しています。だからというわけではありませんが、新聞や市の広報誌などにのせるインタビューなどには微力ながら協力させて頂きました。在学中にいろいろ資格をとったり、ロボコンに出たり、大学院に進学決定したりしていた関係で話題は山程ありいい宣伝になったのではないかと自負しています。これを読んだ方で周りに工学に進もうとしている小中学生がいる方は、ぜひ高専電気電子科を勧めてください。地味ですが堅実で重要な学問分野です。

最後になります、これまで支えてくださった両親、高専の先生方、特に僕の研究を熱心に指導して下さった逆瀬川先生と鹿児島大学の山本先生、メカ研で特に世話になった渡辺先生、上野先生、上沖先生に感謝の言葉を述べさせて頂きたいと思います。7年間の間にかなり力をつけさせて頂きました。大学院に進学しても7年間、特にロボコンと研究で身につけた粘り強さを武器にやっていけると確信しています。あと2年もしくは5年東京の高すぎる家賃と戦いながら勉強を続けていきます。本当にありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

土木工学専攻2年 大峯 隆徳

鹿児島高専に入学してから7年が経とうとし、最後の土木工学専攻の学生として修了を迎えます。7年という長い時間の中で、私は大きく成長することができました。そしてここで得た経験は私にとって本当に掛け替えのないものとなりました。

鹿児島高専は寮があり、高専祭があり、明るく楽しそうな学校だという理由で入学した私でしたが、現実には甘くなく、厳しい寮の規則で点数が積み重なり、夏休み明けからの応援団の練習では弱音を吐き、テストでは赤点を連発してしまうなど数々の失態をしてきました。そのため楽しくも努力の必要性を感じ、三年生からは生活習慣を改め、積極的に勉学に励みました。授業時間以外でも継続して勉学に励むことにより学力を身に付け、専攻科へ入学することができました。

専攻科では、本科で学んだ専門知識をより深める授業が続く、数学のレベルも上がり、より勉学に専念する必要があります。特に本科との違いとして、専攻科では研究に対して重きが置かれていたため、昼夜問わず研究活動を行いました。また専攻科生ということで、今まで先輩から教わる立場が、後輩に教える立場となり、指導することの難しさを痛感しました。研究発表も様々な場所ですべて頂き、他校の先生や学生から研究に対して多くのインスピレーションを受けることができ、より研究に励むことができました。そのかいあってか、研究発表で賞を受賞することができ、大きな自信となりました。この他にも専攻科では大学のオープンハウスに参加し、全国から来た高専生と交流を行い、生活を共にすることで物の見方や考え方、コミュニケーション能力などを大きく高めることができたと考えています。専攻科での生活は多忙ながらも、多くの経験をすることができ、充実した日々を送ることができました。

これはすべて自分一人で成し遂げたのではなく、周りの友達や先輩、後輩、先生方の協力があってこそだと思います。4月から私はさらに研究や知識を身に付けるため、大学院へ進学します。大学院での生活においても、この「人と人との繋がり」を大切にし、鹿児島高専での経験を存分に生かし、頑張りたいと思います。

最後になりますが今までお世話になった友人、先輩、後輩、先生方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《機械工学科》

IHI プラント建設株式会社
JX 日鉱日石石油基地株式会社
株式会社アイエムティ
旭化成株式会社
いすゞエンジニアリング株式会社
関西電力株式会社
株式会社クレオ
株式会社コスモテック
サントリースピリッツ株式会社
シチズン時計鹿児島株式会社
新光糖業株式会社
中部電力株式会社
千代田工商株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東芝プラントシステム株式会社
ニシオティーアンドエム株式会社
日本オーチス・エレベータ株式会社
富士重工業株式会社
本田技研工業株式会社
三浦工業株式会社
三豊機工株式会社
安川エンジニアリング株式会社
(進学) 鹿児島高専専攻科 (5名)
(進学) 熊本大学 (2名)
(進学) 九州工業大学 (2名)
(進学) 豊橋技術科学大学
(進学) 立命館大学

《電気電子工学科》

株式会社 A・R・P
JX 日鉱日石エネルギー株式会社大分製油所
JX 日鉱日石エネルギー株式会社根岸製油所
株式会社 NHK アイテック
旭化成株式会社
株式会社アルプス技研
株式会社飯塚製作所
花王株式会社
鹿児島空港エンジニアリング株式会社
関西電力株式会社 (2名)
キャノン株式会社
九州電力株式会社
株式会社九州タブチ
独立行政法人国立印刷局
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
志布志石油備蓄株式会社
新生テクノス株式会社
ダイキン工業株式会社
ダイハツ工業株式会社
中国電力株式会社
東京ガス株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
日鉄住金パイプライン&エンジニアリング株式会社
日本特殊陶業株式会社
株式会社ネオテック
三菱自動車エンジニアリング株式会社
三菱重工業株式会社
三菱電機株式会社神戸製作所
三菱電機特機システム株式会社
メタウォーター株式会社
村田機械株式会社
(進学) 鹿児島高専専攻科 (2名)
(進学) 熊本大学
(進学) 九州工業大学 (2名)
(進学) 宇都宮大学

《電子制御工学科》

大阪ガス株式会社
川崎重工業株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
京セラ株式会社 鹿児島国分工場
株式会社きんでん
株式会社クレオ
独立行政法人国立印刷局
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
株式会社小松製作所
ソニーコーポレートサービス株式会社
ソニーセミコンダクタ株式会社
ダイハツ工業株式会社
株式会社千代田ビデオ
日本モレックス合同会社
パナソニック株式会社 AVC ネットワーク社
ファナック株式会社
富士通アプリケーションズ株式会社
三菱自動車エンジニアリング株式会社
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
メタウォーター株式会社
雪印メグミルク株式会社
(進学) 鹿児島高専専攻科 (8名)
(進学) 九州工業大学 (3名)
(進学) 電気通信大学
(進学) 長岡技術科学大学
(進学) 豊橋技術科学大学 (2名)
(進学) 奈良大学
(進学) トヨタ名古屋自動車大学校

《情報工学科》

NEC ネットエスアイ株式会社
株式会社 NTT ファシリティーズ九州
株式会社 NTT フィールドテクノ
株式会社アイキューブドシステムズ
旭化成株式会社
株式会社エス・テー・ラボ
エムオーテックス株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
セイコーエプソン株式会社
ソニーセミコンダクタ株式会社
ダイキンエアテクノ株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社ダイセル
東京コンピュータサービス株式会社
日本瓦斯株式会社
株式会社ネオテック
バリストライドグループ株式会社
日立アロカメディカル株式会社
株式会社日立ハイシステム 2 1
富士通株式会社 (2名)
株式会社富士通九州システムサービス
富士電機株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
株式会社南日本情報処理センター
株式会社ミライト
リンク情報システム株式会社
株式会社ルクレ
(進学) 鹿児島高専専攻科 (3名)
(進学) 鹿児島大学
(進学) 東京工業大学
(進学) 電気通信大学
(進学) 千葉大学
(進学) 豊橋科学技術大学 (3名)

《都市環境デザイン工学科》

KDDI エンジニアリング株式会社
オリエンタル白石株式会社
鹿児島県庁（５名）
鹿児島市役所
株式会社 熊谷組
株式会社 住まいず
株式会社 大進
電源開発株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東急建設株式会社
東京ガス株式会社
東京水道サービス株式会社
南生建設株式会社
西日本高速道路株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
日鉄住金パイプライン&エンジニアリング株式会社
株式会社長谷工リフォーム
株式会社ピーエス三菱
福岡都市技術株式会社
独立行政法人 水資源機構
南大隅町
弓場建設株式会社
株式会社リード設計事務所
（進学）鹿児島高専専攻科（３名）
（進学）鹿児島大学
（進学）熊本大学（２名）
（進学）長岡技術科学大学

《機械・電子システム工学専攻》

TANAKA ホールディングス株式会社
グローブライト株式会社
株式会社東京 R & D
東レエンジニアリング株式会社
富士電機株式会社
株式会社牧野フライス製作所
（進学）九州工業大学大学院
（進学）九州大学大学院（２名）
（進学）長岡技術科学大学大学院
（進学）東京大学大学院

《電気・情報システム工学専攻》

アルバック九州株式会社
鹿児島県警
富士通株式会社
明興テクノス株式会社
ローム株式会社
（進学）鹿児島大学大学院
（進学）九州工業大学大学院（２名）
（進学）東京工業大学大学院
（進学）奈良先端科学技術大学院大学
（進学）筑波大学大学院（２名）

《土木工学専攻》

飛島建設株式会社
株式会社奥村組
公益財団法人佐賀県建設技術支援機構
通信土木コンサルタント株式会社
（進学）熊本大学大学院
（進学）長岡技術科学大学大学院（２名）

新任のご挨拶

電気電子工学科 垣内田 翔子

平成27年4月に電気電子工学科に任しました、垣内田 翔子（かいちだ しょうこ）と申します。広島生まれ、広島育ちで、とっさの時には広島弁が出てきてしまいます。大学時代は山口県で過ごし、中国地方を離れたことがありませんでしたが、この度、鹿児島高専で教員として働くことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

大学では、ヒトやニホンザルの二足歩行運動の解析を行っていました。歩行ロボットを作っても、転ばずに歩かせるのはなかなか難しいものです。しかし、ヒトは平らな道だけでなく、でこぼこの道でも、斜面でも、おしゃべりしながらでも歩くことができます。このようにヒトが様々な状況ですたすと歩ける秘密は何なのかを探りたいと思い、研究を行ってきました。何をするにもそうだとは思いますが、何かを知りたいと思った時、様々な方法の中から、自分の注目する情報がどうやら取得できるのかを考えなくてはなりません。生体の運動メカニズムを体の外側からわかる情報で探ることはできないか、人の持ついい加減とは何かが科学的に解明できないか、と考えながら研究を行っているところです。

研究を行う中や、自分の学生時代、他校や研究所、部活動やイベントで、多くの方との出会いがありました。その方々からお話を聞いたり、一緒になって取り組んだりすることで、自分ひとりでは到底できない経験をさせていただいてきました。今回、これまで縁のなかった鹿児島に仲間をつくり、活動できる機会をいただけてとても嬉しく、また、これから何が起こるのか楽しみにしています。学生の皆さんにも少しでも多くの種類の出会いの場を共有できるように活動していきたいと思っています。

4月の赴任から今までの間に、学生の皆さんには鹿児島の楽しみ方や桜島との暮らし方を教えていただいています。また、教職員の方々には鹿児島高専で働くことの基礎を教えていただいている状況です。まだまだ未熟で至らない点が多いと思います。ですが、これから鹿児島高専の学生の方の目指す進路の実現に向けて、精一杯サポートしていきたいと思っています。ご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

総務課財務係主任 濱崎 章子

平成27年4月1日付けで鹿児島大学学生部教務課から赴任して参りました濱崎章子と申します。平成20年に鹿児島大学に採用されました。大学での実務経験もまだ浅いですが、この度鹿児島高専に赴任することとなりました。

大学の所属は、学生部でしたが、総務関係の業務を担当しておりましたので、先生方と接する機会はあっても、学生さんと接する機会はあまりありませんでした。本校では財務関係の担当しており、同じく学生さんと接する機会はほとんどないのですが、電車通勤途中で多くの鹿児島高専の学生さんを目にし、新鮮な思いと、また、初めての財務担当ということもあり、身の引き締まる思いで毎日務めております。不慣れな点もありご迷惑をおかけしておりますが、少しずつ慣れていければと思っています。

本校に赴任してから、子育て真っ最中の友人から高専の場所を尋ねられたことがありました。隼人と答えると、隣にいた友人の息子から「薩摩剣士隼人？」と羨望のまなざしで聞き返されました。鹿児島の現代の子供たちにとって、どうやら隼人は地名ではなくキャラクター名として知られているようで、思わず吹き出してしまいました。子供たちがご当地ヒーローに憧れを持つことは誇らしいことですが、それよりも隼人の名称が、普通に浸透していることが驚きで、何だか嬉しくなりました。

さて、霧島市は平成17年11月に誕生して、今年でちょうど10年目を迎えています。節目の年に赴任できて光栄に感じております。霧島の豊かな自然、文化、歴史、食を存分に楽しみながら勤務していきたいです。特に、霧島にはたくさんお温泉がありますので、鹿児島高専に務める間にいろいろ訪れて、満喫できればと思っています。今後も鹿児島高専の発展に貢献ができるよう努力してまいりますので、ご指導のほど、どうぞよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

総務課人事係 若林 史郎

平成27年7月1日付けで、鹿児島大学から総務課人事係に赴任して参りました若林史郎と申します。人事係の業務内容は、教職員の皆様の生活に係わりの深い内容も多く、いろいろなお願いをさせていただく機会も多いと思います。不慣れなためにご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

私は国分の出身で、小さな頃から隼人にもよく遊びに来ていたため、今住んでいる鹿児島市内よりもこちらの方が馴染み深く、鹿児島高専の居心地は非常に良いです。

鹿児島高専に着任するにあたって、当初は通勤時間が長くなることが不安でしたが、これを機会に中古の軽自動車ではありますが、念願の自分専用の車を手に入れることができましたので、早起きも大して苦にならず、楽しんで通勤することができています。

私は年齢の割には鹿児島大学での職員歴は浅く、6年程しかありません。その前は名古屋で自動車部品を铸造するためのダイカスト金型を作る小さな工場で働いておりました。一日中鉄を削って金型を作っていた頃の楽しさを最近ではすっかり忘れていましたが、鹿児島高専に来てからは、校内を歩いている時に、工作機械を目にする機会も多く、そのたびに、ものづくりの楽しさを思い出して懐かしい気持ちに浸っております。

鹿児島大学では、最初に産学官連携関係の部署に配属され、学内の人よりも学外の方たちと交流する時間が長い生活を送っておりました。その後、給与の計算及び支給に関する部署に配属され、一日の殆どをパソコンの前で過ごしておりましたので、大学職員になってからの6年間、学生と触れ合う機会が全くありませんでした。鹿児島高専でも人事係ということで、また学生の皆さんとは縁が無いなと残念に思っていたのですが、校内を歩いていると、大学と違い、学生の皆さんが元気よく挨拶をして下さるので、すごく驚きました。直接お話する機会はあまりありませんが、学生の皆さんの笑顔と元気いっぱい挨拶から、毎日パワーをもらっています。このパワーを還元するためにも、人事係の業務を通して鹿児島高専の発展に貢献できるように努力いたしますので、何卒よろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

総務課総務係 福重 香織

平成27年7月1日付で、鹿児島大学から総務課総務係に赴任して参りました福重香織と申します。

鹿児島大学では学術情報部情報サービス課に所属しておりました。学術情報部というと、どんな仕事をする部署なのか想像しづらいと思いますが、簡単にいうと、図書館職員です。私の仕事は、カウンター業務や雑誌・図書の整理、利用者の必要とする資料の検索のお手伝いなど、利用者に身近な仕事をしておりました。特徴的なのは、学内外を問わず、学生や先生方、一般の方など様々な人と接する機会の多い職場だということです。

鹿児島高専に赴任してから半年が経ち、少しずつですが、高専の雰囲気慣れてきているように思います。図書館内を毎日、あちこち歩き回っていた頃と違い、長時間パソコンに向かって作業することには、初めのうちは慣れませんでした。しかし、毎日、業務を無我夢中で取り組んでいるうちに、次第に体の方は慣れて始めてきたようです。今や立派な運動不足となってしまう、最近では毎日のように「週末くらい体を動かそう！」と意気込んでいるのですが、いつの間にか週明けを迎えています。「今年こそ運動を始めよう。」が当面の目標です。

総務係の仕事は本当に幅広く、まだまだ戸惑うことも多々あります。しかし、戸惑いの中にも、新しい発見があったり、知識を身につけることが出来たりと、楽しさも感じています。また、突発的な事柄への対応や、柔軟さも必要な職場であることを実感しております。

至らない点も多々あり、皆さまにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しずつでも、これからの鹿児島高専に貢献していきたいと思っています。

ご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

鹿児島高専での教育・研究と 企業人材育成・地域貢献

電気電子工学科 楠原 良人

私は、平成21年4月に電気電子工学科教授として採用され、主な業務は、平成22年4月から4年・5年担任を2年間、平成24年～25年に学科長を2年間、平成27年に地域共同テクノセンター副センター長を1年間担当しました。担任は赴任して翌年でしたので、工場見学の引率も初めてで、戸惑うばかりでした。教育では、専門分野を活かして電気機器やパワーエレクトロニクス、電子回路解析などの講義と電気機器実験などを担当させて頂き、「技術教育」に寄与できたのではないかと考えています。学生指導では、「躰教育」をモットーに学生の日常生活における躰指導をしてきました。研究では、太陽電池、燃料電池、マイクロ水力発電のエネルギーエレクトロニクス分野を研究し、平成22年～24年には、科学研究費補助金（燃料電池の磁場分布・電流分布解析装置の開発）が採択され研究を遂行しました。さらに、平成27年には科学技術振興機構（JST）の研究助成で燃料電池を含め2件が採択されました。採用試験時の着任後の抱負のプレゼンの中で、赤坂前校長から「特許がないね」、「地域貢献はできるか」と言われ、「特許取得」と「地域貢献」の2点について述べることになりました。特許については、取得できるようにしますと答えましたが、残念ながら在籍中の取得は叶いませんでした。地域貢献ですが、私の培ってきたノウハウとネットワークで何とかしますと答えました。このことを有言実行するために、企業との共同研究や技術セミナーを計画・実施しました。共同研究では、燃料電池発電解析、マイクロ水力発電解析などの研究を行い、セミナーでは地域企業に研究シーズを情報発信する「新技術セミナー（平成23年～平成26年）」、小水力発電の地域企業への普及・啓蒙を目的とした「かごしま小水力発電技術セミナー（平成25年～）」、地域企業、団体から要望されて企画した「再生可能エネルギー技術セミナー（平成27年～）」を実施しました。これが自治体、公的団体、企業とのお付き合いに発展し、そのネットワークにより、鹿児島県、鹿児島市、霧島市、鹿屋市、日置市などの地方自治体や公財、協議会などの公的団体の有識者委員や公的委員として、将来のエネルギー導入や地方創生の方向性について意見を述べさせて頂きました。これは鹿児島高専として、産学官連携やCOC+事業、KTC事業で地域貢献のお役に立てたのではないかと考えています。在籍した中で、教育、研究、学生指導、管理運営に携わる密度の濃い業務を遂行させて頂きました。その中で、最も象徴的なものが地域企業のために行ってきた人材育成、共同研究、自治体・団体との地域連携でした。採用試験時の抱負で述べました地域貢献が少なからずお役に立てたのではないかと考えています。末筆に際し、鹿児島高専の今後の益々の発展を祈念し、退職の挨拶とさせて頂きます。

定年退職にあたって

電子制御工学科 植村 眞一郎

私は、昭和51年4月に機械工学科助手として採用され、この3月までの40年間にわたり奉職して参りました。まずは、多くの諸先輩方と教職員の方々、そして学生の支えを戴いたお陰で、これまで無事に職責を全うできたことを、心から感謝申し上げたいと思います。

さて、本校のホームページのトップを見ると、「世界を支える技術者として」とのキャッチフレーズが目飛び込んできます。今やグローバル化は必然のこととして受け止められていることは、間違いないことでしょう。

私が初めて海外渡航を経験したのは、忘れもしない昭和58年12月26日のことで、ウィーンで学んでいる友人を訪ねて、妻とヨーロッパを旅行した時のことでした。当時は、海外旅行というと一生の一大事で、今では笑い話ですが、両親などは鹿児島空港まで見送りに来ました。成田から南回りルートで香港、カラチを経由しおよそ21時間かかって、フランクフルトに着き、そこで乗り換えパリに着きました。そして、翌日の夜パリ発のヨーロッパ国際特急寝台列車を乗継ぎ、二晩かかってウィーンの駅には12月29日の朝8時頃着きましたが、出迎えに来てくれた友人を見て感激しました。今でこそインターネットを駆使しチケットの手配や、Eメールと携帯電話等で簡単に連絡が取れますが、今思うと良く無事に着いたものだと思います。しかしちょうどクリスマス・シーズンの真っ最中で、特にウィーンの街並みを飾るデコレーションのそれ迄見たことの無い美しさに圧倒されました。

途中で色んな人に出会いました。片言の英語でなかなか上手く表現できず、また相手の言っていることも理解できず、落ち込むと同時に、これではいかん！と英語力向上に発憤しましたが、かねて使わないとそれもいつの間にかしぼんでしまいました。ただ旅行中気付いたことで印象的なことは、英語の発音が簡単な単語でもそれまで習った発音と全く違う、ということ、如何に日本のことを知らないでいたことか、ということで、これがわかっただけでも良かったと思いました。

現在、国際交流担当副校長をさせて頂いていますが、これまでの経験から、学生には、兎に角早い内に海外渡航を経験してもらいたいと伝えたいです。特に今の時代は行きやすい環境です。積極的に海外へ飛び立ち、自分の目で見て感じ、体験し、視野を広げることです。そうすることで大きな収穫を得ることが出来、必ずやそれがその人の将来に繋がる財産になる筈で、大いに羽ばたいて欲しいものです。それには、口はばったいですが、教職員のグローバル化と、学生の背中をそっと押す後押しも必要かと思っています。

最後にこれまで支えて下さった皆様に心より感謝申し上げます。40年間本当に有り難うございました。

定年退職にあたって

電子制御工学科 原田 治行

公務員、大学の教員を経て、平成7年に本校に着任して以来、21年間務めて参りましたが、今年度末で定年退職を迎えることになりました。これも偏に教職員の皆様方や学生のみなさん並びに保護者の皆様のご支援とご協力のお蔭であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

過日、この間の勤務に対して永年勤続の表彰を受けたのを機に、今までの業務を振り返ってみました。担当した講義は、電子制御工学科や機械・電子システム工学専攻の科目でした。また、講義以外の校務分掌として、当初は3年生、4年生、5年生の担任や専攻長などの学生指導を主に担当し、その後、学科長、専攻科長、研究主事、JABEE特命統括官、校長特別補佐（総務・企画担当）などの管理運営を担当しました。

どの仕事もやりがいのあるものでしたが、校長特別補佐の業務の一環として本校の男女共同参画の仕事をしたことが印象に残っています。初めての分野の仕事なので戸惑いもありましたが、いろんなことを勉強させて頂きました。その中でも特に印象に残っているのは、女子学生のキャリア形成支援のために、「輝く女性技術者であり続けるために-キャリア形成と高専生活-」と題して、講師を招いてキャリア支援講座を開いたことです。2年生以上の女子学生はすでに講演を聞いていますが、1年生にこの場を借りて是非伝えたいと思います。

高専卒の女性エンジニアへの大規模追跡調査の約1000件の事例から、結婚、出産を契機に多くの女性が仕事を辞めているという現実があります。また、子育て後になかなか従来の専門職に再就職できず、これまでのキャリアとは関係のないパートなどの非正規で働いている人が多いということです。働き続ける場合と子育て後にパートなどで働いた場合の生涯賃金の差がものすごく大きく、生活レベルや子供への教育内容に影響します。

働き続けるためには、①出産休暇や育児休暇などの福利厚生が充実している企業（ホワイト企業）を就職先に選ぶこと。②共働きに理解のある伴侶を選ぶこと。が重要です。ホワイト企業に就職できるために在学中にすべきことは、講義で専門知識を深め、実験・卒研・特研で技術力を高めることです。勿論、男子学生諸君もホワイト企業ならば、働きやすいと思いますので、しっかりと、勉学に励んで下さい。

最後になりましたが、今年度末で定年退職を迎えた後、嘱託教授として2年間は従来通り講義を担当しますので、よろしくお願いします。



鹿児島高専の43年間

都市環境デザイン工学科 教授 西留 清

小生の人生には若いときに3つの大きな転換があったと思います。一番目が15歳の時に鹿児島工業高等専門学校に入学したこと、2番目が25歳の時に鹿児島工業高等専門学校に勤務したこと、3番目が28歳の時に海外留学させていただいたことです。

小生は、昭和43年（1968年）4月鹿児島工業高等専門学校土木工学科2期生として入学しました。小生の出身中学校は揖宿郡開聞町（当時）の開聞中学校です。当時としては1クラス45名5クラスの小規模校でした。鹿児島工業高等専門学校土木工学科に入学してびっくりしたことが多々ありました。例えば、クラスの40名は県内の大規模校（当時の鹿児島市立城西中学校は1学年25クラス以上）から各校一人ぐらいずつ入学していました。小生は中学時代、数学が大好きで入学試験もかなりの高得点を取れたと思っていました。そのため入学後あまり数学の勉強をしなかったせいか最初の数学の試験で60点ぐらいしか取れませんでした。凄くショックを受けて、その後は猛烈に勉強したような気がします。また、英語の授業では5ページぐらいあるリーダーの予習を1回読んだだけで暗記できる同級生が何人もいることにも驚かされました。小生は20回も読んでやっと暗記できるぐらいでした。このように小生以外は天才の集団ではないかと思っていました。学生としての5年間を無事に過ごし、昭和48年（1973年）3月鹿児島工業高等専門学校土木工学科を卒業しました。

昭和53年（1978年）4月鹿児島工業高等専門学校土木工学科助手として勤務しました。再び、母校で先輩たちと勉強と研究ができることがとても嬉しかったことを昨日のように覚えています。大学の卒業研究と大学院の研究では回転円板法による排水処理に関する研究を行っていました。当時本研究に関する研究者が国内外に少なかったためか、勤務した次年度から連続して本研究に関する科学研究費をいただきました。これらの研究成果をさらに発展させようと思い、勤務3年目の昭和55年（1980年）9月、タイにあるアジア工科大学院（AIT）の環境工学専攻科に留学させていただきました（写真1）。AITは土木系の学科を中心とした大学院（修士・博士）のみの大学です。当時のAITはアジアの国々を中心に25カ国からの学生500名ぐらいがいました。学生たちは各国から派遣されたエリート集団でした。彼らは寸暇を惜しんで猛烈に勉強しており、ここでも大きな刺激を受けました。この刺激は帰国後直ぐに発揮されました。

1981年にアメリカのシンシナティで行われる国際会議の論文作成に寝ずの72時間を過ごしました（今では連続20時間以上起きていることは困難です）。また、AITの近くにはタイ国立タマサート大学があり、週末は日本語クラブの学生たちと交流しました。（写真2）。これがきっかけとなり、タイ（タイ人）が大好きになったと思います。その後、2001年11月にはタイ国立カセサート大学工学部環境工学科の客員教授として再びタイに留学させていただきました。カセサート大学との国際交流も締結され、さらに多くのタイ友人が得られました。

小生の若いときに人生の大きな3つの転換を与えていただいた皆様（家族、教職員など多くの方々）に感謝申し上げます。鹿児島工業高等専門学校に入学した48年前、弓道場の楠は直径2cm程でした。現在では幹周りが2m以上に成長しています。平成27年9月、鹿児島工業高等専門学校土木工学科2期卒業生37名中22名と当時の担任の先生が福岡に集まりました。卒業後、42年ぶりに会う方も数名おり、小生を含め、皆さん爺様になっています。平成28年（2016年）3月、38年間勤めさせていただいた鹿児島工業高等専門学校を定年退職します。学生だった5年間と合わせて43年間も鹿児島工業高等専門学校の関係者（在学生と保護者の方々、1万人になろうとしている卒業生等、多くの皆様）に助けられた人生でした。ここに重ねて感謝申し上げます。



写真1 AIT（1980年9月）



写真2 タマサート大学の学生（1980年12月31日）

平成27年度教育研究功労者及び教育研究奨励賞表彰

教育研究功労者及び教育研究奨励賞は、本校の教育、研究、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

この表彰者の推薦を各委員及び各学科長等に依頼し、5名の方の推薦がありました。平成27年9月11日（金）に教育研究功労者選考委員会を開催し、学生課学生係南田直子技術職員は、20年以上に渡り、保健室にて看護師として学生の身体的及び精神的な健康のための支援を献身的に行ってこられました。機械工学科椎保幸准教授は、3次元デジタル設計造形コンテストにおいて、幾度となく優秀な成績を収め、またソーラーカーレースの出場においても、学生に対してものづくり教育を実践してこられました。一般教育科理系篠原学教授は、宇宙天気の普及啓発において、文部科学大臣表彰の科学技術賞（理解増進部門）を受賞され、また環境創造物理研究部の顧問として、同部が出場したコンテストにおいて優秀な成績を収めておられます。電気電子工学科垣内田翔子助教は、科学研究費補助金において、研究活動スタート支援に採択され、このことは、本校の若手教員への啓発につながり、また本校の名誉を高められました。一般教育科文系町泰樹講師は、科学研究費補助金において、若手研究（B）に採択され、このことは、他の若手教員の大き

な励みとなり、全教員が将来に向けて更に研究に邁進する布石となりました。選考の結果、南田直子技術職員、椎保幸准教授、篠原学教授の3名が教育研究功労者に、垣内田翔子助教、町泰樹講師の2名が教育研究奨励賞にそれぞれ決定しました。

平成27年度教育研究功労者及び教育研究奨励賞の表彰式が、平成27年10月23日（金）に校長室で行われ、表彰状及び記念品がそれぞれ授与されました。



内門博昭氏に感謝状を贈呈

塚崎副校長（学生主事）から、感謝状贈呈者として、本校テニス部外部コーチである内門博昭氏の推薦がありました。内門博昭氏は、平成17年度から11年間に渡りテニス部のコーチとして、土日曜日及び祝祭日に学生の指導を献身的に行っていただいております。そのご尽力のお陰で、全国高等専門学校体育大会テニス競技で団体3位、平成20年度には団体優勝、平成21年度には団体3位、平成22年度には団体準優勝、平成26年度には団体3位という成績を収めております。また、九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会テニス競技で平成18年度から平成27年度までの10年間で、通算8回の団体優勝（6連覇を含む）を成し遂げることができ、その功績は顕著であります。

この推薦について、平成27年9月11日（金）に開催された運営会議で感謝状の贈呈が了承され、感謝状贈呈式が平成27年10月28日（水）に校長室で行われ、感謝状及び記念品が授与されました。



9高専連携における グローバル化推進事業

連携事業推進責任者 電子制御工学科 植村 眞一郎

1. 9高専連携事業とは

あらためて述べるまでもないですが、近年の我が国の産業活動の形態が大きく変化し、海外進出を進めている経済界においてグローバル化は喫緊の課題とされています。また当然のごとく、教育機関におけるグローバル化教育についても、国をあげて「トビタテ！留学ジャパン」など様々な施策がとられています。

そのような中、平成24年度に文部科学省が大学間連携共同教育推進事業を募集しました。そして、本校が代表校となり、九州沖縄地区の9つの国立高等専門学校（以下、9高専と記載）が連携して、海外で活躍できる技術者育成のためのグローバル化事業に応募しました。事業名は、「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」です。この事業では9高専とアジアの国々の大学・企業との連携をうたっており、主な交流対象国は、スタート当初はシンガポール、香港、タイ、マレーシア、インドネシア、台湾の六ヶ国でしたが、平成26年度からベトナム、モンゴルが加わりました。

事業の概要は、9高専が連携し、主として大学・企業でのインターンシップや学生交流等を行う取組です。学生交流は海外へ派遣するだけでなく、海外大学からの短期留学生の受け入れも推進しています。また海外における日系企業でのインターンシップは、実践的技術者育成の場として、2～4週間のインターンシップを行っています。学生が海外へ渡航する場合、学生交流であれ、海外インターンシップであれ、本事業経費で渡航費の補助をしており、学生は自己負担額が軽減され、海外へ行き易くなっています。

また9高専連携事業は、運営上、連携した組織として活動しやすいように、部門毎に3つの部会を設け、それぞれ、カリキュラム検討・単位互換部会、インターンシップ推進部会、国際交流推進部会の3部会が様々な事業を企画検討し、最終的には、9高専の校長による共同教育推進会議で承認され実行に移されることになっています。

2. 国際交流と海外インターンシップ

ところで、海外大学との学生交流をスムーズに進めていく上で必要なのが、MOU (Memorandum of Understanding) と呼ばれる交流協定を相互に結ぶことが重要になってきます。これまでに、以下に示すように9高専が、海外の10大学とMOUを締結しました。

タイ：

- ①カセサート大学

- ②キングモンクット工科大学ノースバンコク校

- ③キングモンクット工科大学トンブリ校

マレーシア：

- ④ペトロナス工科大学

インドネシア：

- ⑤ガジャマダ大学

- ⑥ガジャマダ大学ボケーション・カレッジ

中国：

- ⑦厦門理工学院

台湾：

- ⑧台北科学技術大学

ベトナム：

- ⑨ハノイ大学

モンゴル：

- ⑩モンゴル技術科学大学

事業がスタートしてからこれまで、海外に派遣する学生数は年々増えており、今年度は149名になります。また、海外からの受け入れは、昨年度からタイの3大学から受け入れを始め、今年度は37名の学生が、6月、7月の2ヶ月間9高専へ分かれて短期留学し、本校へも5名のタイの学生が留学し、寮に滞在しました。来年度は40名の予定です。

一方、海外の主に日系企業でのインターンシップも推進しており、事業が始まったときは、タイの2社だけの4週間のインターンシップでした。その後、インターンシップ受け入れ企業の開拓もあって、タイは勿論のこと、今年度はタイ以外の国々でのインターンシップが増えてきました。特に最近日系企業がベトナムに進出してきている現状から、ベトナムでのインターンシップは三社から受け入れて頂いています。主なインターンシップ受け入れ企業を以下に示します。

タイ：

- ①タイ・MKウォーターテック

- ②タイ・ローム

- ③ラチャブリ発電所

- ④BTS (バンコク・輸送交通システム)

ベトナム：

- ⑤TOTOベトナム

- ⑥タカギ

- ⑦マブチモーター

台湾：

- ⑧平田機工

マレーシア：

- ⑨PERMINTEX AUTOMOTIVE株式会社

本年度は、26名の学生がインターンシップに参加しました。以下に本年度の海外学生交流と海外インターンシップに参加した学生の報告書を示します。

海外渡航報告書

大学間連携共同教育推進事業

高専・アジア・企業連携による実践的・創造的技術者の養成	
渡航期間	平成 27 年 8 月 30 日(日)～平成 27 年 9 月 12 日(土)
渡航先	タイ・バンコク
渡航者 ①高専名 ②氏名 ③学科 専攻名 学年	1 有明高専、建築学科、3年、石井 達也 2 有明高専、電子情報工学科、2年、相川 友李 3 熊本(熊本)高専、情報通信エレクトロニクス工学科、5年、伊藤 宏志 4 熊本(八代)高専、生物化学システム工学科、4年、片山 槇 5 沖縄高専、情報通信システム工学科、4年、村田 光広 6 沖縄高専、生物資源工学科、4年、仲宗根 舞友 7 沖縄高専、機械システム工学科、2年、屋嘉比 悠希 8 沖縄高専、情報通信システム工学科、4年、運天 先斗 9 沖縄高専、情報通信システム工学科、専攻科2年、翁長 亨輔 引率教員: 沖縄高専・メディア情報工学科、タンスリヤボン スリヨン
訪問内容 ・場 所 ◎目 的	- King Mongkut's University of Technology North Bangkok ◎タイの学生との交流、研究室での活動(miniプロジェクト、ロボットキャンプ等) - The National Science and Technology Development Agency(BIOTEC,MTEC,NECTEC) ◎タイ国立科学技術開発庁の見学 - CP ALL ◎タイ企業見学(取り組み、市場などの説明) - Ayutthaya ◎タイの文化学習 - 観光地(Jatujak market, パタヤ、カオサンロード)
報告・結果 今後の取り組み	報告・結果 ・本プログラムでは、KMUTMB学生との交流を通して、簡単な電子回路の作成、arduinoを用いたロボット制御の方法などを学んだ。また、英語を中心とした学生との交流から、英会話能力の向上、国際的なコミュニケーション能力を身に付けたと考えている。 ・企業見学ではタイ国立科学技術開発庁・CPALLを訪問した。タイ国立科学技術開発庁では、タイの研究施設の見学を行い、タイの研究施設の研究が国民に還元していることを学んだ。また、CPALLはタイの中で有名な企業の一つで、CPALLの取り組んでいる事業などを聞いた。この経験は将来、東南アジアなどで働く際に役に立つ情報を入手でき、有意義な見学会であった。 ・Ayutthaya遺跡群の観光では、タイの歴史や文化について学んだ。また、タイの人々は歴史を大事にしていると感じた。 今後の取り組み ・今後は留学生などの海外の学生などと積極的にコミュニケーションを取り、身に付けた英会話能力の向上を図る。また、様々な文化を理解することで国際社会の中で役に立てたいと考えている。 KMUTNB学生との交流 ロボット制作・競技大会参加 Ayutthaya遺跡群(見学会)
備考	

作成日 平成 27 年 10 月 9 日

海外渡航報告書

大学間連携共同教育推進事業

高専・アジア・企業連携による実践的・創造的技術者の養成		
渡航期間	平成 27年 8月 17日(月)～平成 27年 9月 11日(金)	
渡航先	MK WATERTech CO.,LTD.	
渡航者 ①高専名 ②氏名 ③学科 専攻名 学年	①	鹿児島工業高等専門学校
	②	杉山 大晴
	③	機械・電子システム工学専攻 1年
訪問内容 ・場 所 ・目 的	・訪問場所 MK WATERTech CO.,LTD. ・目的 グローバル化に対応できる人材育成として、英語によるコミュニケーション力の育成や異文化理解、社会人基礎力の向上。	
報告・結果 今後の取組み	実習は、主に日本人社員の方に同行しての水処理施設の見学、及び装置の説明を受けて水処理について理解を深めた。また、取引先との打ち合わせにも参加した。会社での事務としては、輸送する物品のチェックリストの修正やスクリーンプレス機のスラッジ量を考察する表の作成を行った。 タイ人社員の方に同行した際には、水処理装置について英語で説明を受けながら、メンテナンスの体験をさせてもらった。pHセンサ・ORPセンサの校正やバックテストを行った。このほかにも、カスポンプレスのデモ運転の見学も行った。これらの実習を通して、水処理装置の造水装置、排水装置に対して理解を深めることができた。また、タイ人スタッフと英語で会話することで、コミュニケーション力を向上することができた。そして、ビジネスレベルの英語力を身につけるべきだと感じた。 タイでの日常生活において、初めて経験することがたくさんあり、苦労したことも多々あった。しかし、様々なことにトライすることで得られることも多く、日本とは異なるタイの文化をよく知ることができた。 これからの時代を生きる技術者には、グローバルマインドや英語力が求められるだろう。そのためにも、学生である今のうちにある程度の英語力を身につける必要があると思う。日本では、生活の中で英語を使う場面はほとんどないため、意識して勉強していきたい。再び今回のような海外に行く機会があれば、積極的に参加したいと思う。	
備考		

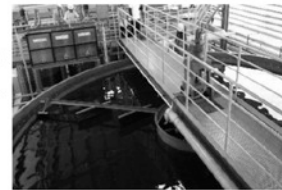


図1 廃水処理施設



図2 メンテナンスの様子

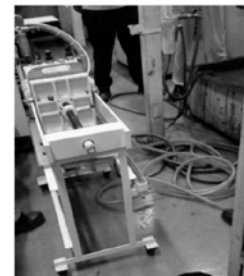


図3 カスポンプレスのデモ運転

作成日 平成 27年 10月 1日

本校における国際交流事業

国際交流・地域連携担当副校長
電子制御工学科 植村 眞一郎

ご承知の通り、昨今は企業はもとより教育機関においても、盛んにグローバル化が推進されています。今や教育機関においては、グローバル化は教育における高度化のキーワードであり、乗り遅れることは、学生の将来の活躍の機会を自ら狭めることと等しく、本校の重要な責務の一つと考えています。

今年度の本校の重点実施項目のひとつとして、グローバル化をより推進することを掲げました。そのグローバル化に向けた教育方針としては、2段階の教育プログラムを設定します。

まず低学年（1～3年）の早い段階で海外を経験させ、異文化を理解すると同時に英語によるコミュニケーション能力の必要性の動機付けを行うことです。ここでは、特に一般教育科の先生方のご協力とご支援が必要です。

次の段階として、高学年（4～5年）では、それまで培ったものをベースに、海外学生と交流において英語でコミュニケーションをとり、お互いの専門的な学習内容、或いはテクノロジーなどについての意見交換が出来たり、また自国の文化などを説明できるようになる等、実践的なコミュニケーション能力を養うものです。ここでは、専門の先生方のご協力とご支援が必要です。

さらに専攻科では、海外の学生と英語で研究について紹介ができ、研究内容について議論できるような素養を身に付け、より創造的で開発型の技術者育成としての実践的な訓練の場を設けることで、本校のグローバル教育が完結します。

本校における国際交流事業は、大きく二つの事業を推進しています。一つは、平成24年度から実施している文科省の補助事業である大学間連携共同教育推進事業、すなわち通称9高専連携事業と言われているもので、本校がその代表校として9高専を取り纏めています。対象は、主に9高専の高学年及び専攻科の学生です。他の一つは、本校独自の国際交流事業で、その中心は本校低学年の学生を対象とした海外語学研修旅行と、海外からの短期の学生受入で、受入プログラムは主に5年生・専攻科生と一緒に卒研、特研の中のプロジェクトです。

まず、9高専連携事業についてご紹介致します。9高専連携事業とは、九州沖縄地区の9高専が連携して、英語力の向上、海外企業における一ヶ月程度のインターンシップ、海外学生との交流と受入等を実施しているもの

で、学生の渡航費や教員の引率旅費は、本補助事業でまかなわれています。対象国は、アジア地区の国々で、当初はタイ、マレーシア、シンガポール、香港、インドネシア、台湾の6ヶ国でしたが、更にベトナムとモンゴルが加わりました。

特筆すべきは、これまでにこれらの国の9大学と9高専とが学術交流協定を締結し、学生交流が行い易くなったことです。更に、海外企業における一ヶ月程度のインターンシップ、海外学生との交流について、9高専の学生参加者数は年々増加の傾向にあり、今年度は130名を超える学生が海外へ行って、実践的なインターンシップ、並びに学生交流を行っています。今年度からの新たな取組みとして、ベトナム・ハノイ大学で学生の英語による研究発表会を実施しました。各高専から3名程度の専攻科生29名が参加し、ハノイ大学生との交流と研究発表会を行っています。

一方で、昨年度から実施している海外大学からの学生受入ですが、タイにある3大学（カセサート大学、キングモンクット工科大学・ラカバン校、ノースパンコク校）から、6月・7月の2ヶ月間受入れています。本年度は、37名のタイの学生を本校を含め6つの高専で受入れ、各研究室で日本人学生と共に研究プロジェクトを実施しました。9高専が連携することで、学生募集から引率まで効果的な実施体制の下でグローバル化共同教育を推進しています。ただこれは、来年度で終了しますので、その後の9高専連携によるグローバル化の自立化が大きな課題となっています。

次に、もう一つの本校独自の国際交流事業をご紹介します。昨年度までは、海外語学研修として一ヶ国だけのプログラムに20名の学生の参加でしたが、今年度は低学年を中心に、アジア圏ではタイ、台湾、そして欧米ではフランス、スウェーデン、ハワイと5ヶ国に総勢44名の学生が海外研修旅行に参加しました。

ハワイは、ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジにおいて英語の語学研修が中心ですが、それ以外のプログラムは、基本的にそれぞれの国の高校・大学等との学生交流と現地の企業見学をセットにして、キャリア教育的要素も組込んでいます。これらのプログラムは今年度始まったばかりのため、低学年生及び保護者にはまだまだ浸透していませんが、今年度の内容を今後の参加者拡充に活かしていき、将来的には大半の学生が行けるように推進していく計画です。

以下に今年度の海外研修旅行プログラムの概要を記します。

平成 27 年度 海外研修旅行計画

国際交流担当副校長

以下に本校の海外研修プログラムを記します。

2 ページ目は、本校の海外研修プログラムではなく、九州沖縄の 9 高専が連携して行うプログラムです。

● 1・2・3年生対象プログラム

研修内容は、以下の内容になります。

- 1) 英会話講座

渡航先	日程	人数	訪問先	費用	備考
ハワイ (カウアイ島)	8月31日(月) ～ 9月16日(水) (17日間)	20名	● ハワイ大学 (カウアイ・コ ミュニティー・ カレッジ)	約 40 万	1) パスポート有効期限残 90 日以上

● 2・3年生対象プログラム

研修内容は、いずれの国においても以下の内容になります。

- 1) 大学における学生との交流
- 2) 日系企業の工場見学
- 3) 異文化理解のための文化施設および名所観光

渡航先	日程	人数	訪問先	費用	備考
タイ (バンコク)	9月7日(火) ～ 12日(土) (6日間)	約 20 名	● カセサート大学 ● タイ・ローム ● 寺院など	約 12 万	1) パスポート有効期限残 6ヶ月以上
ベトナム (ハノイ)	9月7日(月) ～ 12日(土) (6日間)	約 20 名	● ハノイ大学 ● ベトナム TOTO ● 史跡など	約 10 万	1) パスポート有効期限残 6ヶ月以上 2) ハノイ大学の寮に宿泊
台湾 (台北)	9月6日(日) ～ 10日(木) (5日間)	約 20 名	● 台北科技大学 ● 平田機工 ● 博物館など	約 10 万	1) パスポート有効期限残 3ヶ月以上

※ タイ・ベトナム組は、鹿児島発着のバスでの福岡往復となり、7日(火)、12日(土)は同じバスに同乗します。
7日(火)は福岡泊です。

※ 台湾組は鹿児島空港発着です。

● 3年生のみ対象プログラム

研修内容は、以下の内容になります。

- 1) IT 技術系高校における学生との交流
- 2) 大学見学と現地企業の工場見学
- 3) 異文化理解のための文化施設および名所観光

渡航先	日程	人数	訪問先	費用	備考
スウェーデン (ストックホルム)	9月2日(水) ～ 10日(木) (9日間)	約 20 名	● NIT 高校 ● ウプサラ大学 ● 現地企業	約 26 万	1) パスポート有効期限残 3ヶ月以上

● 3・4・5年生対象プログラム

研修内容は、以下の内容になります。

- 1) IUT 校（技術短期大学）における学生との交流
- 2) エアバス社の工場見学
- 3) 異文化理解のための文化施設および名所観光

渡航先	日程	人数	訪問先	費用	備考
フランス (トゥールーズ)	9月21日(月) ～ 29日(火) (9日間)	約 20 名	● IUT 訪問 ● エアバス社 ● 市街地文化財 視察	約 29 万	1) パスポート有効期限残 3ヶ月以上

タイ研修報告書

情報工学科 2 年 山下 雄大

平成27年9月の鹿児島高専の海外研修旅行でタイに行った。カセサート大学の学生たちとの交流、ローム工場の見学、バンコク市内観光などの研修だった。

まず、今回のタイ海外研修に参加することで初めて海外に行くことが出来た。海外に行って改めて感じたことは、国や地域によって考え方が異なっているということである。日本での日々の生活で凝り固まってしまった考え方を認識することが出来たことから、さまざまな考え方を意識しなければ、これからの国際化では活躍できないと感じた。また、実際に海外に行くことで本やインターネットで調べてわかることとの違いなども見つけられた。

次は、カセサート大学日本語学科の学生さんたちとの交流(写真1)を通して感じたことは、お互いに国のことなどを紹介し合って、タイの文化についての理解が深まった。しかし、カセサート大学の学生さんたちは日本語でしゃべり、たまにタイの学生に通じないこともあったので、日本語しか満足に話せない私にとっては悔しい思いをした。そのほかにも、学食での食事、学内水族館などいろいろと案内をしてもらいしっかりと交流でき、とても楽しい時間になった。

ローム工場の見学では、会社の説明を受けた。その中で、2011年の大洪水(写真2)での話が深く印象に残った。会社内が水没してしまいがちながらも商品を待っている人のために、いち早く復旧させるということと、企業目的の「われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国内外に永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。」というところが、有言実行できていること文化の進歩向上というのが良いと思った。

バンコク市内の観光では普段は写真や動画などでしか見ることでできない王宮(写真3)や有名な寺院など、とても貴重なものを見ることが出来た。その中でも印象が強いのが、ワット・プラ・ケオ(エメラルド寺院)とワット・プラ・マハータートである。なぜ、印象に残っているかというと、エメラルド寺院は色彩豊かでとてもきれいだったからだ。もう一つのほうは、日本の神社などでも見られる、首のない仏像(写真4)があったからで親近感を感じたからだ。しかし、首のない理由は、ヨーロッパの侵略者たちがオークションに出品するために持ち帰った、ということらしいので、少し残念だった。

今回のタイ海外研修を通して普段できない、いろいろなことを経験できた。そのことによって自分に対する課題も見つかったのでこれから改善したい。初めての海外研修は自分にとって非常に有意義なものになった。



写真1 カセサート大学との交流



写真2 タイローム工場



写真3 王宮被急カセサート大学との交流



写真4 首のない仏像

海外研修を終えて

都市環境デザイン工学科3年 竹内 舞美

私は、今年の夏休みに高専の海外研修プログラムで台湾に行った。海外に渡り自分の国以外の人と関わることは今後の人生において貴重な経験になるのではないかと考え、参加を決めた。今回初めて海外に行って学んだことは、台湾の文化や歴史についてや言語の間違いを恐れずに自分の伝えたいことを積極的に伝えるということだ。

文化については、基本的には日本と大きく違うというわけではなかったが、端々で文化の違いを感じるがあった。例えば、車線が台湾では右側だったり、エスカレーターでは一段あけて乗ることが暗黙の了解だったりするところだ。また、日本のレストランがあったり日本のキャラクターのグッズが多くあったり、日本の文化の影響も台湾には多くあるんだなあと感じた。台湾には日本語をしゃべれる人が多く、特に飲食店に関してはほとんどのお店の人が日本語を話すことができていた。しかし、文化が似ていたり日本語をしゃべれると言ってもやはり違う国、一般的な日本人の性格とは違いがあると感じた。例えば、飲食店では店員さんがせっかちで食べ終わってなくても次々と料理を運んで来たり、もう少しで食べ終わる皿を違う料理の入った皿に勝手にまとめてしまったりしていた。こういった違いを感じるのも海外に行くことのいいことだと思う。

研修4日目は、平田機工の見学・従業員の方との交流、台北科技大の学生との交流があった。台北科技大の学生は英語力がとても高く、私は英語の聞き取りが苦手なので度々答えられないことがあり、英語の学習がもっと必要だと感じた。しかしそれ以上に、少し自信がなくても、文法の間違いなどを気にせずとにかく積極的に発言してみることが大切だと思った。これから外国語でのコミュニケーションをよりよいものにするため、普段から積極的に発言することを心がけたり、日々の学習の中で少しずつボキャブラリーを増やしたりしていこうと思う。

今回の海外研修を通して、日本では経験できない様々な体験ができ、今後も機会があればいろいろな国に行ってみたいと思うようになった。今回の研修で学んだことをこれからに活かしていきたい。



フランス研修を終えて

情報工学科5年 丸野 将輝

フランス語学研修は、移動日も含めて2015年9月21～29日に行われた。フランスへ出発する日までいろんな準備をした。中でも一番力を入れたのは、プレゼンテーションの練習である。フランスへ行った際に2つのIUTへ訪問する予定で、そこで日本についてのプレゼンテーションを行うとのことだった。IUTとは技術短期大学で、高専の専攻科のようなところである。私たちの班は日本とフランスの文化の違いについて考えた。多くの文化の違いに気付くことができて、行く前に調べておいてよかったなと思った。そしてさらに、発表は英語するため自分で英語に訳した。発音にも気を付けないといけないため、何度も読んでほぼ完璧にした。

準備万端、いざフランスへ出発！とは言ってもかなりの不安があった。人生初のヨーロッパだし、英語も普通に話せるかが不安だった。まずはモンペリエを訪問した。学校はモンペリエIUTだった。そこには、私が1、2年生のときにフランスから留学してきた人が住んでいて2日ほど一緒に行動できた。フランスのことや学校のことなど多くのことを知ることができてよかった。次はトゥールーズを訪問した。学校はトゥールーズIUTだった。そこではやはりホームステイが印象的だった。フランス人はほとんどの人がフランス語しか話せず、なかなか思いを伝えられない場面が多かった。しかし必死に伝えようとする私に対して嫌な顔1つもせず、理解してくれようとした。そのフランス人の優しさには何度も

素晴らしいと実感した。最後は首都のパリへ行った。長く滞在はできなかったが、エッフェル塔や凱旋門など、多くの建造物を間近で見ることができて本当に嬉しくて感動した。

今回のフランス語学研修を通して多くのことを学ぶことができた。フランスにはフランスの素晴らしい歴史と文化があり、それを誇りに思える人たちが楽しく生活している。また、フランスの学生の皆さんとの交流を通して、日本人のことを理解しようとしてくれたり、長い日をかけて準備してフランスのことを懸命に伝えてくれたりして、ひとりの人間として尊敬のできる存在となった。



写真3 モンペリエIUT 正門前にて



写真1 トゥールーズにおけるエアバス社の工場見学



写真4 モンペリエIUTでのランチ



写真2 トゥールーズIUT学生との市内散策



写真5 パリ・シャンゼリゼ通りと凱旋門

平成27年度の広報委員会の活動について

副校長（総務・企画担当）
広報委員会委員長 大竹 孝明

広報委員会委員長を担当してとうとう8年目となりました。今年度から学内の組織が大きく変更となり、総務・企画担当の副校長が本委員会の委員長を担当することとなりましたのでよろしくお願い致します。

担当事項も広報誌、ホームページ、「鹿児島高専の日」、「高専ロボットと音楽会」、「九州沖縄地区高専フォーラム」や高専シンポジウム等での事例発表等に加え、霧島市教育委員会と志学館大学との共催で行ってきた「ニューライフカレッジ霧島「隼人学」」や南日本新聞社の学生が記者となり取材を行うミライページ（旧キャンパスプレス）を担当することとなり、非常に幅広くなってきました。

このような状況下で、各科及び技術室の広報委員会委員並びに企画係の皆様には、ご協力を頂き感謝申し上げます。

広報（PR）につきましましては、学内の全ての部門に関係し、皆様方のご協力が不可欠ですので、本校及び地域の活性化のため今後ともよろしくお願い致します。

今年度の主な活動内容と、代表例として第7回目の「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2015」」の8月に開催した鹿児島市立科学館での活動と、12月にかごしま県民交流センターで実施した「第7回高専ロボットと音楽会」についてご報告致します。

1. 平成27年度の主な活動内容

- ①「平成27年度 学校要覧」の発行
- ②「ニューライフカレッジ霧島「隼人学」」の開催：
志学館大学生涯学習センター及び霧島市教育委員会と

の共催、年10回開催（5月9日～2月13日）

- ③「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2015」」：8月9日、鹿児島市立科学館
- ④第7回高専ロボットと音楽会：12月20日、かごしま県民交流センター、かごしま県民大学連携講座（かごしま県民大学中央センターとの共催）
- ⑤九州沖縄地区高専「科学技術教育支援WG」による「高専サイエンス支援ネット」の連携校としての活動
- ⑥鹿児島高専だより第70号の発行
- ⑦かごしま県民大学連携講座による公開講座等の実施
- ⑧「ミライページ（旧キャンパスプレス）」の本校紹介：南日本新聞の学生による記事掲載（11月14日（土））
- ⑨「平成27年度全国高専フォーラム」への出席：
8月26日～28日、東北大学川内キャンパス（宮城県仙台市）
- ⑩「第25回九州沖縄地区高専フォーラム」への出席・発表：12月19日、佐世保高専（長崎県佐世保市）
- ⑪「第21回高専シンポジウム in 香川」への出席及び事例発表：平成28年1月23日、香川県丸亀市）

2. “小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2015」”について

鹿児島高専では、鹿児島市立科学館との連携（共催）により、科学実験工作教室等の各種イベントを通じて科学に対する興味や関心を高め、夢や創造性を育む機会を設ける事業を実施してきた。本事業は、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の「科学技術コミュニケーション推進事業機関連携推進 機関活動支援型」に「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日」」のテーマで、平成21年度より平成26年度まで連続して支援を受けてきたが今年度は採択されなかった。

しかしながら、本企画を、科学技術者育成を行う鹿児島高専への志願者増に向けた広報活動の一環とも位置づ

表1 鹿児島市立科学館における活動内容（平成27年8月9日（日））

Ⅰ 科学実験工作教室 小学生及び中学生（事前応募）	
①紙トンボを作ろう	②ー嗚呼！簡単、電子回路工作ー 電気で音と光を操って、電子楽器を作ろう
③4足歩行ロボットを作ろう	④プログラミングでロボットカーを動かそう！
⑤折り紙建築で世界遺産を作ろう	⑥AMラジオを作ろう（鹿児島市立科学館）
Ⅱ 音楽と科学の融合ショーや各科の科学実験、学校紹介等（鹿児島市立科学館の一般来館者）	
1. オシロスコープで音を見てみよう	2. 種子島ロケットコンテスト出場ロケットの紹介
3. 鹿児島高専学校紹介（学校説明会、進学相談）	
4. 一般来館者小中学生向け科学実験工作教室	
①シュワシュワあわロケットで宇宙へ！（一般教科理系物理）	
5. 機械、電気電子、電子制御、情報及び都市環境デザイン工学科による展示及び科学実験	
① 水の力と水車	② クリーンエネルギーとエレクトロニクスショー
③ 体験しよう！電子制御の世界	④ 人に近づくコンピュータ
⑤ 桜島の灰もやっかいじゃないよ。コンクリートの材料としても使用できるよ。	

け、科学実験工作教室、学科展示、学校説明会や進学相談等を今年度も企画し、平成27年8月9日（日）に鹿児島市立科学館にて実施した。

活動内容については、前頁の表1に示すように、科学実験工作教室と音楽と科学の融合ショーや各科の科学実験、学校紹介等を企画した。イベント終了時に1,275名の多くの入館者があり、好評のうちに終了した。

3. 「第7回高専ロボットと音楽会」について

今年度は、企画係や技術室をはじめ学内のご協力により、かごしま県民大学中央センターの「かごしま県民大学連携講座」として下記の内容で開催した。（図1、2）

日 時：平成27年12月20日（日）15：00～16：30

場 所：かごしま県民交流センター2階 中ホール

入場料：無料

主 催：鹿児島高専、かごしま県民大学中央センター

後 援：南日本新聞社、MBC南日本放送

内 容：吹奏楽部と演奏ロボットの競演、メカトロニクス研究部の高専ロボコン出場ロボットの実演

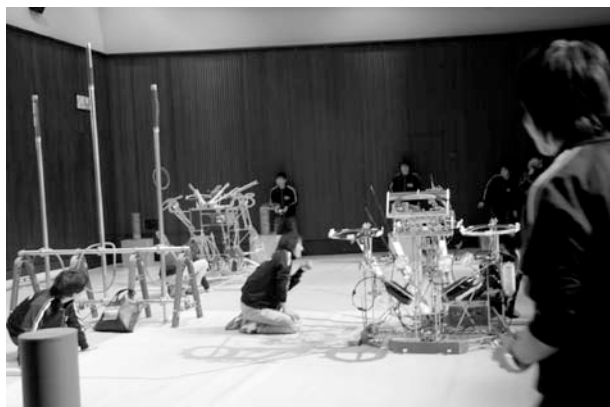


図1 メカトロニクス研究部の高専ロボコンロボット



図2 演奏ロボットと吹奏楽部とのコラボ演奏

ニューライフカレッジ霧島 について

一般教育科（理系） 村上 浩

ニューライフカレッジ霧島は、平成12年度より本学と志學館大学、霧島市教育委員会が連携して行っている1年間の連続講座（全10回）です。年度ごとにテーマを決め、様々な分野から霧島市に縁の深い方を講師に招いています。本年度のテーマは「隼人学 五感で学ぶ地域の魅力」であり、実施の日時、場所、演題、講師は次の通りです。

第1回 5月9日（土） 9：30～12：00 国分公民館
開講式

「ふるさと」の心 言葉の「ふるさと」

詩人・デザイナー・エッセイスト 岡田 哲也 氏

第2回 6月13日（土） 9：30～11：30 国分公民館

私が霧島で出会った美しいものたち

シンガーソングライター 隼人 加織 氏

第3回 7月11日（土） 10：00～12：00 志學館大学

鹿児島の地形を感じる

志學館大学講師 宗 建郎 氏

第4回 8月8日（土） 9：30～11：30 国分公民館

鹿児島生まれの薩摩琵琶で世界と文化交流

薩摩琵琶演奏家 櫻井 亜木子 氏

第5回 9月12日（土） 9：30～11：30 国分公民館

鹿児島弁という音楽

児童文学作家 植村 紀子 氏

第6回 10月10日（土） 9：30～11：30 鹿児島高専

霧島温泉のもたらすKOUNOU

温泉ソムリエ 六三四 氏

第7回 11月14日（土） 9：30～11：30 隼人公民館

福山の「壺づくり黒酢」

鹿児島県天然壺つぼづくり米酢協議会 長野 正信 氏

第8回 12月12日（土） 9：30～11：30 鹿児島高専

エンジョイ！霧島茶

日本茶インストラクター 竹之内 裕子 氏

第9回 1月9日（土） 9：30～11：30 鹿児島高専

太陽が作る宇宙の天気ー宇宙の入り口鹿児島から

太陽を見るー

鹿児島工業高等専門学校教授 篠原 学 氏

第10回 2月13日（土） 9：30～12：00 鹿児島高専

ワークショップ「五感で感じる地域の魅力」

コーディネーター 志學館大学教授 岩橋 恵子 氏

閉講式



熊本大学大学院に入学して

平成27年 3月修了

機械・電子システム工学専攻 川崎 雄太郎

私は現在、熊本大学大学院機械システム工学専攻に進学し、日々研究に追われながらも、研究室の仲間とともに楽しい大学生生活を送っています。先日熊本大学在籍の鹿児島高専機械科出身OB会で、本科4、5年次担任としてお世話になりました塚本先生より高専だより執筆依頼をいただき、寄稿の機会を得ました。進学して間もないのですが、大学院での近況と在校生に伝えたいことを書きたいと思います。

私は専攻科で研究をしているとき、流体工学分野の混相流の研究に強く興味を持ち、より深く学ぶため大学院進学を決めました。そして、現在の研究室の先生に直接メールを送り、研究室訪問に行き、推薦入試を受けました。学部への編入学と異なり、専攻科からの熊本大学大学院入学の場合、大学院大学への進学方法と異なり、希望する研究室を選択ができます。したがって自身の希望する研究や専攻科での研究を延長した研究ができます。専攻科の指導教員の先生に推薦書を書いていただくことで比較的スムーズに進学できるので大学院に進学したい高専生にはとてもいい方法だと思います。

大学院に進学し衝撃的だったことは、大学院生の意識の高さです。研究室内を問わず多くの人と接する機会があり、「なんでそんなことまで知っているのだ」と思うほど院生には豊富な知識があり、尚且つ、将来やりたいことが明確でそれに向かっていろいろなことに取り組んでいます。私には彼らが同学年とは思えない印象を受けました。研究を続けたくて入学した私とは大きな差があり、私自身もっと多くのことに目を向けないといけなさと痛感させられました。今は社会に出たとき後悔しないように、限られた時間の中でやれることに全力で挑戦し全力で楽しんでいきます。

卒業して数か月ですが、私の鹿児島高専での7年間で振り返ると、とても充実していました。高専祭、部活動、クラスマッチなど日々の学校生活は楽しかった印象しかありません。ですが、その高専生活の中で、先のことを見据えてもっといろいろなことに挑戦してもよかったかなと少しばかり後悔しています。大学院に進学し、今までの自分の視野の狭さを知りました。高専を卒業して就職した同級生からは、会うたびに「学生が一番いい」とよく言われます。私も学生である今こそ何にでも挑戦できるチャンスだと改めて思っています。

在校生のみなさんにも、学生である今のうちに何にでも興味を持ち、何にでも挑戦して欲しいです。

夢を信じた就職活動

平成27年 3月卒

電気電子工学科 5年 松元 洋人

私は平成25年に鹿児島高専の電気電子工学科を卒業し、現在は株式会社ネオテックという放送制作技術会社で、主にスポーツ中継を担当するテレビカメラマンとして働いています。そんな自分が今、鹿児島高専を経て、就職して感じた事をここに書きたいと思います。

高専時代の私はサッカー部に所属して、学力は万年、下の中の順位を彷徨っているような学生でした。学生生活の中心といえば、勿論サッカーでした。そんな自分にも、年月を重ねて、いよいよ人生の分岐点というべき、「就活」の時期がやってきました。学生生活でサッカーしかしてこなかった自分が、いきなり「社会へ出る為に就活をしろ」と言われても、何をしたいのか全く分かりませんでした。「一体、自分は、どんな選択をすればいいのだろう」と悩みました。友達の考え方もいろいろあり、会社のネームバリューや福利厚生、勤務地、お給料、仕事内容、やりがい…何を重視して就活するかは人それぞれでした。そんな悩む日々のある日のK先生の授業で、「高専の卒業生で、サッカーが好きでどうしても海外サッカーを撮るカメラマンになるって言って卒業していった人もいるんだよ。まー、今やれているかは分からないけれど、好きな事をするのも一つの生き方だよ」という話を聞いた私は、これだ!!と思いました。思い高ぶった私は、授業後K先生のところに駆け込み、就活の相談をしました。

そうして私の中で、人生の選択で重要なキーワードになったのが「夢」でした。小学校から始めたサッカーというスポーツ競技を通して、小学校、中学校、高専と沢山の出来事と人に出会えました。その経験から、人としての成長と沢山の仲間を頂きました。そしてこれからもサッカーに関わっていききたいという気持ちが強くなり、「サッカー中継を担当するテレビカメラマンになる」という一心で就活を進めました。そして、今現在私はスポーツ中継を担当するテレビカメラマンなれました。

鹿児島高専に入学して、本当に良かったと心から思っています。その理由は、「親友」が沢山出来たからです。今までの私の中の「親友」という言葉の意味は、人生で1、2人出来る仲が良い友達のことを指す言葉でした。しかし5年間という長いようで短い、短いようで長い年月を友達と過ごすことで、私の「親友」は沢山増えました。部活で切磋琢磨したり、高専祭でバカやったり、寮

生活で嫌っていうくらい寝食一緒にいたり、勉強を徹夜で協力して乗り切ったり、しょうもないことでケンカしたり、本当にアホみたいなことで盛り上がったり…挙げればキリがないですが。その密度が濃い時間を過ごせたからこそ、親友と呼べる仲間が沢山出来ました。その仲間達とは、卒業して上京してからも、あいかわらず遊んだり、「夢」を語ったり、落ち込んでいる時に助けられたりします。私にとって、本当に貴重な存在です。

在校生にメッセージということで、私が伝えたい事を2つ書きたいと思います。

1つは、鹿児島高専に在校中の間に沢山の自分にとっての「親友」を作ってください。そして、その仲間と学生生活を楽しく謳歌してください。そうすることで、その時間と仲間が卒業して、今後の人生の宝物にきっとなります。

2つ目は、「夢」も持つことです。私は、高専で改めて「夢」を持つことの大切さを学びました。今、私の夢は「カメラマンとして、サッカーW杯に行き、自分にしか撮れない映像を世の中に残す」ことです。学生の時、私がカメラマンになると言った時、周りで無理だと言う意見もありました。しかし、私はなれました。意志あるところに道が出来ます。自分を！夢を！信じて下さい。夢の持つパワーは、生きる上で何事にも負けない原動力になります。私自身も、それが困難を乗り越える支えになった事が多々あります。

それでは、在校生の皆様、「親友」と「夢」と共に最高の高専生活を堪能して下さい！！

在校生の皆さんへ

平成24年電子制御工学科卒業生 郡山 弘夢

皆さんこんにちは。4年前、鹿児島高専を卒業した郡山弘夢と申します。学生時代はサッカー部に所属し、毎日サッカー漬けの毎日を送っていました。現在はパナソニックグループにおいてBtoBのビジネスを担当している会社にて日々悪戦苦闘の毎日を送っています。今回はこのような機会を頂きましたので、社会人4年目のまだまだ若輩者の私ですがこれまでの経験をもとに以下の2点をお伝えできればと思います。

- ・いまのうちに実践しておいて欲しいこと
- ・いつでもいつまでも持ち続けて欲しいこと

まず、いまのうちに実践しておいて欲しいことというのは、「相手の立場にたつてものを考える」ということです。これは鹿児島高専の学生の皆さんなら聞いたことがあると思いますが、今はそのことの大切さがよくわからないこともあるかと思います。私はこの4年間の間で言葉を変え、形を変え、さまざまな場面でこのことの大切さを実感することができました。そして、この考えが自分の中で習慣化していなければならないということに気づきました。言われてからでは誰でも出来ますし、言われてからでは既に遅いのです。皆さんは素晴らしい教育目標のもとに日々生活をされていると思います。是非、今のうちから少しずつでも意識をして実践し、自分の中で習慣化して欲しいと思います。

次に、いつでもいつまでも持ち続けて欲しいことです。それは「感謝の気持ち」です。これが1番大切です。自分ひとりではなにもできず、またなにも達成できないことを、私は就職して社会人となり改めて思い知らされました。私は就職したばかりの時、学生の頃よりもまわりに迷惑をかけずに済むと思っていました。しかし、それも間違いでした。学生の頃よりも遥かに多くの人たちに迷惑をかけ、そして支えられて自分はなんとかやっていくことができます。社会に目を向けても、いくら有名な偉い人でも自分ひとりの力で何かを成し遂げている人は一人もいません。この世の人みんなが、互いに迷惑をかけあい、支えあって生きているのです。だから、「感謝の気持ち」というのはいつでもいつまでも持ち続けてください。今日の前にいるその人にも実は支えられているかもしれないのです。

あえて、もう1度だけ言います。「感謝の気持ち」をいつでもいつまでも持ち続けてください。これが1番大切です。

残りの学生生活、精一杯楽しんでください。

新人研修をすごして

情報工学科25期 脇田 明奈

在校生、および保護者の皆様、はじめまして。平成27年3月に情報工学科を卒業した脇田明奈と申します。現在は鹿児島県にある株式会社 YPK で勤務しております。仕事では、システムの設計・開発に携わっております。

この度は、4、5年生時に担任としてお世話になった新徳先生よりお話を頂き高専だよりに寄稿する事になりました。私は高専を卒業して1年もたっておらず、新人研修がやっと終わったところなので今回は、新人研修で参加したETロボコンを通して思ったことを書いていきたいと思います。

さて、ETロボコンとは何だ？と思われる方もいらっしゃると思いますので簡単に説明をさせていただきます。ETロボコンでは既定のロボットでレースを行い設計モデルと走行タイムの速さで順位を競います。この大会を通して、組込みシステムの開発分野の分析・設計モデリングに携わることが出来ます。

今回大会には新人2人と上司1人の参加となりました。大会に参加するにあたって最初に上司に言われたことがあります。それは「大会で優勝することはどうでもいいので、この取り組みを通して組込みシステム開発の開発工程を一から体験してスキルを身につけて下さい」です。そのため学生時代に実験で組んだソフトのようにとりあえず組むという考えを捨て、実装したい機能や性能を分析し、アーキテクチャと機能の実現方法を設計、具体的な実装方法を設計してからソースコードを実装と順序を踏んで進めていきました。この工程で開発を進めていくうちに設計がいかに大切なのだという事に気づかされました。設計内容を書類にまとめることによってシステムの流れを把握出来るため複雑さや乱雑さが軽減され可読性が向上していきます。機能拡張などしたいときも設計書を見るだけでどこを変更するかが一目でわかるようになりました。設計をする事によって目標を明確化し道筋を立てる事によって状況の分析し管理する事が容易になるため、目標を達成する最短の距離を導き出す事ができるのです。

しかし、良い設計を出来るようになるにはやはり経験を積んでいかなくてはいけません。私も一から設計の仕方を独学で身につけたため、ちゃんとできているかは非常に怪しいところがあります。きっと社会に出てからも必要になる力だと思うので学校の授業などでは設計をする機会があまりないと思いますが、これから少しずつでもいいので設計に取り組んでみてください。

それでは最後になりますが、鹿児島高専および学生の皆様のご活躍を期待しております。

鹿児島高専を卒業して

都市環境デザイン工学科卒業 湊脇 貴子

皆さんこんにちは。私は、昨年度卒業生の湊脇と申します。

私は現在、新日本空調株式会社の新入社員として日々勤務しています。

新日本空調は、名前の通り空調・衛生・電気設備の施工をメインとしていて、代表的な物件としては、沖縄の美ら海水族館や京都大学の各研究所等が挙げられます。

私は大阪支店で改修の部署を担当していて、大阪市内の様々なオフィスビルや駅ビルなどの空調改修工事の施工管理をしています。空調改修は、エアコンの更新や、大規模な機器の更新など大きな工事から、メンテナンスといった小さい工事まで幅広いことが特徴です。職業柄、朝は早く夜は遅く体力的にきついこともあります。が、職人さんたちとの交流や日々設備が出来上がっていく行程を見てやりがいも感じています。

私は都市環境デザイン工学科の第一期生として入学しました。入学を決めたのは、建築の勉強をしたかったからです。入学前は、建築士になって建築の意匠・設計の仕事に就きたいと考えていました。しかし、在学中に様々な教科を学んでいくうちに建築設備に興味を持ち、また現場でモノが出来上がっていく様子を見たいという思いから、今の会社に就職しました。就職活動中はとても悩みましたが、自分が一番何をしたいか、何が向いているのかと自己分析を重ねて、決めました。都市環境デザイン工学科の先生方には大変お世話になりました。

高専は、就職にはとても強い学校です。また、先生たちの厚いサポートがあることも大きな特徴だと思います。だからこそ、学生のうちに未来を見据えて自分のやりたい仕事をするための選択が重要になると思います。大学・専攻科編入を希望する場合も、同じことがいえると思います。これから就活・試験を迎える学生の方、頑張ってください。

後は、在学中たくさんの事を経験してください。学校行事にしても部活動にしてもアルバイトにしても遊びにしてもです！就職するとその道一本でなかなか違うことを経験する機会が少なくなってしまうと思います。また、これらの経験は少なからず、社会に出て役に立つことがあります。ぜひ今のうちにしかできないことをやり切ってほしいと思います。

偉そうなことを言ってしまいましたが、今、私はこの会社に就職してよかったと思っています。次の目標は一級管工事施工管理技士の資格をとって、現場代理人を務

めることです。皆さんにも目標をもって日々精進していただきたいと思います。頑張ってください！



同期の女の子の会↑
今では「技術女子」も増えています。

在校生の皆さんに伝えたいこと

平成27年 3月修了
機械・電子システム工学専攻 内門 大地

鹿児島高専専攻科を卒業して約8ヶ月が経とうとしています。

今年の4月から第一希望であった富士電機機器制御株式会社で働いています。

少し会社の紹介をしますと、ブレーカーや制御リレー、自動販売機、皆さんの身近なものとしては、電車などの自動改札機や、セブンカフェのコーヒーメカなど、本当に多種多様な製品の設計・開発・製造といったことを行っています。その中で主に私が行っている業務は、新製品を開発する際の性能や耐久性などのさまざまな項目の評価試験をしています。自分で回路条件・配線を決め実際に回路を組んでさまざまな評価試験を行いますが、大電圧・大電流を扱うこともあるため、間違えて配線をすると機器を壊したり、最悪の場合火事にもなりかねないので責任重大です。今担当している仕事は本当にやりがいがあり楽しく取り組むことができます。

皆さんも将来的には就職活動をする時期がくると思いますが、私は、就職は自分の人生の中でも大きな分岐点になると思っていたため、早い時期から行動を起こして、就職活動に取り組みました。そのこともあって、第

一希望の企業に入社できたと思っています。もしかしたら40年近く働くことになるかもしれない就職先を決めることになるので、皆さんには本当に自分のやりたい仕事は何なのかをじっくりと考えから就職活動を行って欲しいと思います。そうすることで、これからの人生がより楽しく生活できるかと思っています。

最後に皆さんには是非、学生時代の間に学力はもちろんですが、継続的に誰にも負けないくらい頑張ったこと（部活など）を1つでもいいのであると就職活動をする上でも就職してから役立つと思うので挑戦してみてください。

大学院進学で感じたこと

平成26年 3月修了
電気情報システム工学専攻 増山 翔

私は平成26年に専攻科の電気情報システム工学専攻を修了し、現在は横浜国立大学大学院物理情報工学専攻に在学しています。大学院ではパワーエレクトロニクス関係の研究を行っています。専攻科修了後の進路を決めるときに、大学はどんなところだろうと興味を持ち、大学院の進学を決めました。そこで私が大学院で感じたことを書こうと思います。

初めに私の在籍している研究室について紹介します。研究室の人数は学部生、院生、博士研究員や留学生を全員合わせると30人近くになり、それぞれ年齢や出身地、言葉が異なる人たちです。学会活動は大学院2年の間で国際学会に参加することを目標としています。そのため、研究室内での研究状況の報告会では英語の資料を作り、英語で報告を行います。行事は研究室旅行や、同じ分野の他大学と合同で行うポスター発表会などがあります。

研究室のそれぞれの人が研究テーマを持ち、一人一人が先生と打ち合わせをしていることに私は驚きました。また、学会に行く回数と人数が非常に多く、研究設備が整っていると感じました。このような環境で研究することができるのは大学だからこそだと思います。そして、英語の必要性を痛感しました。研究の論文調査、報告会資料の作成などでどうしても英語を使わなければならないからです。高専生は大学生に比べて英語がかなり苦手です。私自身も大学院に進む前にTOEICの勉強をしましたが、それだけでは全然足りないと感じています。もう一つ痛感したことは資料作成やプレゼンテーションの難

しさです。高専の本科と専攻科で中間発表や卒業研究発表を経験していたので、自分は大丈夫だと思っていました。しかし、作成した資料が分かりづらかったり、意図したことが相手に伝わっていなかったりと、自分の力不足を認識しました。大学院では定期的に発表があるため、資料作成とプレゼンテーションの練習をすることができます。また、他の人の発表を聞くことができるため、どんな資料やプレゼンが分かりやすいのかを知ることができます。

高専の卒業生は就職を選ぶ人が多いと私は思います。私も就職か進学かで悩んだ時期がありました。しかし、進学したことによって視野が広くなり、多くの人と知り合うことができたので、高専卒業後は進学することを勧めます。

大学院修了後は高専と大学院で得た人とのつながりを大切にしながら、学んだことを活かして仕事に取り組んでいきたいです。

在校生の皆様へ

平成23年3月修了

土木工学専攻 黒田 恭平

2011年3月に鹿児島高専専攻科土木工学専攻を修了し、約5年が経過致しました。私は専攻科修了後に長岡技術科学大学大学院に進学し、現在は本大学院の博士後期課程3年生になりました。

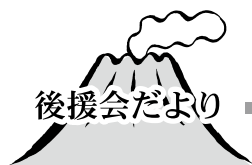
今回、在校生の皆様への本稿を執筆するにあたり、私の経験に基づいた皆様へのメッセージをここに記してみたいと思います。私の伝えたいことを端的に言うと、「何事にも疑問を持ち、主体的に物事を理解する努力をしましょう」ということです。皆様も経験がお有りかと思いますが、誰かに言われたことをそのまま調べもせず、鵜呑みにした結果、後々にそれが間違いだったと恥をかけたことはありませんか？与えられた仕事や勉強だけを実行し、いざ、違う環境に行った時にその経験が活かせなかったことはありませんか？授業で出た課題の応用問題が試験中に出た時に、解けなくなることはまさに良い例です（文句を言うのはお門違いです）。これは全て、物事に取り組む姿勢の問題であり、受動的な姿勢が招いた結果になります。

それでは、主体的に行動するためにはどのようにしたらいいのでしょうか？簡単です。受動的に教わったこと

を基にして自分の意志で物事を調べればいいだけです。勿論、最初から自分で調べ物をするのも凄く良い姿勢です。今は図書館の本も整備されていますし、インターネットも普及しているので簡単に調べ物ができます（今は高校生が論文や学会発表をする時代にまでなってきました。凄いですね）。そして、自分で調べた物事の中から興味が湧いたことについて、さらに深く追ってみましょう。そうすると、自分の将来の道が見えてくるかもしれません。私がこのような考え方を持ったのは本科5年生からで、その分岐点は「研究」でした。19、20歳の比較的若い年齢で、物事を深く追究する楽しみ、喜びを覚えることができたのは、私にとって大きな財産でした。

偉そうなことを書きましたが、私も今まで何度も迷走してきました。その度に、鹿児島高専、長岡技術科学大学やその他連携して研究を行っている他大学、研究所の先生に助けて頂きました。鹿児島高専には素晴らしい先生や職員の方々がいらっしゃいます。もし、皆様が道に迷った時、主体的な行動ができなくなってしまった時にはきっとサポートしてくださると思います。今振り返ると、私も先生ともう少し色々な議論を交わしておけば良かったと少し後悔しています。

私の言っていることに賛同出来ない方もいると思いますが、この駄文に書かれていることが皆様にとって良い方向に影響してくれることを祈り、この文章を閉じたいと思います。私のメッセージによる在校生の皆様の発奮を期待して。



御 挨拶

後援会 会長 末廣 浩二

日頃、後援会活動に、ご理解ご協力いただきありがとうございます。本年度は、後援会会長として2年目になり、後援会の直面する問題、また、学校と後援会の関わり方など、考えさせられる1年でした。高専も創立から50余年を過ぎ過渡期の時期だと思います。

まず、後援会の直面する問題は、今現在、取り組んでいる会則の問題です。長年、後援会は、学校から遠方の方も多く、なるべくシンプルに動きがとりやすいような会則で運営してまいりましたが、更に、後援会の皆さんの会費を充分活用できるよう、現在、総会の規定や会則変更の規定などを織り込んだ会則作りを理事会の承認を得ながら進めているところです。

次に、高専祭（文化祭・体育祭）についての問題です。これについては、学校側と学生会が協議を行い昨年からは新しい形の高専祭を模索している途中です。後援会も3役会において、教務主事、学生主事を交えて、学生の創造性と自主性を尊重する運営の在り方を軸におき、後方から支援しています。

それから、高専も他の学校と同じく、現在、少子化の問題に直面しています。平成3年当時と比べて今後15年ではほぼ半減する18歳人口に対し、国立大学の編成や高専の編成が目前に迫る中、学校と後援会が協力して、鹿児島高専の教育理念である

1. 幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する。
 2. 教育内容を学術の進展に対応させるため、また、実践的技術の発展のため、必要な研究を行う。
- を達成するために、支援を行っています。心身を鍛えるための部活の支援、これからのグローバル社会に対応するための国際交流の支援、本年からメンタルヘルスケアに対する支援など学校側が求める学生支援に対して、幅広く柔軟に後援会として対応しています。

そのことが、これから社会が求める学生の輩出につながり、卒業生が社会において活躍することが、今後の鹿児島高専の発展に一番寄与することだと考えます。

今後、学生たちの伝統、学校の伝統を引き継ぐために、後援会として何ができるか、来年度に向けて検討していきたいと考えます。理事会及び後援会皆様のご意見をいただければと思います。

最後に、今後ともに、後援会に温かいご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

高専生生活10年間のお礼として

後援会 副会長 湯浅 慎太郎

高専だよりには3回目の執筆のチャンスを与えていただき感謝いたします。1回目は鹿児島高専OBの立場から学生時代の思い出を中心に述べさせていただき、2回目は私の社会人としての立場から、学生の皆さんに労働者として必要な心得のようなものをお伝えさせていただきました。執筆の最後となる今回は、鹿児島高専で学んだ先輩の立場と息子の父親の立場から、これから社会に向けて巣立つ君たちにとって必要なことをお伝えさせていただきます。

○君たちが仕事でもプライベートでも絶対に事故や怪我をすることなく健康に過ごしてほしいと私たちは常に考えている。なので、これらのことに十分に気を配って日々を過ごすこと。

○働く＝働かせてもらう、ことではない。経営者から賃金を得る対価として、君たちは労働力を提供する、のである。だから経営者と労働者は対等の立場であることを覚えておくこと。

○子ども達、またその子ども達が安心して暮らせる社会を築くために君たちにできることは何なのかを日ごろから考えること。

それでは皆さん、今回もかさねてお伝えさせていただきます。

私たち技術者が汗を流して働くことが、住んでいる地域、年齢や貧富の差に関わらず、すべての人間が安全で便利な生活を送ることに必要であることを記憶にとどめて社会に飛び立つことを強く望みます。

「最大多数の最大幸福」

電気電子工学科 5 年 理事 稲留 隆

本年無事卒業する事と成りました。5 年間皆様と共に貴重な時間を過ごせた事を幸せに思います。後援会の末廣会長を中心とする役員及び理事、事務方の徳石さんには、本当にお世話に成りました。感謝申し上げます。

さて、入学当初を振り返ってみますと、第一回目の理事会に参加させて戴いた時その予算規模の大きさにびっくりさせられました。後見会組織は高校PTAの延長だろうと思っていましたので、予算規模4,000万円の後援会組織って単純に凄いなと思いました。この事は、当然学生たちへの影響も相当大きく、後援会の事業計画、予算及び決算については、後援会会員の皆様も常に関心をお寄せ戴きたく思います。私も理事会を通じて、後援会組織、鹿児島高専の学校運営の理念及び方針等をよく知る事ができました。そして、理事会において毎回先生方の話が聞けた事、疑問に思う事は直接先生方へ質問出来た事等は、とても有意義であり貴重な経験でした。後輩の後援会会員の皆様にも理事に積極的に就任される事をお勧めします。

ところで、鹿児島高専を組織と言う面からみると、学校としては、かなり複雑な組織だと、つくづく思います。高校では無く、大学とも言い切れないし、高校と大学の混合体ですから立ち位置が実にユニークです。この事に因るメリットを見いだすのが先生方の腕の見せ所かなと思います。1年生から3年生までは、高校生として生活指導しなければならない面もあるし、4年生以上は大学生として自主性も尊重しなければならなし、かなり大変ですね。1年生から5年生まで、多種多様な学生たちを同じ規則で規律するのは最初からかなりハードルの高い組織体かなと思います。校長先生をはじめ諸先生方本当にご苦労さまです。

最後に、これからも後援会と学校とのより良い協力関係を築き、ますます学生等が飛躍出来ますように期待しています。

鹿児島高専を選んで良かった

電子制御工学科 5 年 理事 今吉 ひとみ

思い返せば息子が鹿児島高専を目指し始めたのは中学3年生の秋頃だったでしょうか、随分ぎりぎりだったように記憶しています。我が家は転勤族で当時出水市に住んでいました。私自身は、中学校であった高校説明会で熊本高専の話に興味をもっていました。特に高専から大学編入すると公立高校から大学に入るよりもトータルすると授業料がだいぶ安くですむという点に惹かれました。あいにく、息子は私の意に反して進学ではなく就職を選びましたが。

そもそも息子本人は何の目的もなく仲のいい友達と地元出水の普通高校に通うつもりでいたようです。しかし、我が家は1、2年後に転勤を余儀なくされてしまいました。高校途中で転校か寮生活を選択しなければならないことを考えると1年時がほぼ全寮制であった鹿高専に私はあらためて魅力を感じました。もともと理数系の教科が好きだったことと、何人もの生徒さんを高専に進学させた経験を持つ担任の先生の勧めもあり、やっと息子も鹿児島高専を目指すこととなりました。当時の学力では合格は難しかったと思いますが、本人の努力とその担任の先生が受験に引率すると合格するというジンクスで奇跡的に合格することが出来ました。目標に向かって挑戦することなど苦手だった息子にとって鹿高専合格という成功体験は貴重だったと思います。

それから入学して寮生活とともに高校生活が始まるわけですが、同じ出身中の同級生は一人もおらず最初は心細い日々を送ったと思います。引っ込み思案だった息子は、洗濯機が途中で止まって人に聞けず私に電話してくる始末。最初の定期テストの前には、周りがものすごく優秀に思えて不安とストレスで過呼吸になったこともありました。応援団も中学校で部活をしていなかった息子には大変きついものでしたが、終わった後の達成感は何にも代え難いものでした。次の年からは応援団が楽しみになったようです。3年生の夏にはシンガポールに海外研修に行き英語力の必要性を感じ、逆に国内だったら言葉が通じるのでどこでもやっていけると感じたそうです。4年生時には1週間のインターンシップで県外の企業の仕事を体験させていただきました。3年間の寮生活、5年間の学生生活を経て成長した息子に感無量です。これもひとえにクラスメート、先輩方、先生方のお陰だと思います。親子共々鹿児島高専を選んで良かったとつくづく感じています。ありがとうございました。

目標を持って、いろんな経験を

電気電子工学科1年 理事 竹下 美智代

息子と私が、初めて高専に入ったのは五年くらい前だったでしょうか？小学生向けの科学工作講座を受講した時です。息子はその頃から機械工作や電気工作が好きで、講座が終わって戻ってきたときは「高専のお兄ちゃんにいろいろ教えてもらったよ」と嬉しそうに話をしていました。私も校内を見て回ったのですが、まるで大学の中にいるような気がして、『息子もこんな学校で勉強が出来ればいいな』と思ったことを覚えています。

そのうちに受験の年になり、夏休みには一日体験入学に参加しました。息子は楽しそうに体験講座を受け、同じ展示物を二度三度見て回りました。帰り際に機械工学科の先生だったと思いますが、「ソーラーカーに乗りましたか？是非乗ってください」と声をかけてくださいました。『熱心な先生方がいらっしゃる』と感心しました。そして、息子は正門を出たところで「やっぱりここだね！」と笑顔で言いました。息子にとって狭き門である高専でしたが、『目標』が出来たことがよかったのか、その後、何とか努力し無事に高専生になることができました。

息子は寮に入ることに抵抗がありました。『寮に入るのも良い経験』と思い、有無を言わず入寮手続きをしました。でも、寮や部活の先輩、クラスメイトに恵まれたのでしょう。次第に寮での困った話をすることもなくなり、クラスメイトの名前をよく聞くようになりました。寮にも学校にも慣れたんだと安心しました。

私の方は、『高専のことが分かるかも』と思って理事を引き受けました。理事会や地区支部会に参加してみると、先輩理事さんに親切に接していただき、いろんな事を教えていただきました。また、先生方や職員の皆様の話を聞くと、学校の教育方針や学生への対応がよく分かるようになり安心出来た事もたくさんありました。

工学について何も解らない私ですが、みなさんへ一言だけ。『エンジニアになる』『高度な専門知識を身に付ける』等、目標を持ち入学してきたことと思います。五年間の高専生活では、楽しい事や苦しい事、厳しい事…いろんな経験をするでしょう。でも、『無駄なことは何一つない。自分の糧になる』と思って、経験していくてください。きっと未来に繋がっていくと思います。みなさんが自分の目標を見定め、一步一步努力し、目標に到達することを願っています。

新しい目標に向けて真っ直ぐに

電子制御工学科1年 理事 山下 浩明

「結果にコミットする」今年の流行語大賞には選ばれていませんでしたが、私のとしてはとてもインパクトのある言葉として記憶に残るものでした。というのも「結果にコミットする」以外に自分の本当に欲しいものは手に入らないと思っているからです。

我が家の長男が鹿児島高専に入学して早いもので、もう9か月が過ぎようとしています。3年程前、鹿児島高専の校門のあたりから、「こんな学校に入学出来たら最高だね」と家族でしばらく眺めていた記憶があります。

小学生の頃から手先が器用で、「モノづくりを仕事にしたら向いているかも…」とっていました。本人も高専の体験入学をきっかけに次第に興味を持ち始め、中学1年生の時には明確に鹿児島高専を志望校に決めました。そこからはブレることなく一直線に鹿児島高専入学を目指して勉強を始め、苦手な教科も何とか克服して無事に入学式を迎えたときは親子ともども本当に嬉しく思い、入学式での「諸君は生徒ではなく、学生です。」とのスピーチに誇らしさを感じました。まさに「結果にコミットした」成果だと思います。入寮が終わった帰り道に見た桜並木に夫婦してちょっとだけ涙してしまいました。

あれから8か月が過ぎ、今ではこちらから連絡しなければ息子からの連絡は一切なし。週末に帰ってくるのか、たまに帰ってくると、最初は寮での生活や学校の様子、部活動のことなど聞きながら、「ふーん、そうなんだ」「へー面白いね！」と楽しんで聞いていますが、そのうち、「5年後はどうするの？就職するのか？どんな会社に行きたいんだ？それとも専攻科に進んでから就職？さらに進学？どこの大学に行きたいんだ？」などと、息抜きに帰ってきたはずの息子に嵐のような質問攻めです。寮に送り届けてから一人反省することもしょっちゅうです。

そんな私ですが、これだけは言いたいと思います。高専に入学するという「結果にコミット」したことが今の自分であり、次はもっと大事な、人生を決める「やりたい仕事」を定めて一直線に最短距離で目指すことが大切だと思っています。

まさに「人生にコミットする」高専生になって欲しいと心から願います。

平成28年度 行事予定表

(4月～7月)
No.1



平成28(2016)年4月					平成28(2016)年5月					平成28(2016)年6月					平成28(2016)年7月																																																																																																													
曜 日	行 事		回 数	本 科 出 席	曜 日	行 事		回 数	本 科 出 席	曜 日	行 事		回 数	本 科 出 席	曜 日	行 事		回 数	本 科 出 席																																																																																																									
	本 科	専攻科				1 金					諸令交付式	1				13	1 日					13	13	1 水			7	37	1 金			11	11	2 土			2		2 月		水曜日の授業	3	3	2 木			8	38	2 土			33	33	3 日			3		3 火		憲法記念日	14	14	3 金		補講・特別研究	1	39	3 日			34	34	4 月			4		4 水		みどりの日	15	15	4 土			25	25	4 月			11	11	5 火		書式	1		5 木		こどもの日	16	16	5 日			26	26	5 火			11	11	6 水		入学式(10時)/入学式(14時)/開校記念式(15時) 前年度表彰/寮リニアフェスティバル(開始予定)	2	2	6 金			4	4	6 月
1 金		諸令交付式	1	13	1 日			13	13	1 水			7	37	1 金			11	11																																																																																																									
2 土			2		2 月		水曜日の授業	3	3	2 木			8	38	2 土			33	33																																																																																																									
3 日			3		3 火		憲法記念日	14	14	3 金		補講・特別研究	1	39	3 日			34	34																																																																																																									
4 月			4		4 水		みどりの日	15	15	4 土			25	25	4 月			11	11																																																																																																									
5 火		書式	1		5 木		こどもの日	16	16	5 日			26	26	5 火			11	11																																																																																																									
6 水		入学式(10時)/入学式(14時)/開校記念式(15時) 前年度表彰/寮リニアフェスティバル(開始予定)	2	2	6 金			4	4	6 月		補講・特別研究	2	40	6 水			12	12																																																																																																									
7 木		寮リニアフェスティバル(開始予定) 寮リニアフェスティバル(																																																																																																																										

平成28年度 行事予定表

(8月～11月)
No.2

平成28(2016)年8月										平成28(2016)年9月										平成28(2016)年10月										平成28(2016)年11月									
日	曜	本 科 出 席	回 数	行 事		曜	日	本 科 出 席	回 数	行 事		曜	日	本 科 出 席	回 数	行 事		曜	日	本 科 出 席	回 数	行 事		曜	日	本 科 出 席	回 数												
1	月	前期期末試験	6	15	78	1	木		68	68	2	日		98	98	1	火		1	火		5	5	107				5											
2	火	前期期末試験	7	15	79	2	金		69	69	2	日		99	99	2	水		2	水		5	5	108				5											
3	水	前期期末試験／インターン シップ事前マナー研修会	8	15	80	3	土		70	70	3	月	(特別)後学期授業開始／全 休大会	1	1	86	3	木		3	木		108	109		文化の日		108											
4	木	授業返却・解説	13	4	81	4	日		71	71	4	火		1	1	87	4	金		4	金		4	5	109			4											
5	金	授業返却・解説	15	5	82	5	月		72	72	5	水		1	1	88	5	土		5	土		109	110		後期学力・社会人選抜試験		109											
6	土		45	45	6	火			73	73	6	木		1	1	89	6	日		6	日		110	111				110											
7	日	一日体験入学	46	46	7	水			74	74	7	金	後学期選択科目受講前講習 ／前学期科目選考説明会	1	1	90	7	月		7	月		4	5	110		4年生工場見学旅行	4											
8	月	授業返却・解説	15	6	83	8	木		75	75	8	土	プロコン本戦(第3回)	100	100	8	火		8	火		6	6	111		4年生工場見学旅行	6												
9	火	(特別)授業返却・解説／LHR ／演習	15	7	84	9	金	運営会議	76	76	9	日	プロコン本戦(第3回)	101	101	9	水		9	水		6	6	112		4年生工場見学旅行	6												
10	水	(特別)授業返却・解説／LHR ／演習	13	8	85	10	土		77	77	10	月	体育の日	102	102	10	木		10	木		5	5	113		4年生工場見学旅行	5												
11	木	開校記念日学生代休／夏季一 斉休業日	47	47	11	日			78	78	11	火		2	2	91	11	金		11	金		5	6	114		4年生工場見学旅行	5											
12	金	開校記念日学生代休／夏季一 斉休業日	48	48	12	月			79	79	12	水		2	2	92	12	土		12	土		111	112				111											
13	土	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	49	49	13	火			80	80	13	木		2	2	93	13	日		13	日		112	113				112											
14	日	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	50	50	14	水			81	81	14	金	運営会議	2	2	94	14	月		14	月		5	6	115			5											
15	月	夏季休業開始	51	51	15	木			82	82	15	土		103	103	15	火		15	火		7	7	116			7												
16	火	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	52	52	16	金	校務進		83	83	16	日		104	104	16	水		16	水		7	7	117		後期学力・社会人選抜判定会	7												
17	水	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	53	53	17	土			84	84	17	月	後学期選択科目受講前講習 前講習	2	2	95	17	木		17	木		6	6	118			6											
18	木	後学期中間試験／成績入力・ 再試験前果入力開始(13時)	54	54	18	日			85	85	18	火	後期学力・社会人選抜願書受 付(21日まで)	3	3	96	18	金		18	金		6	7	119		後学期中間試験時間割発表 ／欠欄時記入開始(13時) ／校務進	6											
19	金	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	55	55	19	月		敬老の日	86	86	19	水	校内一斉清掃	3	3	97	19	土		19	土		113	114				113											
20	土	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	56	56	20	火			87	87	20	木	校内一斉清掃(予備日)	3	3	98	20	日		20	日		114	115				114											
21	日	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	57	57	21	水			88	88	21	金	高専祭準備リハーサル(休業)	4	4	99	21	月		21	月		6	7	120		後期学力・社会人選抜合格発表	6											
22	月	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	58	58	22	木		秋分の日	89	89	22	土	高専祭(文化祭)	5	5	100	22	火		22	火		8	8	121			8											
23	火	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	59	59	23	金			90	90	23	日	高専祭(体育祭)	6	6	101	23	水		23	水		115	116		勤労感謝の日		115											
24	水	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	60	60	24	土			91	91	24	月	高専学生代休	105	3	24	木		24	木		7	7	122			7												
25	木	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	61	61	25	日			92	92	25	火		4	4	102	25	金		25	金		7	8	123			7											
26	金	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	62	62	26	月			93	93	26	水	消防訓練	4	4	103	26	土		26	土		116	117				116											
27	土	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	63	63	27	火			94	94	27	木		4	4	104	27	日		27	日		117	118				117											
28	日	全国高等学校体育大会 (東海北陸地区)	64	64	28	水			95	95	28	金		3	3	105	28	月		28	月		7	8	124		後学期中間試験／成績入力・ 再試験前果入力開始(13時)	7											
29	月		65	65	29	木			96	96	29	土		106	107	29	火		29	火		9	9	125		後学期中間試験／欠欄時 記入開始(13時)	9												
30	火		66	66	30	金			97	97	30	日		107	108	30	水		30	水		10	10	126		後学期中間試験／欠欄時 記入開始(13時)	10												
31	水	校務会議(13時30分)	67	67							31	月		3	3	4	106																						
全国高専フォーラム()										地区別学校紹介・後援会支部総会										後援会支部総会										贈品保護者懇談会									
授業評価アンケート(4.5年生,専攻科生)										海外語学研修										中学生及び保護者のための学校説明会(本校、/鹿児島市)										JABEE技術者教育プログラムの説明(3年生の特別活動)									
英語弁論大会(有明高専:8/18・19)										学生交流(シンガポール)										学習・教育目標達成度の確認(4年生及び5年生、10:30-11:30時)										九州沖縄地区高専冬季体育大会(都城)									
										ISATE2016()										教職員集会										留学生バーデー									
																				特別研究Ⅱ・学修総まとめ科目履修計画書(慶信)の提出(10月中旬)										授業参観(1～3年生)									

平成28年度 行事予定表

(12月～3月)

No.3

平成28(2016)年12月					平成29(2017)年1月					平成29(2017)年2月					平成29(2017)年3月				
曜 日	日	回 数	行 事	本 科 出 席	曜 日	日	回 数	行 事	本 科 出 席	曜 日	日	回 数	行 事	本 科 出 席	曜 日	日	回 数	行 事	本 科 出 席
1	木	11	後学期中間試験	8	1	水	133	入学調整受付(7日まで)	134	2	木	134	後学期末試験	14	1	水	158	卒業式	160
2	金	9		9	2	木	135		135	3	金	135	補講／答案返却・解説	14	2	木	159		161
3	土	118		10	3	火	136		136	4	土	136	補講／答案返却・解説	14	3	金	160		162
4	日	119		11	4	水	137	仕事始め／開業(10時) 授業開始	137	5	日	137		14	4	土	161		163
5	月	120		12	5	木	138		138	6	月	138	補講／答案返却・解説	14	5	日	162		164
6	火	9		13	6	金	139		139	7	火	139	補講／答案返却・解説	14	6	月	163		165
7	水	8		14	7	土	140		140	8	水	140	特別研究Ⅱ発表会(学位審査会)／特別研究(1年)	15	7	火	卒業予定会議(13時30分)		166
8	木	8		15	8	日	141		141	9	木	141	補講／答案返却・解説	14	8	水	平成29年度前半学期時間割編成		167
9	金	9	運営会議	10	9	月	142	成人の日	142	10	金	142	補講／答案返却・解説	15	9	木			168
10	土	120		11	10	火	143	木曜日の授業	143	11	土	143	補講／答案返却・解説	15	10	金	通級判定会議(13時30分)／ 開任式(教員)／運営会議		169
11	日	121		12	11	水	144		144	12	日	144	補講／答案返却・解説	16	11	土			170
12	月	122		13	12	木	145	休講	145	13	月	145	特別研究Ⅱ発表会(学位審査会)／特別研究(1年)	16	12	日			171
13	火	10		14	13	金	146	特別研究Ⅱ論文提出開始(17時)	146	14	火	146	補講／答案返却・解説	17	13	月			172
14	水	9		15	14	土	147		147	15	水	147	補講／答案返却・解説	17	14	火			173
15	木	9		16	15	日	148		148	16	木	148	補講／答案返却・解説	18	15	水			174
16	金	10		17	16	月	149		149	17	金	149	特別研究(1年)	18	16	木			175
17	土	122	企業経営説明会(予定) 土曜授業(2016年度)	11	17	火	150	志学寮バレー(隊長選挙)	150	18	土	150	特別研究(1年)	19	17	金	卒業式		176
18	日	123	卒業生(高知出身)	12	18	水	151		151	19	日	151	卒業式	20	18	土			177
19	月	124	卒業生(高知出身)	13	19	木	152		152	20	月	152	卒業式	21	19	金	修了式		178
20	火	11		14	20	金	153	欠課時数入力開始(13時)	153	21	火	153	卒業式	22	20	土			179
21	水	10		15	21	土	154	推薦入学	154	22	水	154	卒業式	23	21	日			180
22	木	7	卒業生(高知出身)	12	22	日	155		155	23	木	155	卒業式	24	22	月			181
23	金	124	卒業生(高知出身)	13	23	月	156		156	24	金	156	卒業式	25	23	火			182
24	土	125		14	24	火	157		157	25	土	157	卒業式	26	24	水			183
25	日	126		15	25	水	158		158	26	日	158	卒業式	27	25	木			184
26	月	127		16	26	木	159		159	27	月	159	卒業式	28	26	金			185
27	火	128		17	27	金	160		160	28	火	160	卒業式	29	27	土			186
28	水	129		18	28	土	161		161	29	水	161	卒業式	30	28	日			187
29	木	130		19	29	日	162		162	30	木	162	卒業式	31	29	月			188
30	金	131		20	30	月	163		163										189
31	土	132		21	31	火	164		164										190
学生会長立会談(卒業生)					TOEIC Bridge (1～3年生)					学生会交流(普通VTC/IVE、ターミネータリオン)					合格内定者登校日(合格発表)				
特別研究Ⅰのポスターを用いた討議(12月上旬)					学生会リーダー研修					卒業生交流(普通VTC/IVE、ターミネータリオン)					卒業生交流(普通VTC/IVE、ターミネータリオン)				
きりしまチャレンジデー					学生会主催行事・学生総会予備日(12/21)					卒業生交流(普通VTC/IVE、ターミネータリオン)					卒業生交流(普通VTC/IVE、ターミネータリオン)				

回数欄 本科出席すべき日数 178日(授業日 150日、■試験日 16日、■学校行事 12日) ■休み 187日
※ ■ 専攻科特別指導日

編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第70号をお届けいたします。

今回の特集は本校における「地方創生」の取り組みについてです。鹿児島大学を中心とした地方創生事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(略称COC+)」に本年度採択され、県内5大学、2短大と手を携えてスタートしました。本事業についてまず植村教授には「COC+とは」と題し概要を、楠原教授には「本校におけるCOC+の取り組み」と題し詳細についてご執筆いただきました。

第68号で特集した「9高専連携事業」をグローバルな人材育成を目的とした「本校と海外」との連携強化事業、とすれば本誌特集の「COC+」は、「本校と地元」との連携強化と位置づけられます。世界と地元、一見相反する2つの取り組みが志向するのは「鹿児島から世界へ発信する人材」の育成です。学校をあげての取り組みであり、今後もプロジェクトの課題や現況、成果などを報告していきたいと思います。

今年度は日本からノーベル賞受賞者が2名誕生しました。昨年度も受賞を果たし、物理学では2年連続の受賞となりました。また理化学研究所による新元素の発見も日本発の大きなニュースとなりました。不穏な事件も多かった一方で、このような「日本発」が世界を賑わせた年でもありました。

また2015年は戦後70年の節目の年でもありました。不安定な世界情勢を見つめ直し、戦争と平和について改めて考える機縁となりました。本誌も同じく70回目の節目を迎えました。高専の今年を見つめ直し、未来に思いを巡らせるきっかけとして本誌をご覧いただければ幸いです。

最後になりますが、「鹿児島高専だより」の発行にあたり、ご多忙の中、原稿執筆を快くお引き受けいただきました執筆者各位に対しまして、委員一同厚く御礼申し上げます。

一般教育科文系 田中 智樹

「高専だより」専門委員会委員

委員長	田中 智樹（一般教育科文系）
委 員	村上 浩（一般教育科理系）
	椎 保幸（機械工学科）
	井手 輝二（電気電子工学科）
	吉満 真一（電子制御工学科）
	豊平 隆之（情報工学科）
	毛利 洋子（都市環境デザイン工学科）

担当事務 田尻 正和（総務課企画係長）

「鹿児島高専だより」第70号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1